列箇所の後方には木造葭簀張假便所三箇所を設備した。

電話設備　一階應接室及二階唱歌室に電話設備を施し、更に教室は列外區從者事務係員詰所に充て、通話用の磁石式甲號卓上電話機を各室毎に一箇宛設備し、又一階應接室より濱町公園への通話用として專用電話一箇を設備したる外、事務連絡用として二階唱歌室と一階應接室とに加入電話線各一回線を本市廳舍より移轉假設した。

ロ　築地病院設備

御座所　御座所は同院三階講堂とし、講堂西側窓に日除及窓掛を取付け日除は白色、窓掛は淡紅色共色模樣織出し「緞子」とし、金物は眞鍮製とし宣德色に仕上げ、窓掛縁掛紐は絹クルミ繰り帛付紐とし引紐は木綿紐を取付け、尙ほ同室中央東西兩側に、大さ一尺五寸角、高二尺二寸の下地木製上部及四方共淡褐色羅紗張としリボンにて縁取を施したる花臺二箇を設け、盆栽を配置した。尙ほ同室南側なる取付机上には一尺に一尺五寸の白色金巾を以て張包みたる花鉢敷板二枚を設備し、盆栽を配置したる外兩側にある「ボールド」中央に下地木枠を作りて築地病院圖面を張付け、各圖面周圍は淡褐色リボンにて縁止をなし、同「ボールド」兩側取付と「ボールト」には額掛金物二箇所を取付け、魚市場說明圖と東京港灣說明圖とを取付けた。尙ほ同室東側壁面に同樣地圖掛金物を取付け、市設社會事業分布圖を掲出した。各額及地圖說明の爲、圖指鞭二本を用意した。御通路筋の各室窓二十一箇所には目隱兼用として淡黄色布を取付け金物は眞鍮製とす。更に三階御座所附近一室を御厠室に充て、床は白色キヤラコ布張りとした。

御展望所　箇御展望所は屋上に設け、直徑五尺高二尺の丸形机を天笠白布二枚包として東側に一箇所を配置し、机上に地圖押へとして厚二分の硝子を一箇所に二枚つつ設け、更に市設魚市場模型を病院屋上に運ひ、東側御展望所机左側に配置した。

其の他　病院前周圍の假建物の如き御目障りとなるものは一切之を撤去し、病院玄關前道路築造工事を行つて植樹して全貌に裝飾を施した。

ハ　上野恩賜公園御展望所設備

上野恩賜公園御展望所は、園內西郷銅像前高臺に定め、三月二十二日御展望臺を設備し、構造は豫め地盤高低を引均し、橫二十一尺縱十五尺の地取りをなし、三寸角材を以て土臺・柱・臺輪等を組合せ、要所を全部堅固に釘打付けして高さ四尺二寸の臺となし、床全面には麻製敷物を鋲にて叮嚀に張付け、尙ほ階段は蹴上六寸段幅一尺とし、床臺と同樣踏面に敷物を張り付けた。御展望臺に設備したる机は長さ六尺巾三尺五寸、地上高二尺六寸とし白金巾を以て二重に包被し鋲止とし、又以上御展望臺周圍一部には紅白の幔幕を繞らして極めて質素なる設備を施した。

ニ　震災記念堂設備

震災紀念堂の設備は三月十八日、堂舍竣功と共に周圍の足場を取拂ひ、內部は納骨堂の兩側に震災當時の記念物百四十一點を陳列したる外、堂前に天幕二棟を張りて奉拜所を設け、其の他休憩所設備及庭園の手入を行ひ、正門及側面には國旗を掲揚し、周圍には紅白幕を繞らした。

ホ　各御立寄箇所奉拜設備

馬場先　東京市立小學校教職員並兒童及市青年訓練所・青年團・女子青年團・在郷軍人團等の各代表者奉拜席は馬場先門廣場・警視廳側歩道に設備し、前列は巾一間・延長百八間の莚敷とし、後列は幅二間・延長百八間の立席とし、後方芝生に木造天幕張假便所二棟を設け、周圍を紅白幕張とし、同芝生には六坪の天幕張湯呑所を設置し、机・茶碗・藥鑵を取揃へて人夫を配し、其の他救護所を設置した。

次に市會議員・同待遇者・土地區劃整理委員及市吏員の奉拜所は、二重橋前左側を指定し、前列巾三尺、延長四十間莚敷の立席とし、後方芝生に天幕張六坪の湯呑所を設けた。

九段　九段奉拜所の位置は偕行社前右側歩道を指定し、本市區會議員・同待遇者・土地區劃整理委員の奉拜所に指定し、前列は巾一間、延長十三間の莚敷、後列は幅二間、延長十八間の立席とし、前後列は境界線を設けて標示した、尚ほ土地區劃整理委員の奉拜席は九段坂上近衞歩兵第一・第二聯隊正門前右側とし、前列は幅三尺延長八間の莚敷、後列は幅一間、延長七間の立席として境界線は紅白布卷細張りとした、湯呑所は列の後方に設け、諸事の用意を整へた。

築地病院　築地病院奉拜位置は病院正門に至る道路兩側に定め、同所の奉拜者は本市名譽職同待遇者・土地區劃整理委員・築地病院職員・海軍々醫學校教職員並同校學生とし、廣場公園側は芝生上に莚敷として團體奉拜の表札を揭げた、其の他後方に天幕張休憩所湯呑場を設けて人夫を配屬し、北門橋際兩側に大國旗を揭げ、海軍々醫學校と病院及公園との地界並病院西側（護岸と本館との間）に目隱用紅白幕を引廻した、又地階と一階との通行を遮斷する爲、地階降り口に人止柵を設けた。

上野恩賜公園　上野恩賜公園には市・區名譽職員の奉拜所を設備し、御巡幸當日は特に、櫻ヶ岡日本美術協會前・五條天神前の一般通路を遮斷し、遺漏なきを期した。

震災記念堂　震災記念堂前には市區名譽職員及財團法人震災記念事業協會々員の特別奉拜席として天幕二張棟を設けた。

三　奉迎塔建設

東京市は復興帝都御巡幸奉迎の爲、馬場先門跡に奉迎塔を建立し、工事は左の設計樣式によりて二月二十五日に着手し三月三十一日竣功の豫定である。

奉迎塔　中央道路を隔てて二箇の塔を左右均齊に對立せしめ、各塔は中央側の本塔とそれに對立する小脇とを以て成る、中央道路の幅は三十九尺、兩側本塔と小脇との間隔は二十二尺五寸、本塔の高さは總高六十六尺五寸、小脇の高さは二十九尺五寸とし、本塔の前後には三連の幡旗を立て、本塔の中央部は總て杉緣・張腰は高さ四尺の松皮付丸太張黑の棕梠繩卷とし、本塔の正面には垂直に紅白幕を張上げ、中央に「奉迎」の文字を押繪にて取付く、上層は三層とし八角形大彭形のものを二層、其の上に朝顏形裝飾一層、最上部は八角錐形、總て木製又は「ブリキ」製とし、特に色彩の調和に意を用ひ、之か文樣は紅黃綠色のペンキにて裝飾を施して太彭形の部は日本風欄干樣のものを水平に突出し、朝顏形の部は八角形の角隅々に木製風鐸を垂る小脇は本塔同樣、八角形にして杉緣葉張として上部は紅白幕を「パラペット」型に張り小脇前後には「東京市」の三文字を押繪にて取付け、本塔と小脇とは杉緣葉張の楣を掛け、上部には小脇同樣・紅白幕「パラペット」を附した。

街路樹裝飾　奉迎門前面植樹帶内に紋片地綾織に纓綱錦の縫縁を取りたる幡旗三旒を左右四箇所宛竝列せしめ、其の間を紅白布・杉葉「チャーレン」を以て連結裝飾した。

電燈設備　奉迎門細部の裝飾は本塔の上部及小脇上部は臺輪の蔭其の他に光源を隱したる小燭光の電球を反射笠に取付けて照明する裝置を施こし尙本塔最上部の朝顏形及八角錐形は點滅器を以て靑色及無色の電球を交互に點滅し、照明に變化を與へ其の他投光器を各植樹帶内及石垣上に据ゑ、奉迎門及幡旗を照明して描出せしめ、使用電球は十燭光七十二箇・十六燭光八十八箇・三十二燭光百六十箇・五十燭光二百八箇・百ワット四箇を用ひ點滅器として四分の一馬力電動機二臺・投光器は三十箇・五百ワット電球を使用した。

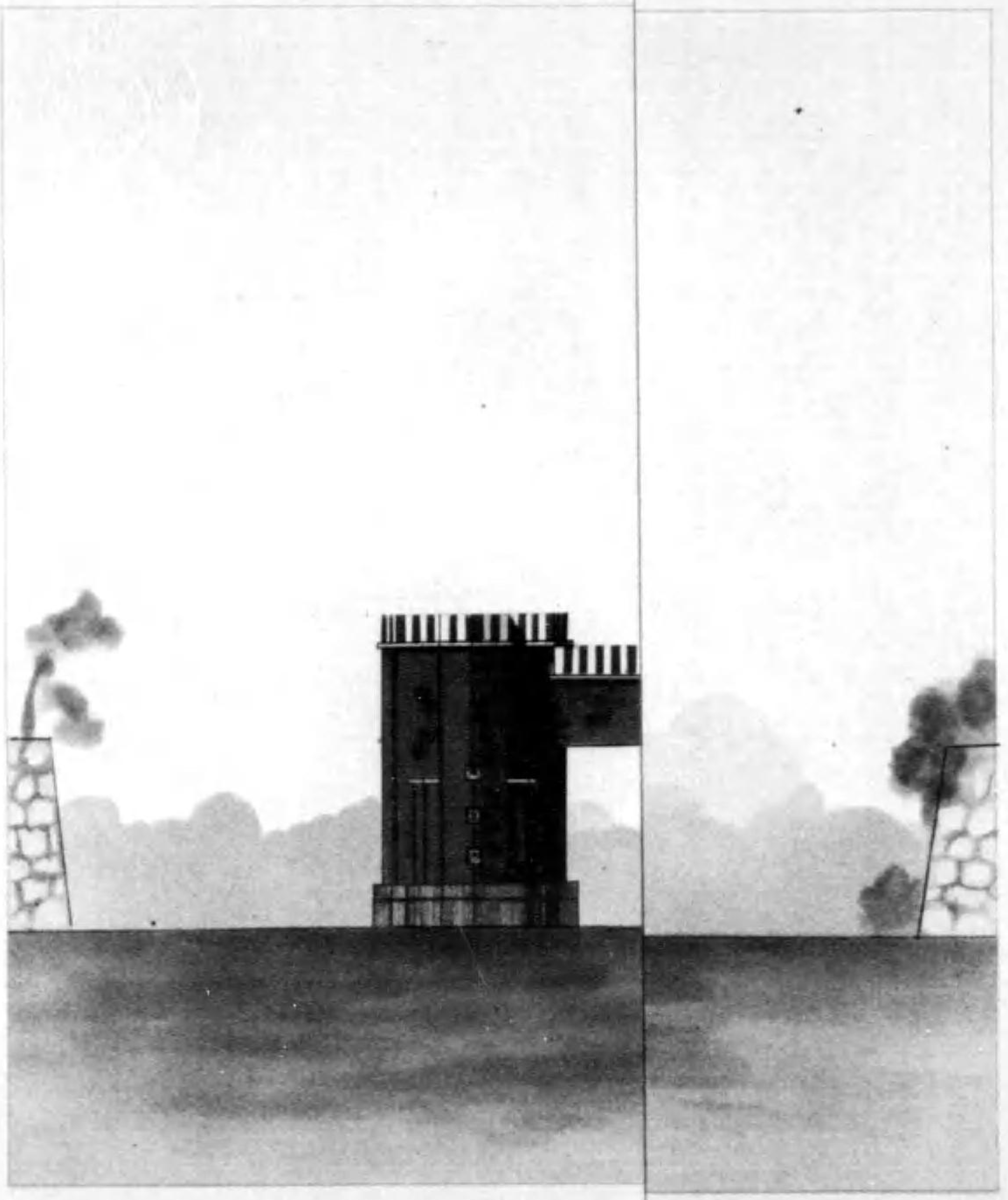
四　市廳舍正門竝玄關裝飾

市廳舍正門の裝飾は兩脇門柱より丸太にて合掌架渡したる上に、紅白幕を垂れて之を絞り上け、兩脇の鐵柵は同樣、紅白幕を張付けた、玄關車寄は正門及兩脇五箇所の「アーチ」の下部に本モス地紫色の垂幕を「アーチ」形に絞上け、玄關露臺手摺の前に押繪を以て「奉迎」の二文字を取付けた。

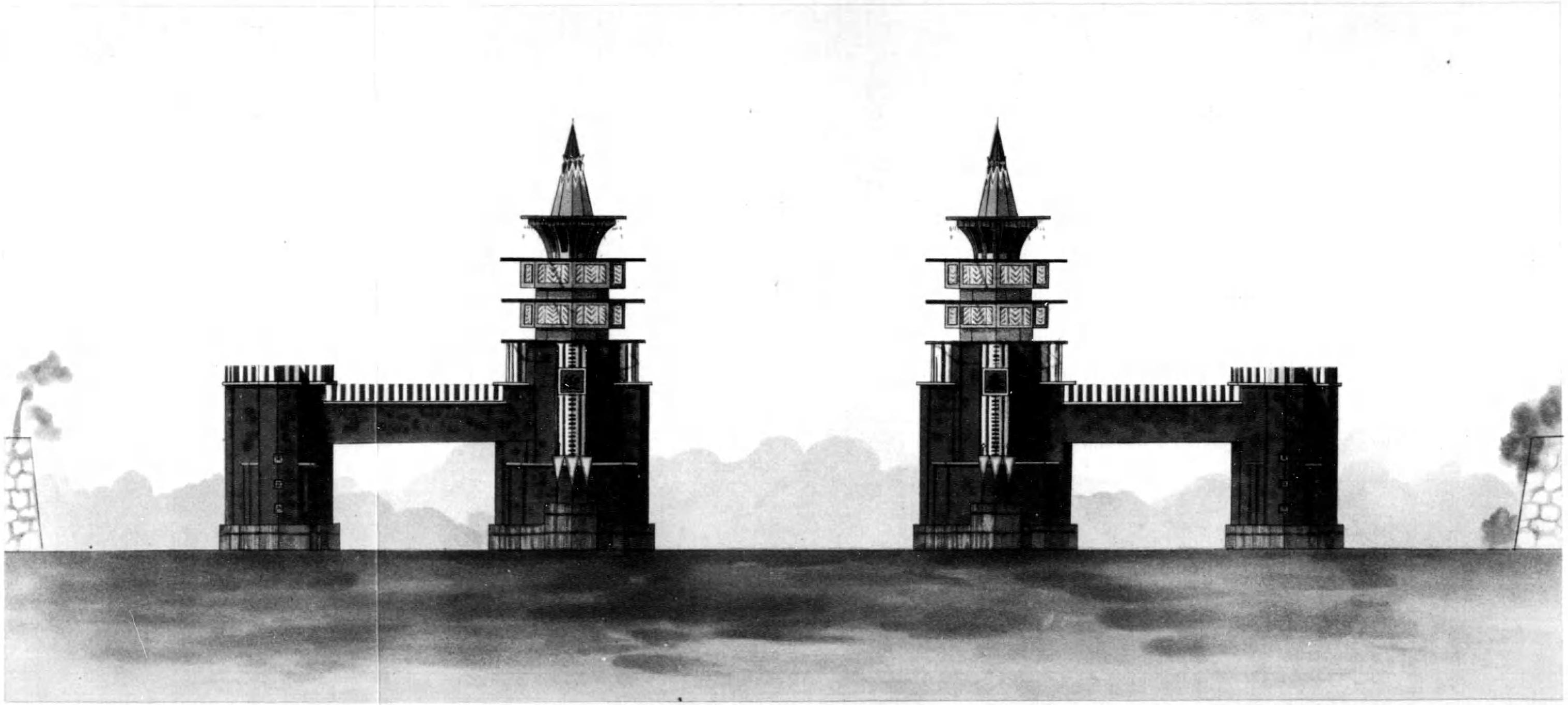
五　電氣設備

イ　花電車

花電車製作は三越、高島屋、松屋、松坂屋、白木屋の五商店を指定し、豫め各店より設計圖を作成提出



露光量違いの為重複撮影



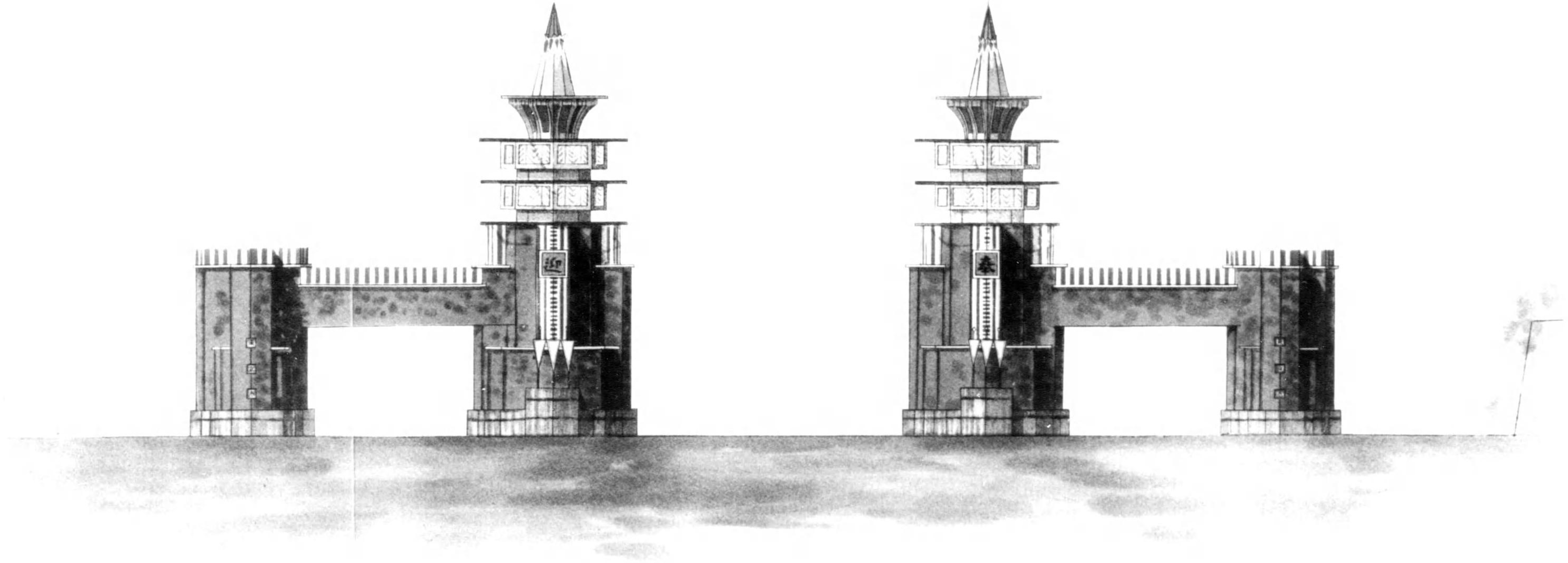
奉迎塔

五　電氣設備

イ　花電車

花電車製作は三越、高島屋、松屋、松坂屋、白木屋の五商店を指定し、豫め各店より設計圖を作成提出

露光量違いの為重複撮影



奉迎塔

五　電氣設備

イ　花電車

花電車製作ハ [illegible] 設計圖を作成提出

せしめ、これを比較對照して嚴選の上指名先を決定した、而して期日までに提出なき商店を除き、提出したる三越、高島屋の設計圖を審査の結果三越の三輛、高島屋の四輛を採用することになつた、各電車の製作內容は左の如くである。

光　輝

用材は乾燥充分なる良材を使用し、表面削仕上げ布張りとし、綠系統「エナメル、ペイント」五色塗り仕上げとす

中央の球は表面鏡及裏面より「エナメル、ペイント」を塗り、硝子の小片を「パテ」付とす

球は下部の電動裝置により一分間、約三回轉せしむるものとす

花鉢は基座を挽物に、上部は板金製となし、東京市の「マーク」を浮彫となす、着色は金色仕上とす

造花は紙又は布製西洋花を用ふ

車體腰卷は「モスリン」を使用し、渦紋模樣の染出し仕上げとなす

運轉臺前面は四段の傾斜面を附し、四色染分けとなし、上端に東京市の「マーク」を中心とせる布製造花の飾付となす

人形は天使二體を梁木より垂下す

電氣裝置

球の廻轉裝置用モーターは二分ノ一馬力とす

運轉臺前面東京市「マーク」の內部に六十ワット電球一箇を裝置す

運轉臺前面裝飾の脚光として六十ワット六箇を裝置す

梁木竝腰部には三十ワット色電球を七百五十箇を取付けるものとす

梁木に這せたる造花竝花壇花鉢の盛花には色電球を適宜、見計ひ取り付けるものとす

梁木の內側より一キロスホットライト四臺を以て球を照明するものとす

附記

衣裳の色合品質飾付竝照明工事に付當局に於て不適當と認むる箇所を生したるときは指示の通り施行するものとす

黎　明

別紙設計圖により用材は乾燥充分なる良材を使用し、表面削仕上け「エナメルペイント」塗仕上けとす

屋臺は「ルネッサンス式（復興式）」を採り、全部金色仕上けとなす

裝飾の主體は子供の積木細工による大建築物の群圖を表はし、復興の大東京を表徵するものとす

模型建築物の窓は切拔とし、色硝子を嵌入す

模型建築物は木材を主とし、硝子板金「エンソボード」等、適宜使用し、塗料は「エナメルペイント」を用ふ

運轉臺正面は東京市「マーク」を中心として七色塗分けとし、之に布製西洋花を以て飾付くるものとす

車臺腰部は約一尺五寸間に薔薇の大輪を取り付け、花と花の間には其の葉を點在せしむ

腰部薔薇花を基準として西洋花の束紐及紅白の布を以て裝飾す

腰卷は「コバルトブリユー」の濃淡四段に染分けの幕を以て飾る

人形は十二歲職工服男兒一人、八歲職工、男兒一體、十歲職工服男兒一體、八歲洋服女兒一體合計四體を配置す

電氣裝置

運轉臺前面東京市の「マーク」は切拔とし、內部に六十ワット球を一箇裝置す

運轉臺前面薔薇花の芯には三十ワット色電球九十箇を裝置す

車體腰部薔薇花六十四箇に各花芯に六十ワット色電球を裝置す

屋臺欄間東京「マーク」の中央は三十ワット色電球五十二箇を裝置す

模型建築の內部に六十ワット電球三十箇を適當の位置に裝置す

屋臺欄間內面に「カラーレー」付「ボーダーライト」八本を取り付け、模型建築物を照明す（「ボーダーライト」一本には百五十ワット電球五箇を裝置す）

窓及「ボーダーライト」は點滅裝置を施し、左の如き照明をなす

窓に點燈したる場合は「ボーダーライト」は月光色となす

窓に點燈せさる時は「ボーダーライト」は普通照明となす

模型建築群の兩側面脚部に一キロ「スポツトライト」を据へ、之に「カラーホイール」を取り付けて種

々の色光線を群集建築に與ふるものとす

附記

衣裳の色合品質飾付竝照明工事に付き當局に於て不適當と認むる箇所を生したるときは指示の通施行するものとす

復活

別紙設計圖により用材は乾燥充分なる良材を使用し表面削上け「エナメルペイント」塗仕上とす

車體四隅に柱を建て柱の三方に十二箇連續せる提箇を垂下し欄間の部分は極彩色を施せる雲形を架す中央ポール用柱を芯として櫻の大木を拵へ四方に枝を掛け渡し滿開の櫻花を造花にて取り付く

床面には牡丹菖蒲躑躅の造花を以て飾る

運轉臺前面及昇降口には牡丹菖蒲躑躅の造花を以て飾付をなす

車體腰卷は紅白染拔きの「メリンス」幔幕を尙運轉臺前面も腰卷同樣の模樣を以て裝飾をなす

人形は花咲爺一體十二三歲洋服男兒一體十歲海軍服男兒一體十歲友禪モス着付女兒一澧七八歲友禪モス着付女兒一體合計五體を立て込むものとす

電裝氣置

櫻花牡丹菖蒲躑躅の花中に各花の色彩と可成類似の三十ワット百六十箇の色電球を點し之を三段切替「デンマー」を以て色彩の變化を與ふるものとす

車體四隅の連續提燈各一箇毎に三十ワット電球を裝入す

腰廻造花の芯に三十九箇の六十ワット色電球を裝置す

雲形內面の要所に反射笠六箇を取り付け全體照明の補助となす

人形五體には各々反射笠を以て脚光を與ふるものとす

床面造花の間々に十箇の反射笠を適宜の場所に配置し充分なる照明をなす

反射笠に使用する電球は總て百五十ワットとす(以上三越吳服店提出)

音樂車

組立材料は極乾燥したる良材を使用す屋臺外廓は木材「ペイント」塗仕上け圖畫の通り押繪裝飾す

中央柱は緋緞子張とし上部に電燈裝飾を施す

四方上部裝飾は紋緞子を使用し金箔丸「フレンヂ」を附す

「カーテン」は紋緞子染分暈しとして括り房を附す

天井は金屬製張りとし美麗なる仕上けとす

四隅八角形化粧柱は木材と結晶硝子「ペイント」の彩色のものとし內部に照明燈を裝置す

八角切子燈は同しく裝飾美麗なる硝子嵌込とし照明燈を裝置す

床は赤色敷込とし手摺上部木材使用腰厚布張りとし金粉「ペイント」模樣の彩色とす

車掌臺外面中央に市「マーク」木彫金箔押とす

臺腰廻り及車掌臺外面周圍は天鵞絨張とし押繪裝飾電球を取付ける

下幕は本「モスリン」地圖案の模樣染上けとす

電氣裝置

屋臺上部四方柱露出球	四十ワット	九十二箇
腰周圍車掌臺外面	四十ワット	百　箇
四方化粧柱照明	管球	二十四箇
中央柱周圍	百ワット	六　箇
樂人照明	百ワット	六　箇
脚光	管球	十八箇

樂隊一組を乘込ましむ

衣裳の色合・品質・飾付竝照明工事に付當局に於て不適當と認むる箇所を生したるときは指示の通施行するものとす

天の岩戸

組立材料は極乾燥したる良材を使用す

屋臺外廓は木材「ペイント」仕上けとし、瑞雲は押繪仕上けとす

天井は空色張とし御光にふさわしき星を配置す

中央の建築模型は木材洋館にしつらへ化粧窓其の他意匠萬端精巧を極め、岩は裂地張の彩色仕上けとす

周圍に小岩の配置をなし、岩戸の有樣を表現す

御光は紅羽二重を使用し、光線は金線にて仕上くるものとす

鷄は白色押繪に手工し實物の羽根を配合す

二神は人形を使用し女神は廻轉仕掛けとし、衣裳は絹製高尙なる仕上けとす

車掌臺腰臺廻りは四臺共同一の天鵞絨張裝飾とす

下幕は圖案通り本「モスリン」染上けとす

電氣裝置

屋臺上部周圍露出球	四十ワット	九十二箇
腰廻り車掌臺外面	四十ワット	百　箇
中央洋館內部照明點滅	百ワット	十八箇
同エルミネーション	小球	二百五十箇
造花用	小球	五十箇
人形照明	二百ワット	六　箇
人形廻轉モーター		一　臺
洋館點滅用モーター		一　臺

衣裳の色合・品質・飾付竝照明工事に付當局に於て不適當と認むる箇所を生したるときは指示の通施行するものとす

鳳凰

組立材料は極乾燥したる良材を使用す
屋臺外廓は木材「ペイント」塗仕上けとす
天井は紅裂地張とし瓔珞は金屬造花を裝置す
中央の大額面は繪絹に日本畫（密畫）を揮毫し復興の大東京の場面を選定す
額縁は金襴を使用す
鳳凰は押繪式金箔仕上け部分に金屬を應用し臺は雛段に作り赤天鵞絨張とす
手摺四方柱は丸材欄干は角材とし塗色圖面通り「ペイント」仕上け本金鍍金の金物を使用す
手摺の小間内には彫刻切拔を嵌入す
車掌臺腰廻りは市の「マーク」天鵞絨張押繪裝飾等四臺揃ひ仕上とけす
下幕は本「モスリン」圖案の通染上とす

電氣裝置

屋臺上部周圍露出球	四十ワット	九十三箇
腰周圍車掌臺外面	四十ワット	百　箇
大額照明	管球	三十六箇
鳳凰背面周圍	四十ワット	三十六箇
鳳凰照明	二百ワット	六　箇

衣裳の色合・品質・飾付竝照明工事に付き當局に於て不適當と認むる箇所を生したるときは指示の通施行するものとす

復興踊

組立材料は極乾燥したる良材を使用す
屋臺外廓は木材「ペイント」仕上けとし紅白絹の幕を張廻し裝飾押繪仕上けとす
天井は空色布張とし櫻柳の吊下造花を配置す
屋臺の廻りに復興踊りの提燈を吊り下部に紅房を附す
中央柱四隅柱に雪洞化粧燈を取付け造花を施工す
復興踊人形現代風の意匠的模樣染の衣裳を着付け四體取付く
床の周圍に山形の薔薇の造花を美麗に配置す
腰廻り車掌臺は四臺共同一の天鵞絨張裝飾とす
下幕は圖案通り本「モスリン」染上けとす
復興祭奉祝の高聲蓄音機を應用す

電氣裝置

屋臺上部周圍露出球	四十ワット	九十二箇
腰廻り車掌臺外面	四十ワット	百　箇
提燈球	四十ワット	三十六箇
雪洞	四十ワット	十四箇

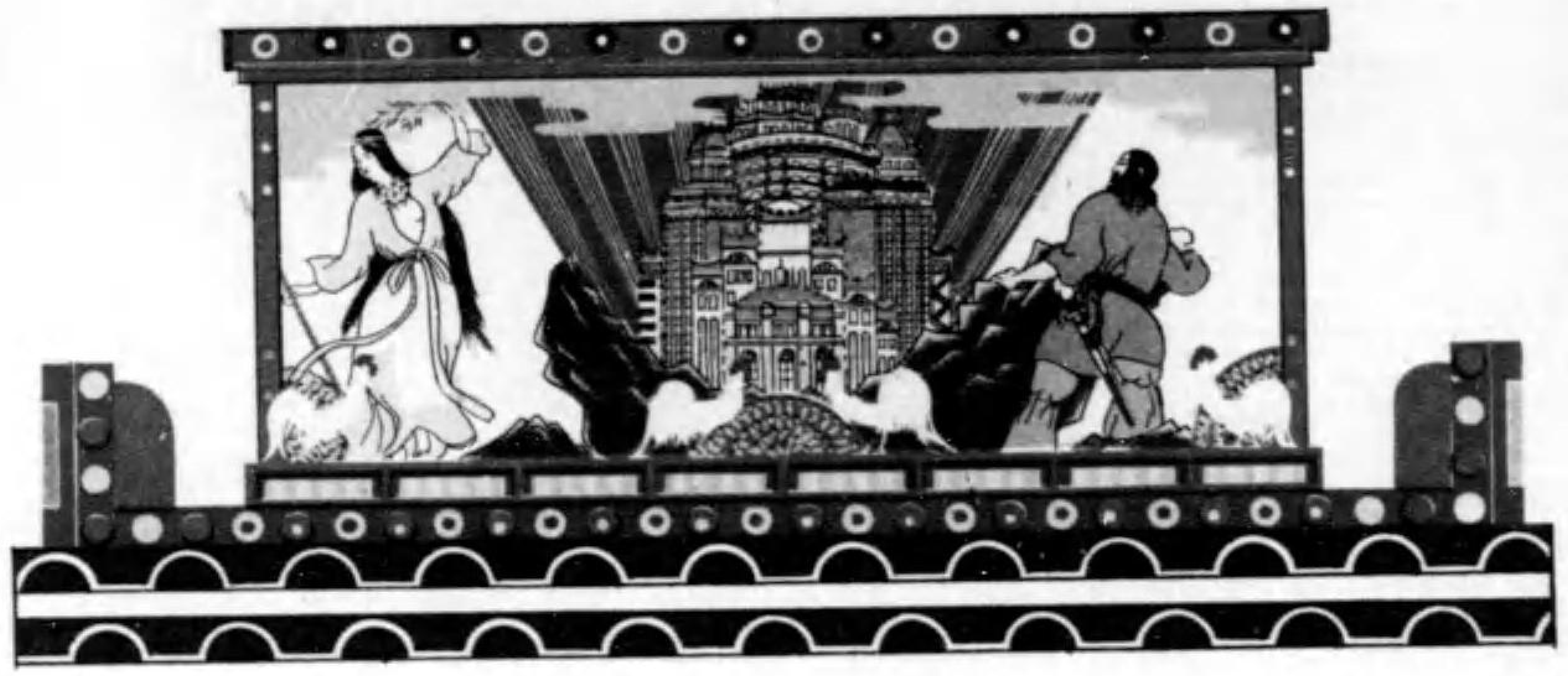
薔薇造花　　薔薇球　　百二十箇
人形照明　　貳百ワット　　六　箇
衣裳の色合・品質・飾付竝照明工事に付き當局に於て不適當と認むる箇所を生したるとき指示の通施行するものとす

ロ　電燈設備

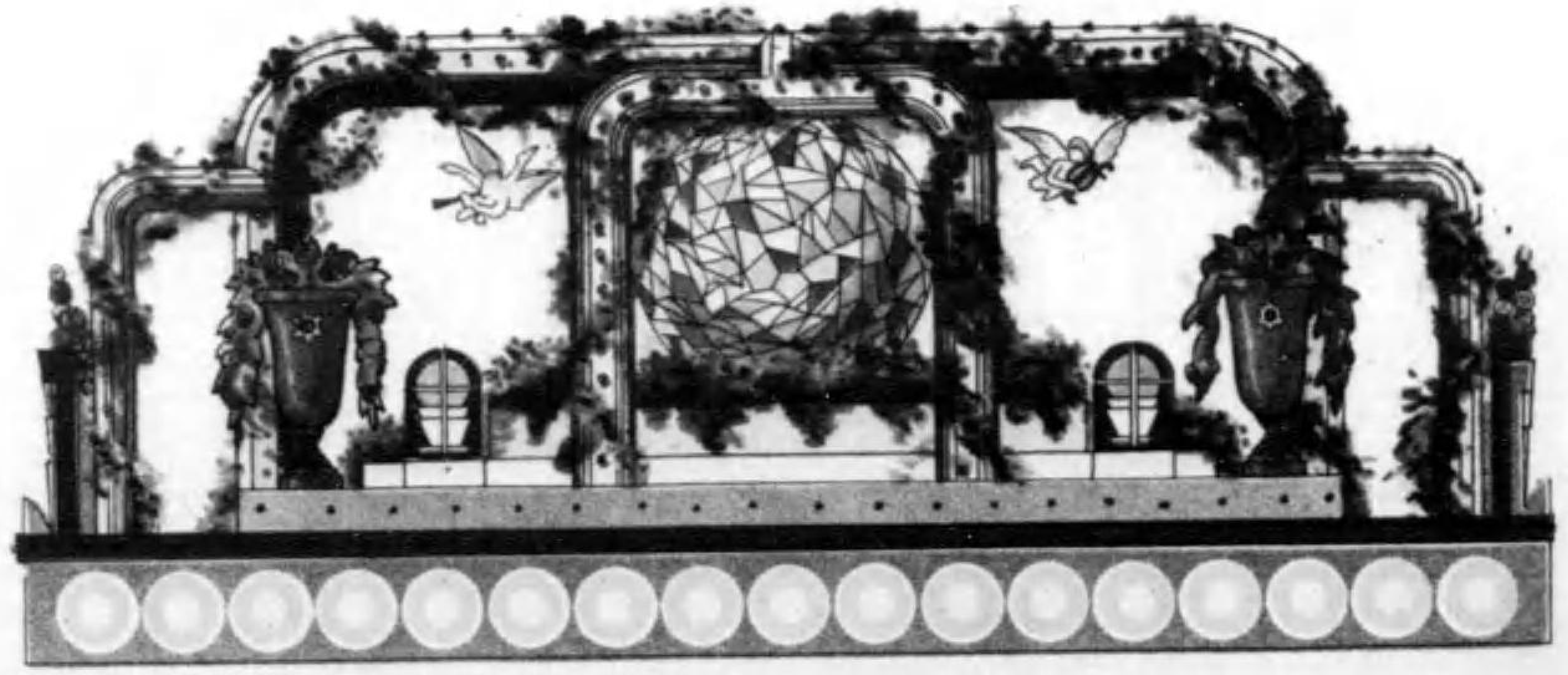
御巡幸御道筋の電燈措置は左の如く設備を施したる上警戒方針を樹てた。

一　御道筋街路竝其の附近に於ける配電線路及引込線に故障なからしめたること
二　右區間内電氣需要家の屋内電氣工作物(街路電燈を含む)に付故障なからしめたこと、街燈にして晝間點燈するものは之を消燈したること、御立寄箇所に該當する場所に於けるものに付ては特に意を用ひたること
三　前項の擔任區分

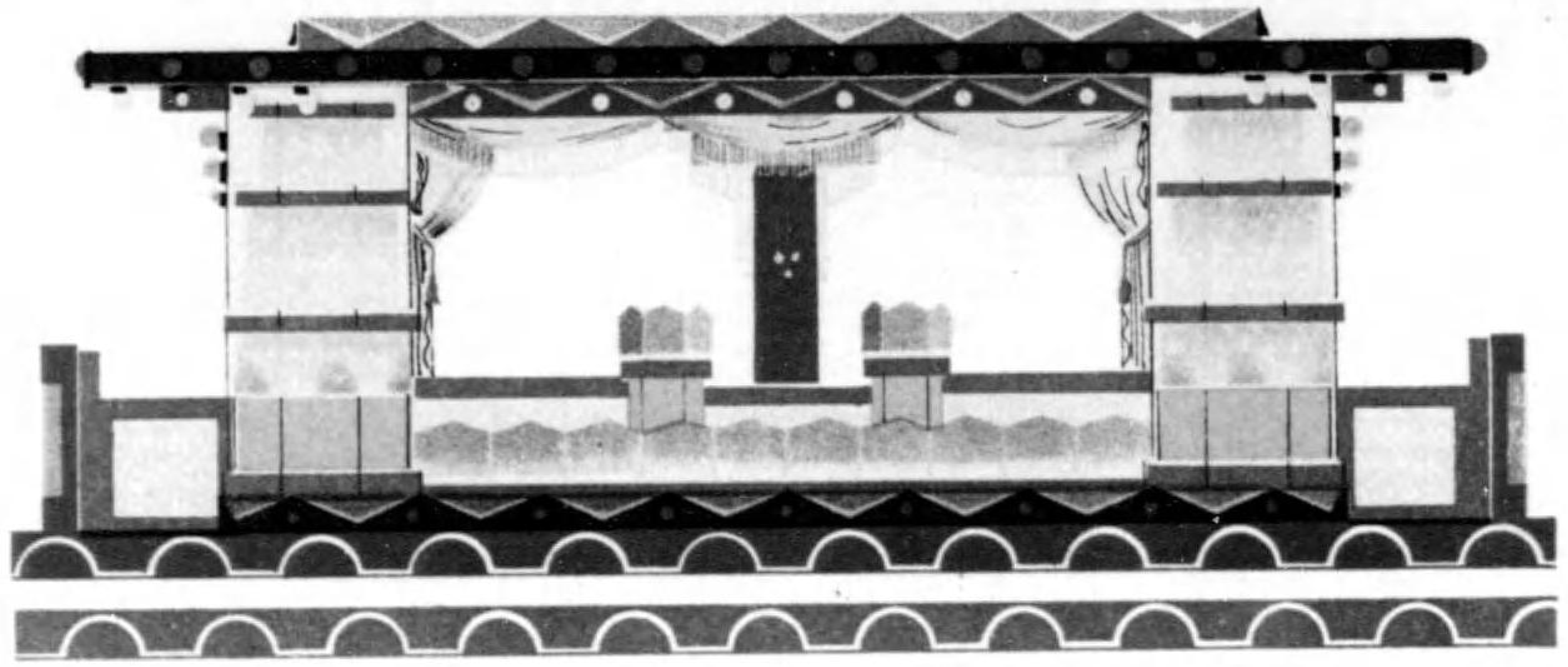
第一の擔任
小石川建設所
小石川　本郷　下谷　淺草　本所　深川の各區内
赤坂建設所
麴町　神田　日本橋　京橋　芝の各區内
第二の擔任
京橋出張所



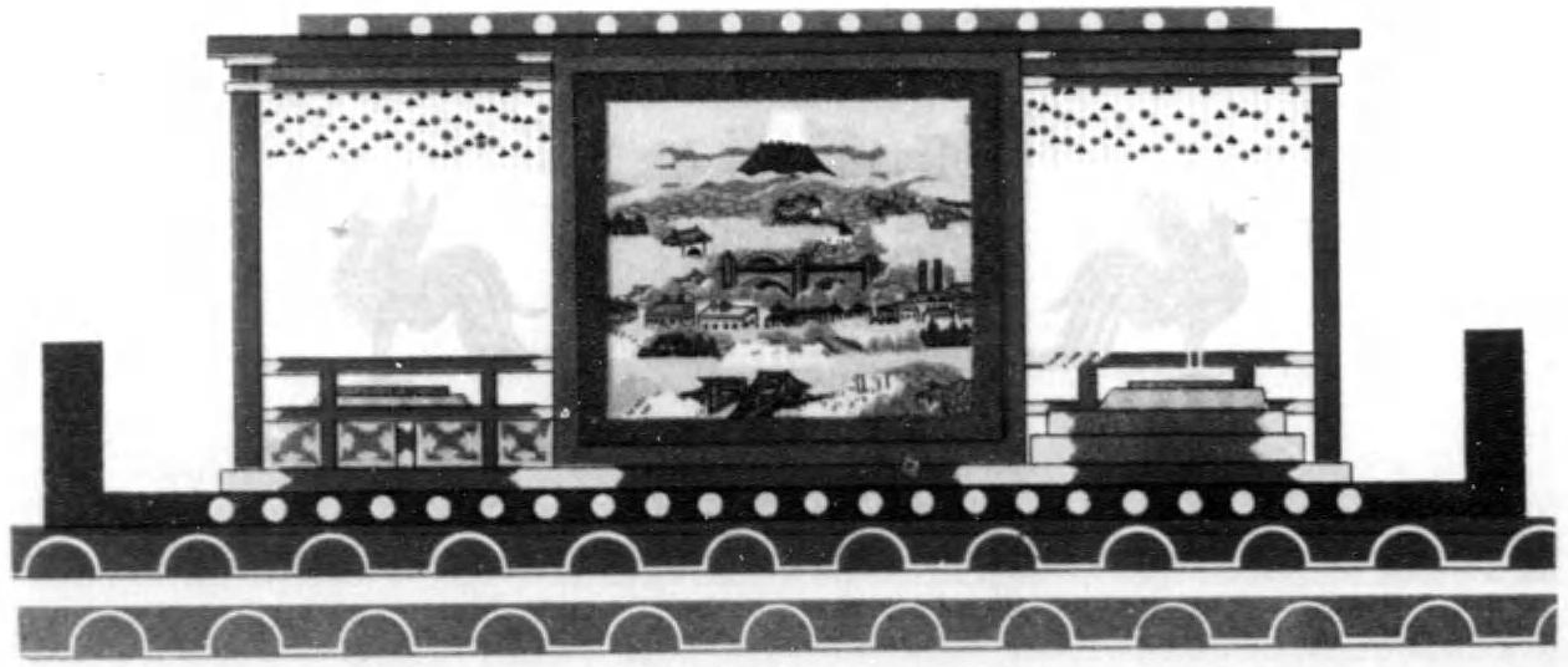
天の岩戸



光輝

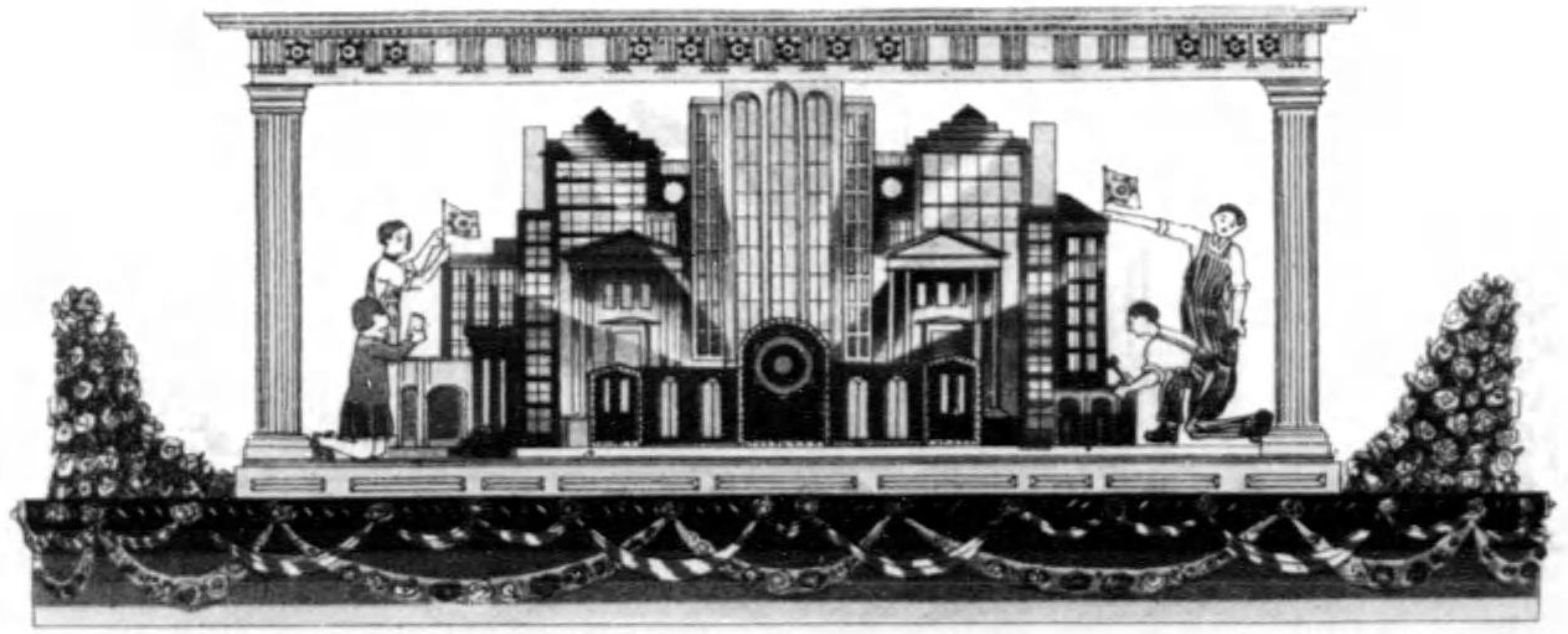


音樂車



聖壽萬歳

花咲く春

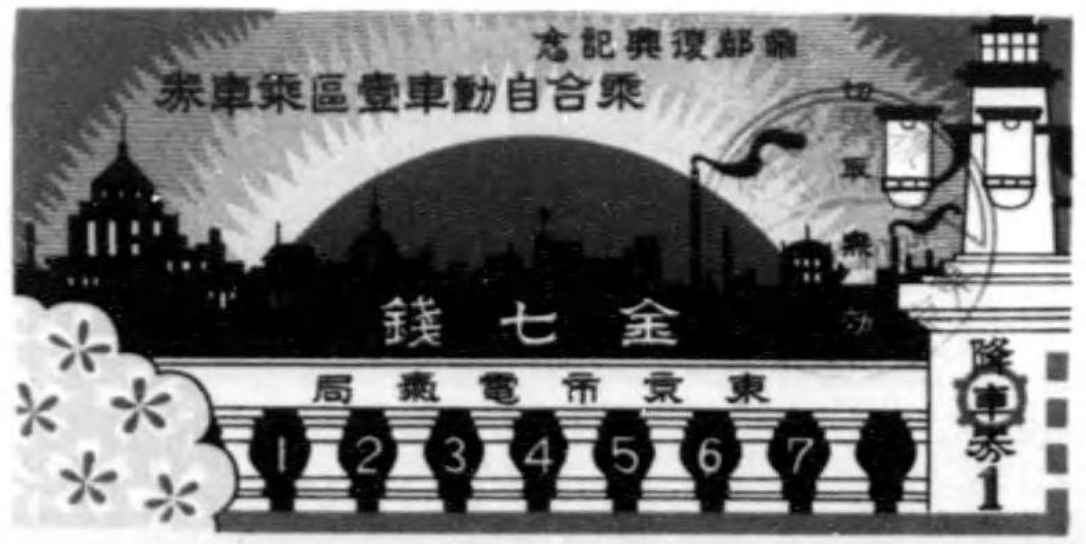


復活

露光量違いの為重複撮影

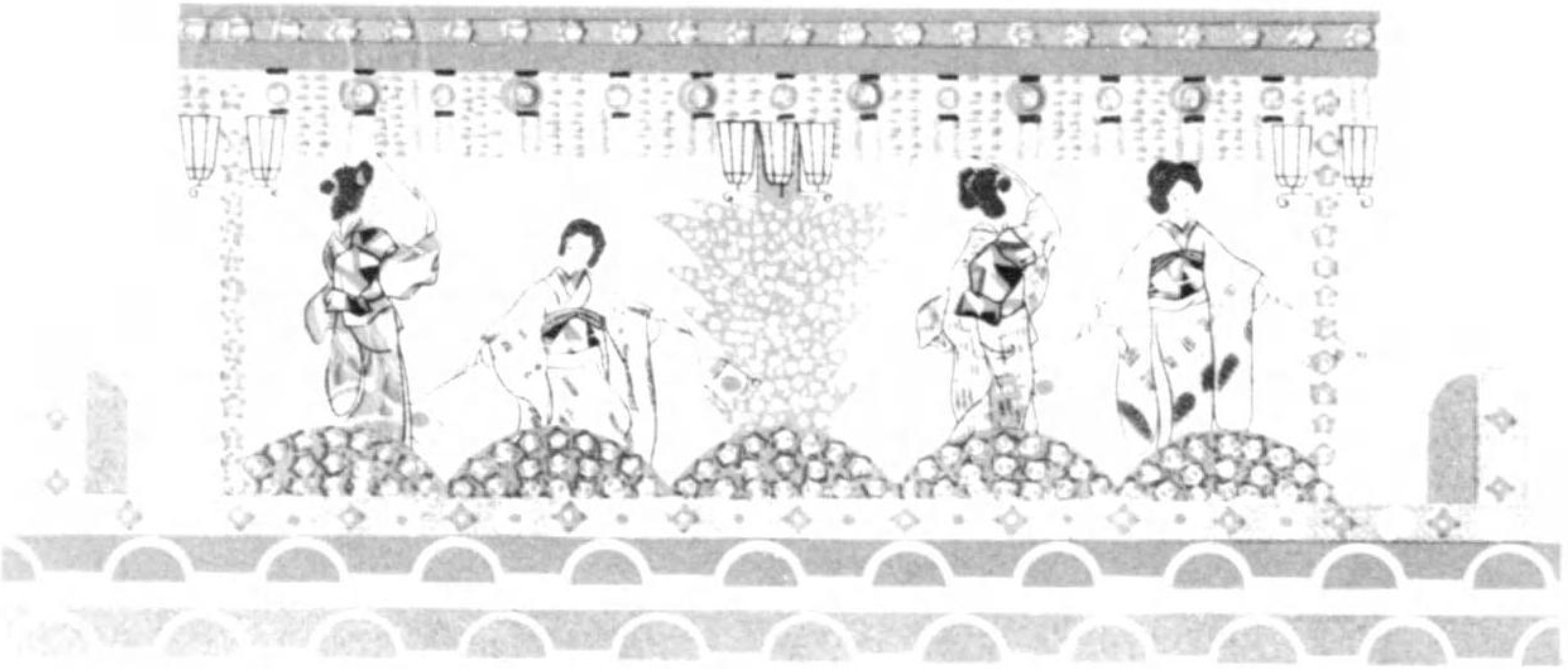
復興踊

電車乘車券

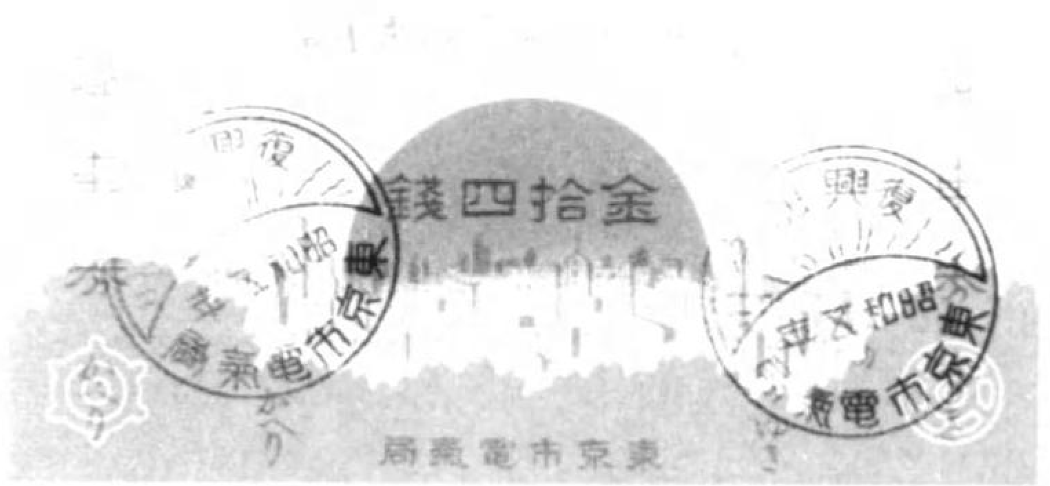


乘合自動車乘車券

露光量違いの為重複撮影



復興踊



電車乗車券

乗合自動車乗車券

麹町　神田　京橋　日本橋　深川の各區内

芝出張所

芝區内

小石川出張所

小石川　本郷　下谷　淺草　本所の各區内

第二節　衛生設備

一　防疫施設

御巡幸を仰ぐ本市に於ては先つ一般公衆の疫病豫防は最も緊要缺くへからさる施設の一として第二編に掲記したる計畫を實施し、豫定區域に洩れなく施行して好成績を收め、其の人員は實に二十四萬一千六百八人に達した。

特に御巡幸沿道及祝賀會場附近に當る麹町區外十區に對しては二月十五日消毒藥品（クレシン）二百五十三罐を交付し、町會衛生組合其の他の團體を勸奬し下水便所其の他不潔の場所に散布せしめ清潔保持と傳染病豫防に力め、種痘は本年三月の定期種痘を成るへく御沿道附近の要種痘者に對し洩れなく施行し、三月一日より開始同月二十日に豫定區域の一萬五千、四百八名の檢診を終了した。臨時種痘は二月二十日御立寄箇所の千代田小學校職員生徒及築地病院職員以下從業員及入院患者三百三十六名に接種した。

次にペスト豫防として殺鼠劑を配布して嚴重なる豫防法を講し、殊に過般大阪に於ける「ペスト」

有菌鼠の發生に鑑み二月二十一日以降三月二十七日迄御巡幸沿道の倉庫地帶及必要地域に殺鼠劑を配布した。

次に傳染病患者の取扱及消毒に關し豫て各區役所より注意を喚起したが特に關係官公署と連絡し迅速なる處理方法を講し、三月十三日以降職員を指定して實施した、殊に傳染病々原體保有者には視察員を派して動靜を明かにし、消毒方法に就て指導教示し、無資力者には消毒藥品を交付して奬勵した亦調査の結果病原體保有者百七名であつた、次に自宅治療の傳染病患者は嚮者同樣の注意を促し時々醫員を派して豫防消毒法を講し傳染病患者發生の場合特に醫員を派して原因系統等を調査し、其の上豫防注意を喚起する爲め三月十日「ポスター」一萬枚を各區役所に配付し全市に普及せしめた、其の他復興祭期間には獻上品製作者及御立寄箇所(千代田小學校・築地病院)關係者は、勿論水道局・公衆食堂・公設市場の從業員竝御巡幸當日千代田小學校來賓用料理調製に從事する者竝其の家族使用人に對し健康診斷及採便檢査の爲關係局課衞生試驗所と協議し、二月十七日以降三月十九日迄四十九箇所三千二百四十二名の健康診斷、二月十六日以降三月十九日迄四十七箇所千九百七十二名の採便檢査を行つた。

二　御立寄箇所消毒

御立寄箇所千代田小學校にて來賓料理用器具材料の檢査消毒を實施したる外三月二十四日千代田小學校の消毒を左の方法を以て施行した。

消毒坪數	
第一回	一、一六四坪二〇三
第二回	四六坪三一六
第三回	四六坪一三六

消毒方法　內務省傳染病豫防法施行規則に依り藥物消毒を施行す

消毒施行月日	
第一回	三月九日
第二回	三月十五日
第三回	三月二十一日

更に宮內省傳染病豫防令施行規則に據り千代田小學校・築地病院・震災記念堂及上野公園御展望所の消毒を左の如く施行した。

(一)　千代田小學校御立寄箇所

消毒坪數	五〇〇坪一二一
三階御座所(裁縫室)	三二坪三四二
同御座所隣室(裁縫準備室)	一〇坪〇〇〇
同供進所(教室)	一七坪五三〇
同供奉員室(教室)	一七坪五三〇
同第一列立拜謁所(講堂)	一〇二坪四七〇
同第二列立拜謁所(教室二階)	三五坪〇五〇
同廊下階段手摺等	九〇坪〇〇〇

二階天覽室(敎室五室)　八七坪六五〇
同廊下階段手摺等　九〇坪〇〇〇
屋上露臺御展望所及手摺
御展望所御卓子　二脚
同上卓子覆羅紗　二枚
同上白金巾　二枚
供進用白木盆　二箇
同　水桶　二箇
復興事業上奏書　一部
天覽品目錄　二十部

消毒方法　前記の通り
消毒施行月日
第一回　三月二十一日
第二回　三月二十三日
第三回　三月二十四日
但第二回第三回は第一回の消毒を施行し能はさる場所及第一回消毒施行後尙ほ再消毒の必要を認めたる場所及物件に對し施行した。

(二) 築地病院御立寄箇所

消毒坪數　二〇八坪〇〇〇
御座所(講堂)　二四坪〇〇〇
供奉員室(事務附屬室)　一二坪〇〇〇
內廊下　一九坪〇〇〇
玄關並廊下手摺等　一五二坪〇〇〇
天覽に供する模型　二基
御展望所御卓子　二脚

消毒方法　前記の通り
消毒施行月日
第一回　三月二十三日
第二回　三月二十四日

(三) 震災記念堂御立寄箇所
消毒坪數　二九六坪〇〇〇
消毒方法　前記の通り
消毒施行月日
三月二十三日

(四) 上野恩賜公園御展望所
消毒方法　前記の通り

消毒施行月日

三月二十三日　三　献上品消毒

献上品「東京市復興事業圖表」三部は三月二十五日保健局の一室を消毒所定め細心の注意を拂つて消毒を施行した。

四　救　護

御巡幸當日の救護は警衛部及警視廳と連絡を保ち敏速に患者を收容する手配を定め、重患者の場合は市立大塚病院に於て保護することとし、救護所は醫員・事務員・看護婦・雜役夫各二名を以て組織した。尚ほ救護所設置箇所は左の如くである。

御道筋

第一救護所　宮城外苑芝地楠公銅像北側
第二同　日比谷公園市政會館横幸門内
第三同　芝區愛宕町九〇番地先北辰會隣
第四同　同芝口二丁目汐留驛構内
第五同　京橋區釆女町一六歌舞伎座前
第六同　同本材木町一三ぼたん隣
第七同　日本橋區伊勢町一二清水組材料置場
第八同　神田區岩本町一四番地先

第九同　神田區須田町七電氣局用地
第十同　麹町區飯田町一牛ケ淵公園脇
第十一同　神田區三崎町二ノ一〇東京齒科醫學專門學校南側
第十二同　本郷區本郷一丁目交番裏
第十三同　神田區五軒町十四浦谷商店裏
第十四同　下谷區上野公園不忍池畔
第十五同　下谷區車坂町一五地下鐵入口脇
第十六同　淺草區北清島町一〇正安寺境内
第十七同　同花川戸町三六マイル・タクシー隣
第十八同　本所區表町三〇表町市電留所前
第十九同　淺草區森田町五番地先
第二十同　日本橋區米澤町一アメリカヤ書店隣
第二十一同　深川區中大工町二六
第二十二同　同門前山本町富岡橋際
第二十三同　京橋區越前堀一ノ四地先
第二十四同　同築地三丁目本願寺境内
第二十五同　京橋區五郎兵衛町大阪海上保險會社用地

御立寄箇所

第一救護所　下谷區上野公園清水堂附近

第二同　本所區横網町被服廠跡

第三同　日本橋區矢ノ倉町千代田小學校內

第四同　同村松町二三竹內病院隣

第五同　京橋區築地四丁目海軍々醫學校內

第六同　京橋區築地病院內

第三節　警衞設備

御巡幸御道筋の警衞は警視廳及復興局にて主管し御巡幸竝完成式典警備には復興局警備係之に當り、本市警衞部は之と連絡して警衞に協力し御巡幸當日御立寄箇所の整理警戒(千代田小學校は自動車・人力車整理警戒を含む)御道筋に當る各河川濠池の警戒、鹵簿御通過時刻の通報、消火配水竝給水に關する警戒及煙火打揚(合圖)等の外電氣軌道整理警戒はすへて本市警衞部之に當つた、

御道筋警衞箇所其の他の警衞施役は別紙折込圖の如くてある

御巡幸警衞

イ　御立寄箇所整理竝警戒

九段御立寄箇所其の他の御立寄箇所警戒竝奉拜者通行整理に對し本部警衞部の警備計畫の大要は次の如くてある

九段御立寄箇所　同所の一般警戒、奉拜者整理、交通遮斷區域其の他傷病者ある場合は救護班と協力して應急措置を施すこととなつた、警衞配置は次圖(三六八頁)の如くてある

上野御立寄箇所　同所に於ては周圍の人止柵、受付口通行禁止區域の警戒を始めとし其の他前記同樣の任に當つた警衞配置は次圖(三六八頁)の如くてある

震災記念堂御立寄箇所　記念堂周圍警衞に當ると共に記念堂前左右兩側奉拜所及場內一般の警戒に當つた警戒配置は次圖(三六九頁)の如くてある

千代田小學校御立寄箇所　校舍內外に於ける通路受付口奉拜所降車地案內各竝校舍內階の檢索等の警戒外濱町公園の取締に當り自動車人力車整理其の他御立寄箇所一切の警衞を遺漏なからしめた其の配置は次圖(三六九頁)の如くてある

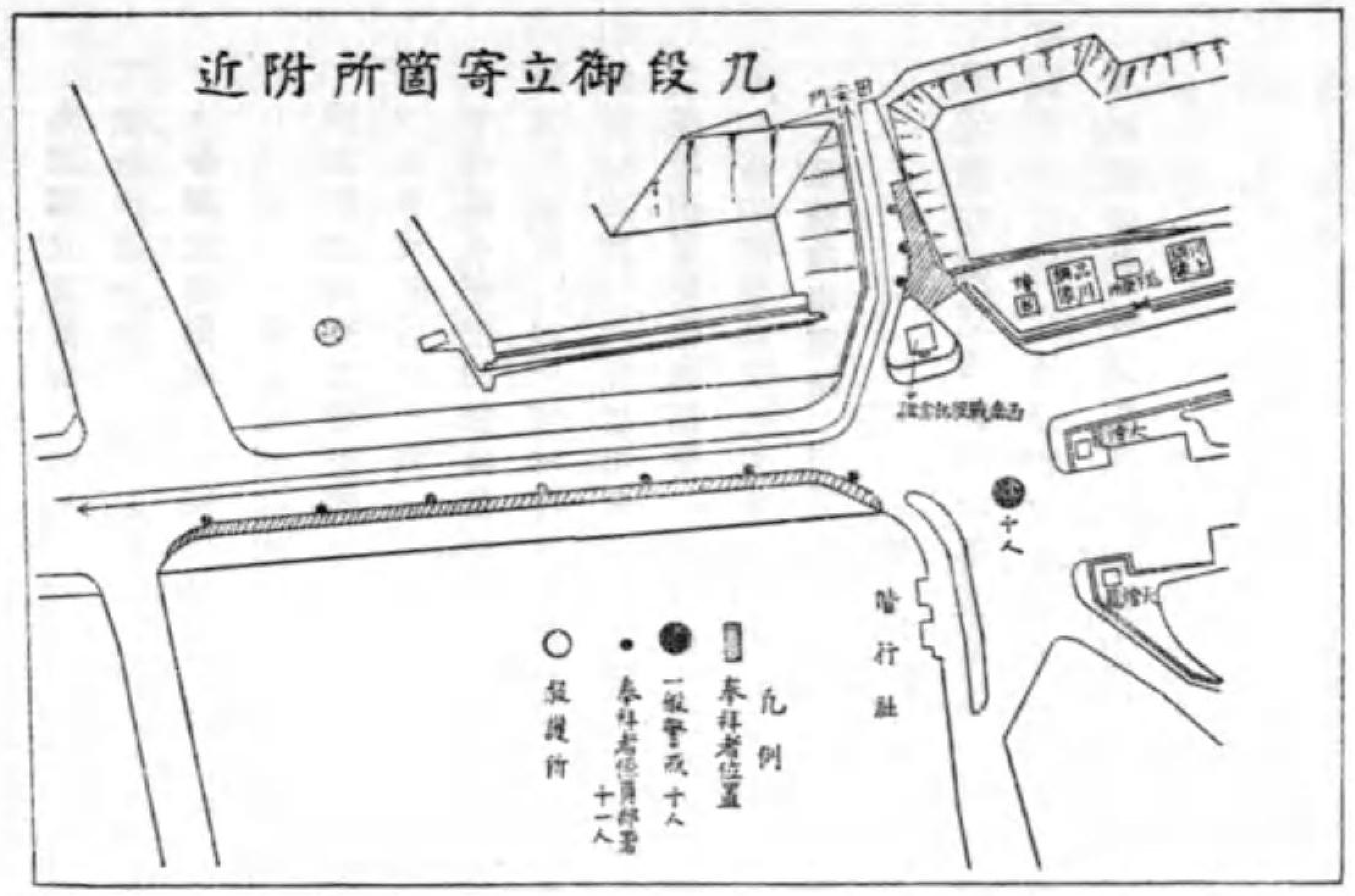
築地病院御立寄箇所　同所は北門橋附近の受付口及交通遮斷線の警戒竝病院構內の玄關左側を警衞した其の配置は次圖(三七〇頁)の如くてある

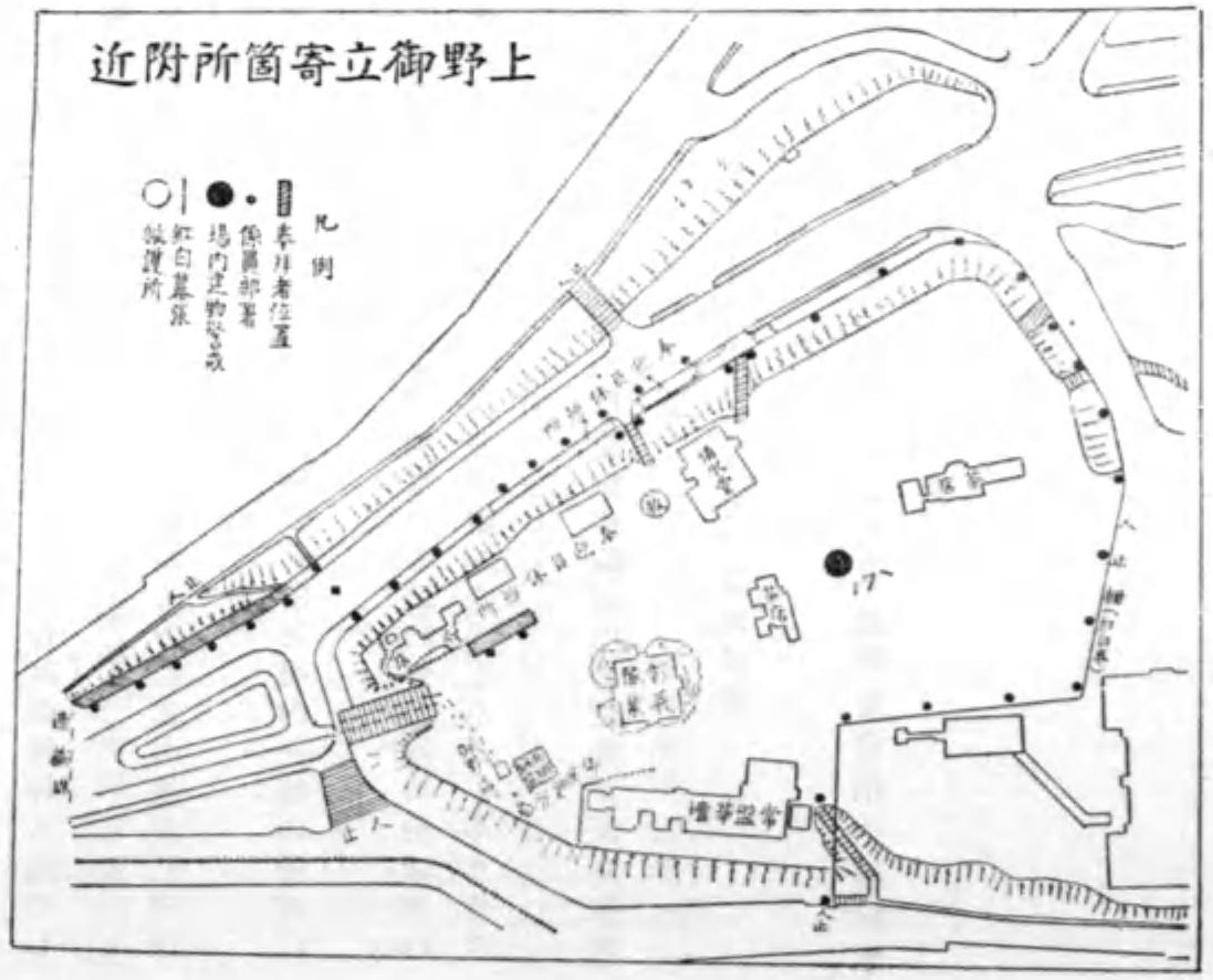
二重橋前奉拜所　同所の警衞設備亦前記各所設備と同樣の任に當つた(三七〇頁圖參照)

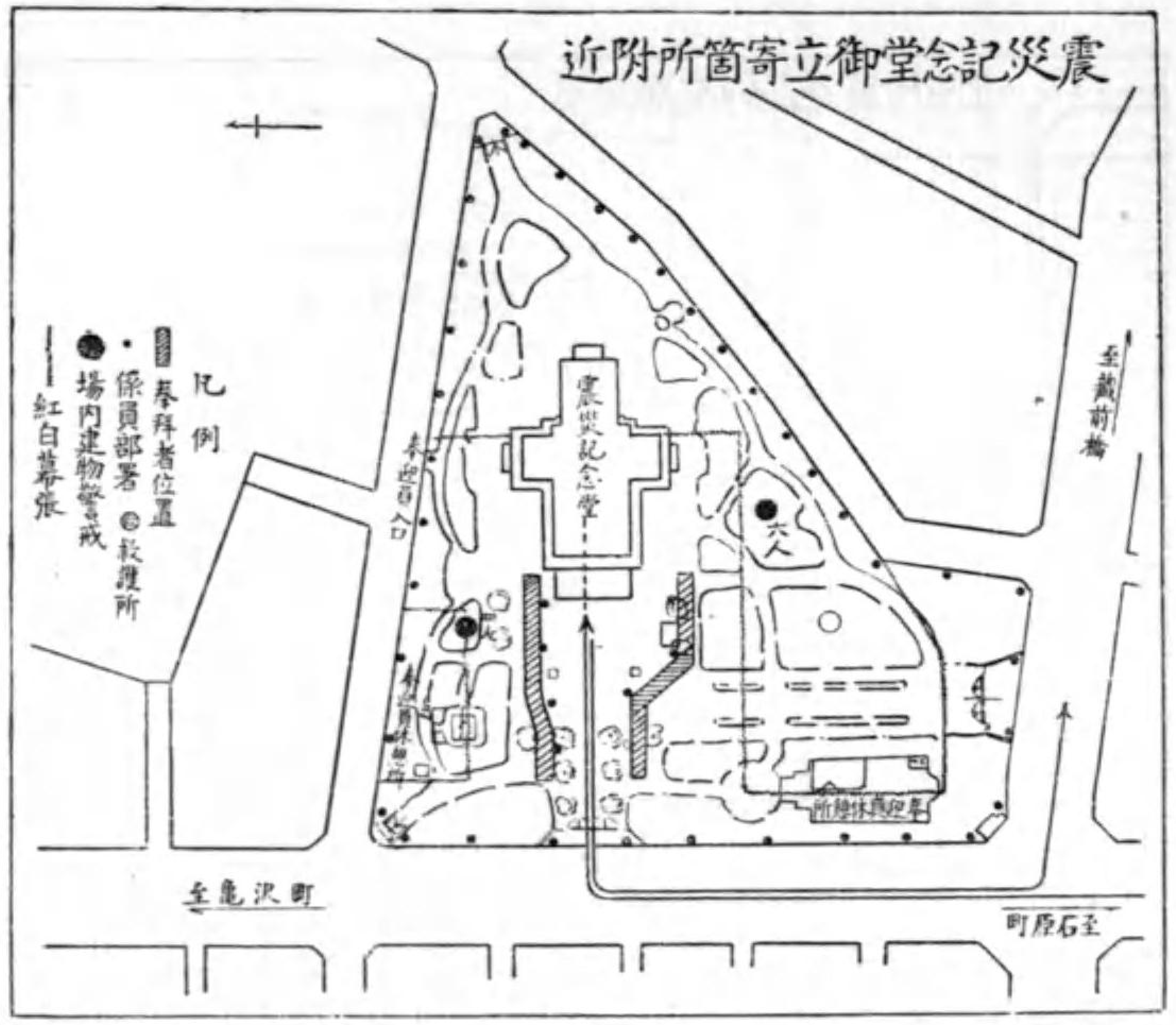
ロ　其の他の警衞

御道筋竝御立寄箇所の警衞施設の外、河川、濠池、電車軌道等の警戒竝整理及通報施設、消火栓、給水設備、花火打揚、交通遮斷方法はすへて計畫通りの設備を整へた(前章參照)

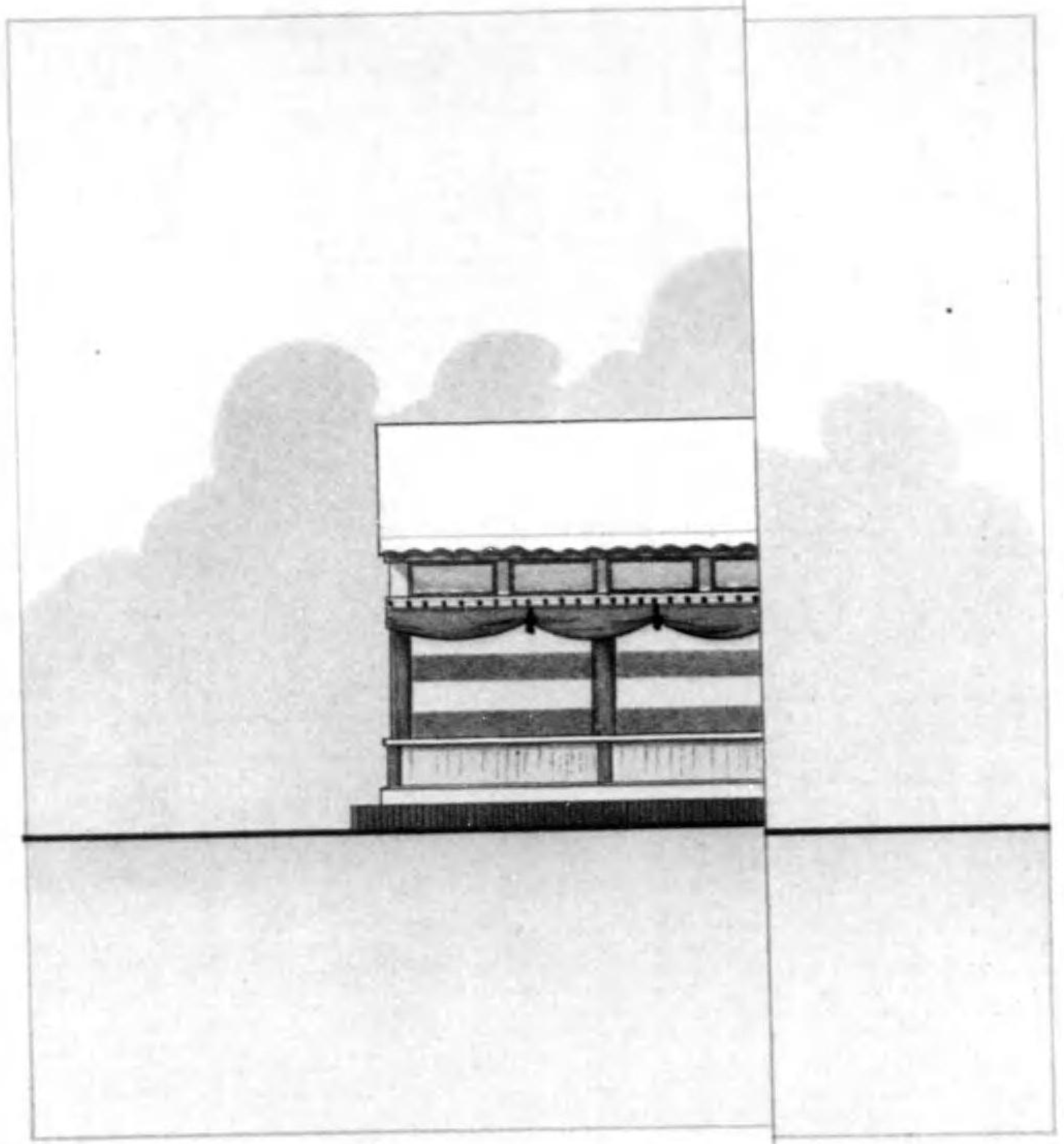
尙ほ御道筋交通整理の爲指定横斷道路は別紙折込圖の如くてある。

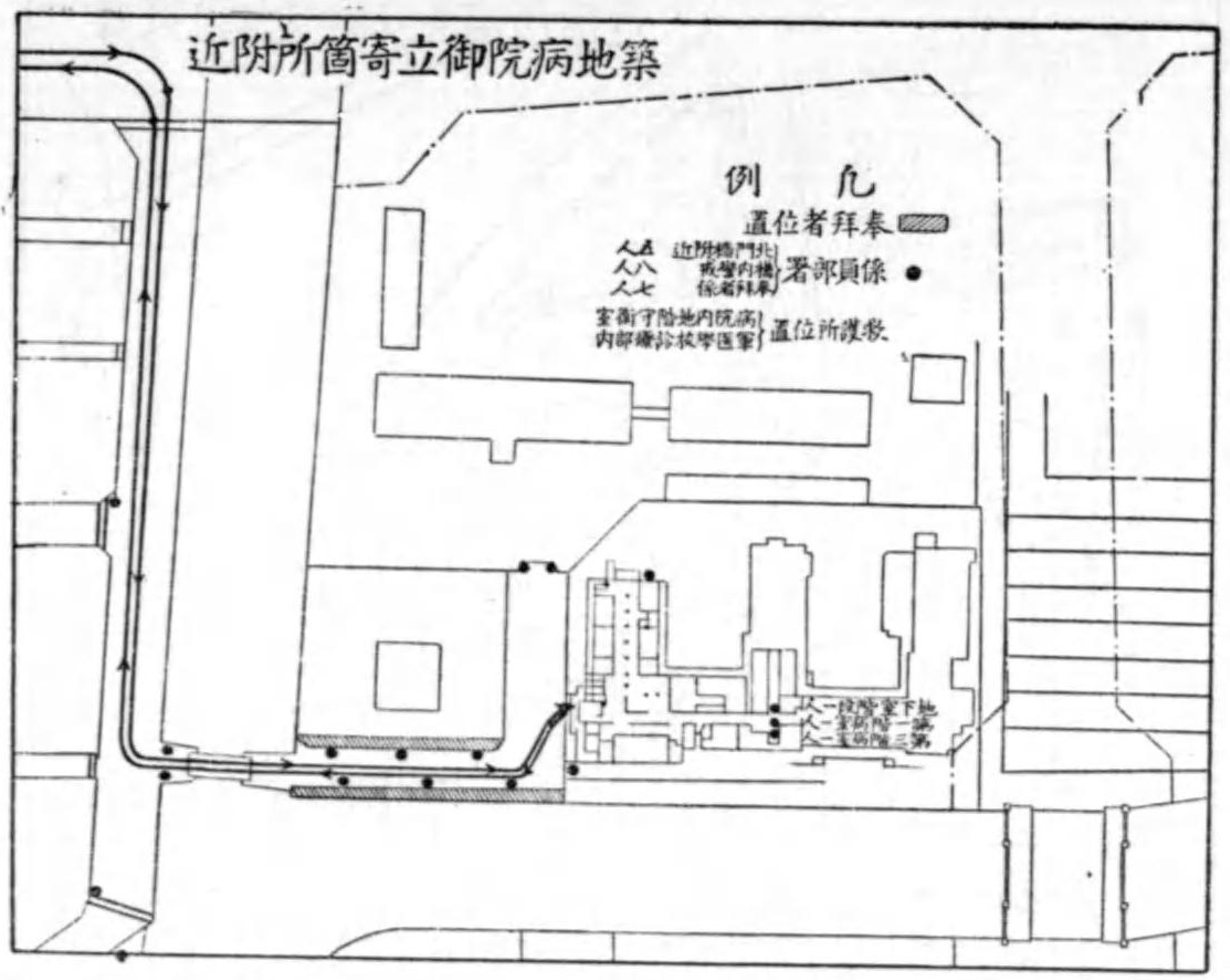

九段御立寄箇所附近
凡例
奉拜者位置
一般警戒 十人
奉拜者係員部署 十一人
救護所
十人
偕行社

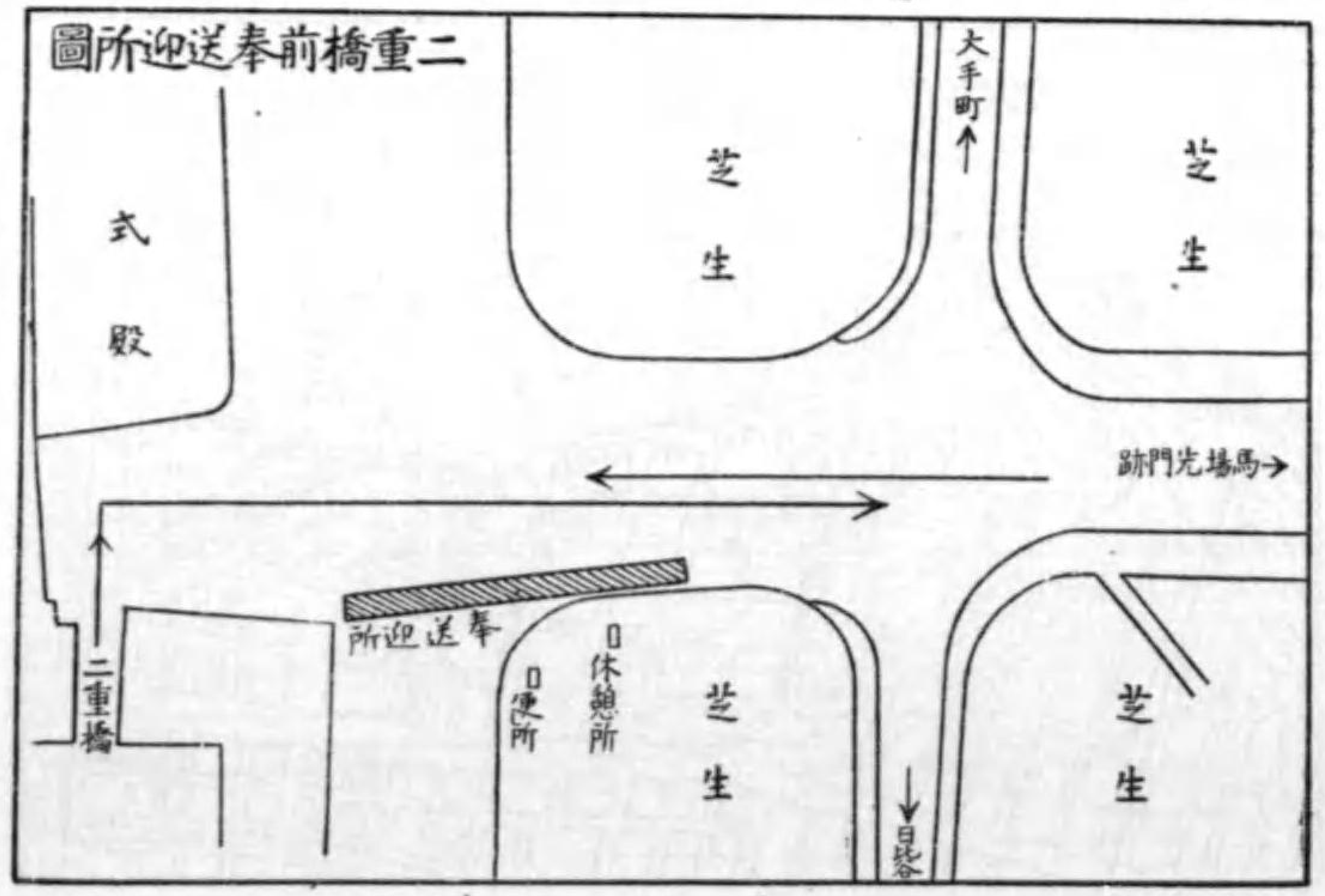

上野御立寄箇所附近
凡例
奉拜者位置
係員部署
場內建物警戒
紅白幕張
救護所
帝室博物館

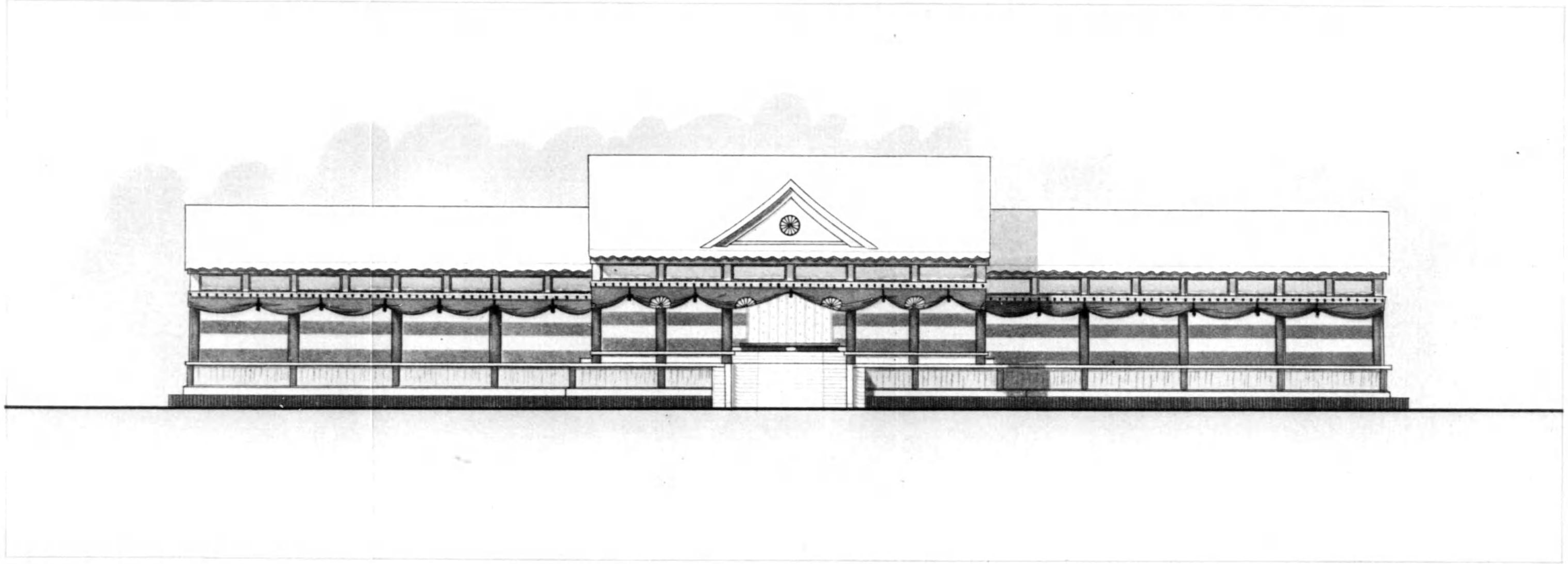

震災記念堂御立寄箇所附近
凡例
奉拜者位置
係員部署
救護所
場內建物警戒
紅白幕張
震災記念堂
六人
至藏前橋
至龜沢町
至石原町

千代田小學校御立寄箇所附近
凡例
奉拜者位置
係員部署
自動車置場
遮斷線
救護所位置
隅田川
新大橋

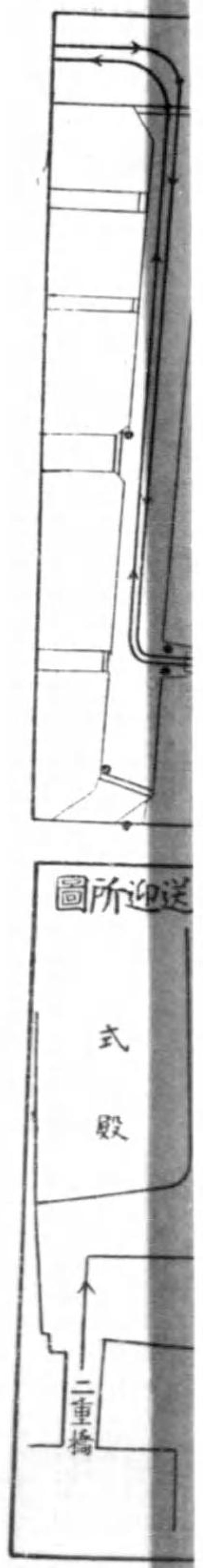



築地病院御立寄箇所附近
凡例
奉拜者位置
係員部署
救護所位置


二重橋前奉送迎所圖
大手町
芝生
芝生
式
殿
馬場先門跡
奉送迎所
休憩所
便所
二重橋
芝生
芝生



式殿



第二章　帝都復興完成式典設備

第一節　土木設備

一　式典場

帝都復興完成式典式場は二月中旬設計を了し、二月二十五日諸般の手續きを了して鋭意工を進め三月二十五日式場工事を完成した式典場工事竝設備の概要左の如くである。

イ　式場配置

式場は宮城二重橋前廣場の一角を定め、式殿は廣場の北西側芝生上に建て東南面とし、後方を第一休憩所(式殿左右に參列する招待者の分)附屬室(各皇族及隨員休憩室各外國使臣及隨員休憩室供奉隨員休憩室其の他豫備室)とした、尙ほ二重橋直前御車寄より附屬室式殿に通する幅九尺の渡廊下を設けた式殿前は第二招待參列者席、更に幅三間の通路を隔てて後方は一般參列者席を設け、尙ほ第二招待參列者は馬場先門側及櫻田門側方面に設けたる受付を經て一箇所の式場門より入場し、第一招待參列者は二重橋前通の二箇所の式場門より入場せしめ、一般參列者は東京驛前方面と大手門前方面より坂下門前に設けたる受付を經て入場、第二招待參列者休憩所は、二重橋前通り左側及坂下門前通り左側との二箇所に設け各掛員詰所は式場後方、一般參列者席後方及馬場先門側受付の左側の芝生上の三箇所に設けた。

ロ　式場各種門竝周圍幕張

東京驛前　拓務省前對立門　二箇所　門の最高部路面上二十尺
櫻田門前　大手門前對立門　二箇所　門の最高部路面上十五尺
式場內對立門　一箇所　門の最高部路面上十二尺

右各門の樣式は洋風綠門とし骨組米松角材を使用し、腰廻り皮付赤松丸太張正面頂上紅白布飾其の他綠葉張式場內對立門を除く各門下部は周圍板張荷重として砂利を詰めた。

式場入口門　四箇所

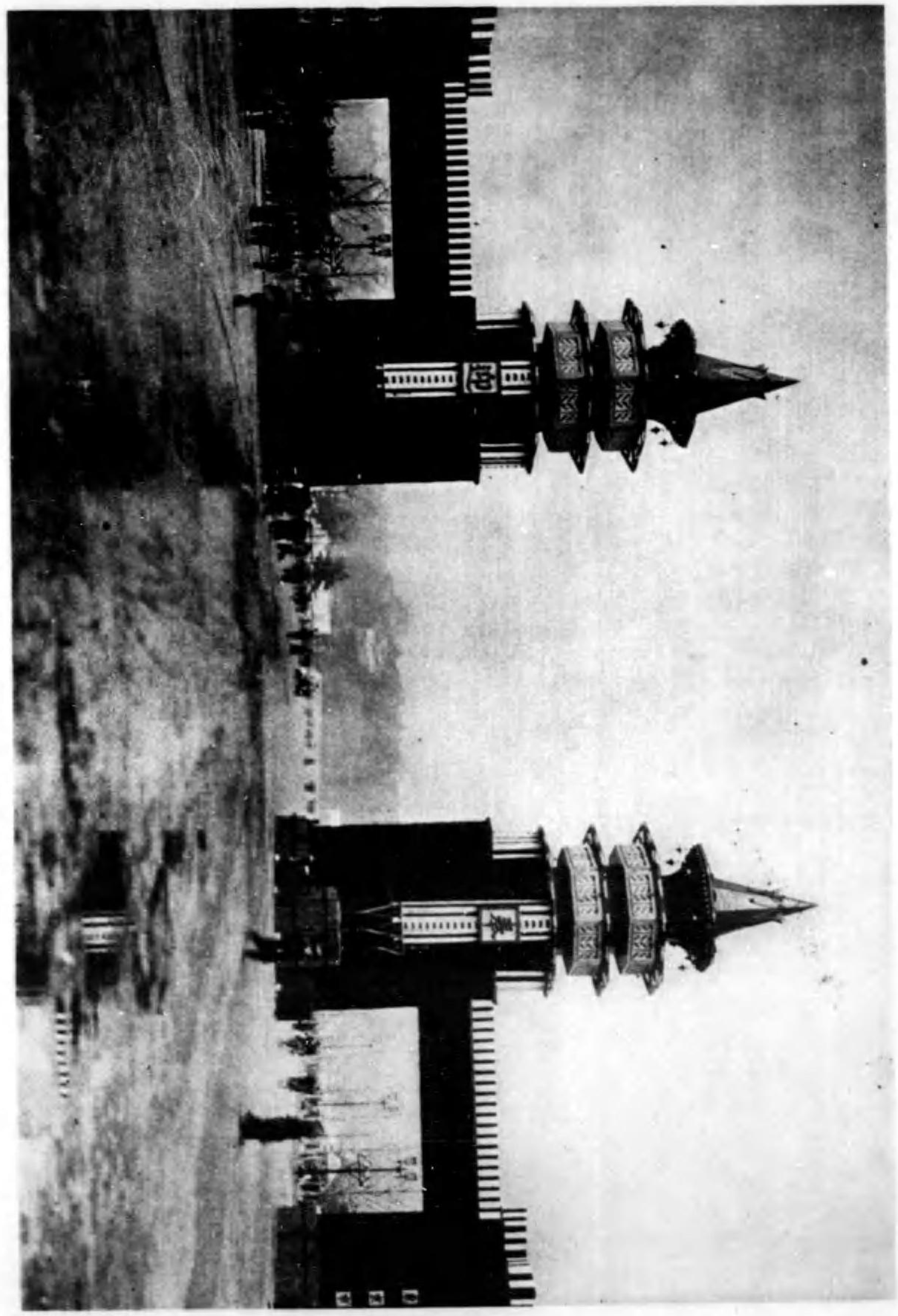
門の最高部路面上十二尺構造は式場內對立門と同樣なるも左右門柱上部を繫き中央に國旗六旒を以て裝飾した。

受付飾門　六箇所

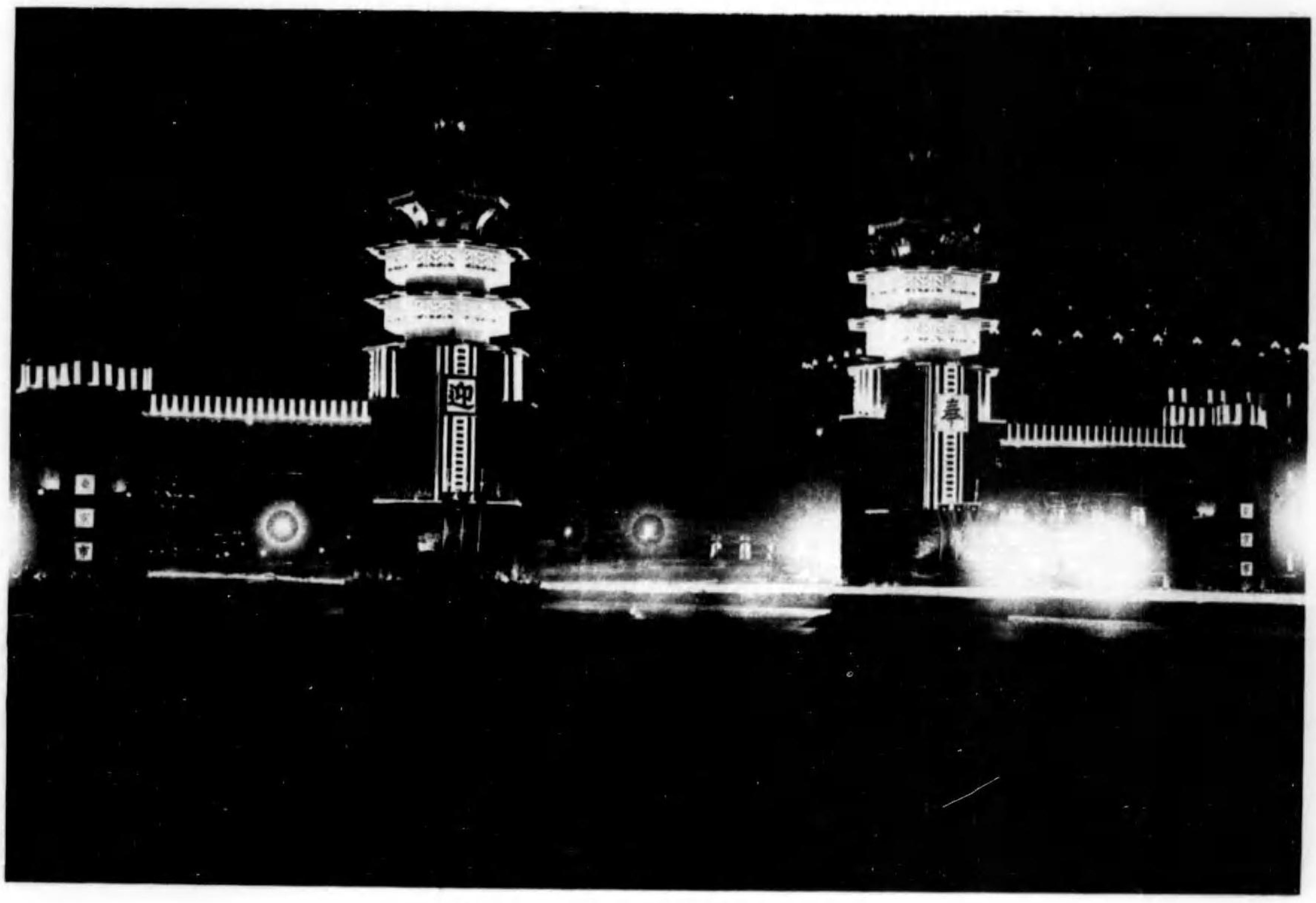
門の最高部は路面上十二尺とし樣式は國旗交叉門、左右及横木丸太紅白布「チャーレン」を垂れ、中央部に國旗六旒を以て裝飾した。

更に式場の幕張は一等兩面張八十九間一等片面張二百十間二等兩面張百二十二間二等片面張三百九十間とし、式場周圍及第一招待者休憩所周圍に張つた一等幕は、高さ十尺の紅白幕にして二重橋前通りと式殿左右及式場竝坂下門側第二招待者休憩所との間に張り廻らし、二等幕は高さ六尺紅白幕にして第二招待者休憩所式殿後方の第一休憩所廻り及一般參列席背面に張り廻した、骨組は何れも米松押三寸角根入四尺九尺間に建込控本置控を取付け、貫は高さ十尺の分上下と、中二本高さ六尺分上中下各一本を施し幕張方は特に風壓を考慮して幕の上下に更に貫卷込みの上釘

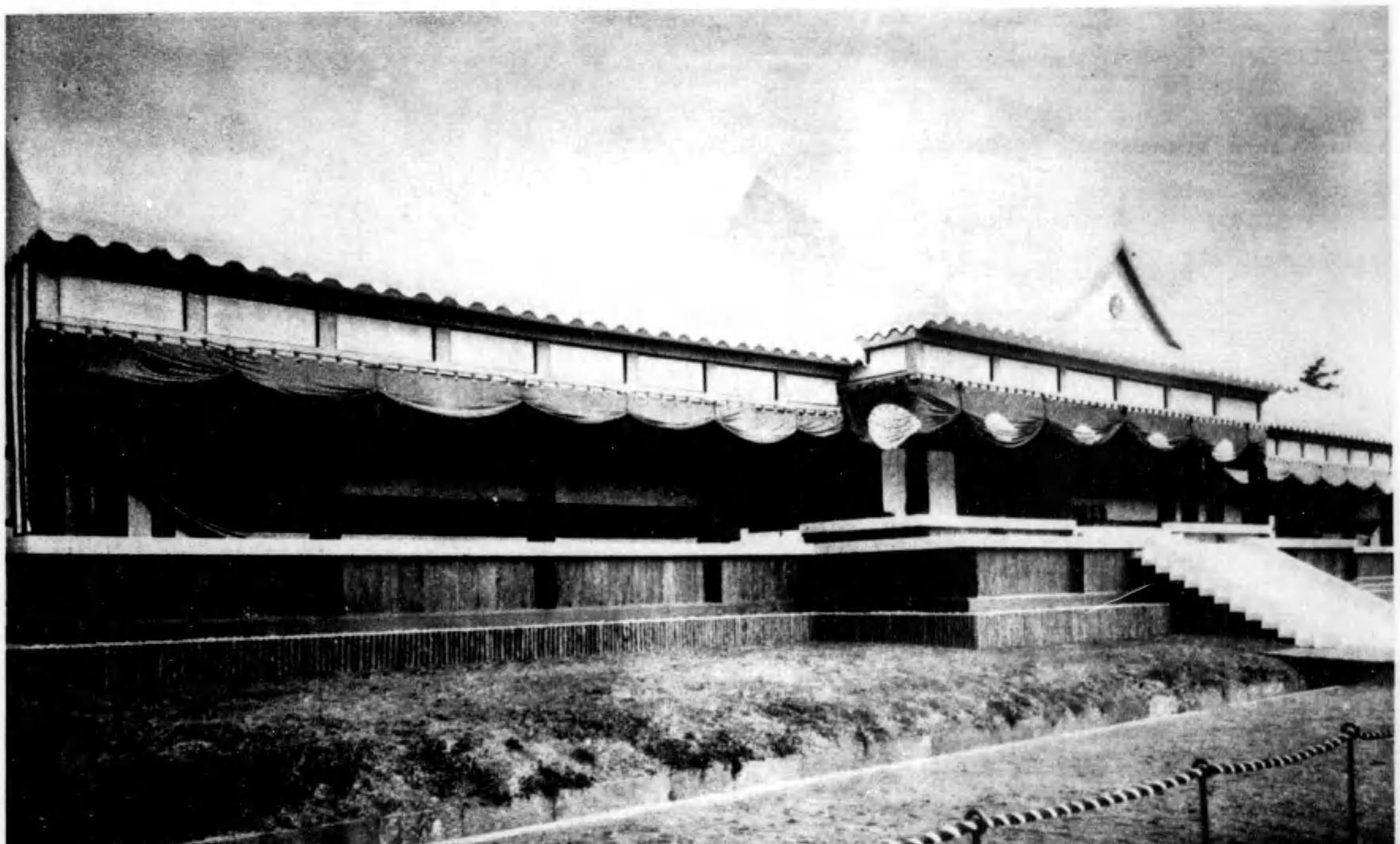
設備



竣成せる奉迎塔（馬場先門附近）



イルミネーションに輝く奉迎塔



完成せる式殿

付けとした。

八　式殿竝附屬室

式殿

本殿　桁四十七尺梁間二十七尺五寸　木骨天幕張　一棟　四十三坪

左右參列席　桁行十三尺五寸梁間四十八尺　木骨天幕張　二棟　三十六坪

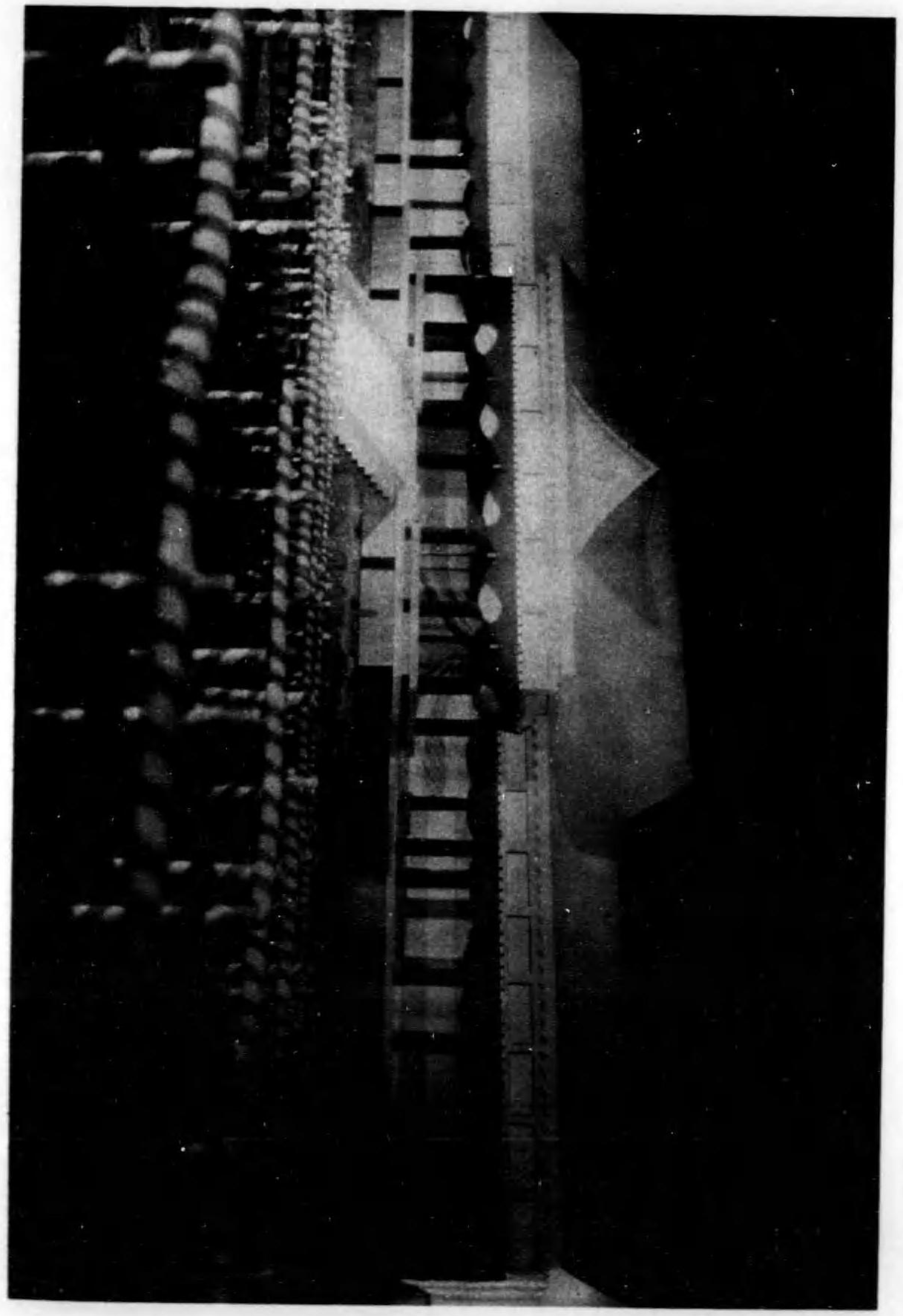
本殿前面濡縁　巾六尺長本殿前面　九坪九合一勺

本殿前面階段　巾十八尺長十二尺　一箇所

各犬走り　巾二尺五寸　延長百六十五尺

各柱下其の他要所杭打ち土臺置渡し柱建て屋根切妻天幕圖示の通りてあるか式殿正面に千鳥破風を設け箕甲下地板張に御貸下け御紋章取付け破風板はペイント塗とし本殿竝左右參列席共三方吹拔背面各出入口を除き幕下竪羽目板張本殿は濡縁付となし正面階段を設けて各正面及左右共腰一皮張各犬走り取付け各内部床板張薄縁敷込白木綿上敷本殿玉座は緞通敷背後には枠エナメル塗金具付羽二重模樣入の几帳を設けた各犬走りには白玉砂利を敷均し各天井はクリーム色天竺木綿張となし本殿及參列席背面は御貸下けの紅白緞子幕を張り詰め各出入口を絞り式殿前面及參列席前面には御貸下けの紫縮緬御紋章入幔幕を張廻して絞り各小壁はボード張水性ペンキ塗とし各柱天井廻り緣中束及長押廻り杉緣葉張各柱杉緣葉張床化粧付土臺及階段廻り共ペンキ塗仕上けとした。

第一休憩室



式殿及式典場の夜景

木造天幕張　桁行四十二尺梁間十八尺　四十三坪　二棟
周圍幕張　延二百二十二尺　二箇所
周圍幕張　巾三尺横幕延六十尺　二箇所

土臺下杭打ち轉し根太床板張柱小屋組式殿入口廊下竝階段取付各手摺等紅白巻内部裝飾とし湯呑所及爐を設備した。

附屬室渡廊下及御車寄

附屬室　木骨天幕張　四十八坪五合

各室名稱及大さ次の如くてある

御休所	十五尺×十二尺
御廁及廊下	六尺×十二尺
供奉隨員室	十二尺×十二尺
各隨員室	六尺×六尺
豫備室	二十一尺×十二尺
湯沸場	九尺×六尺
皇族室	十二尺×十二尺
皇族隨員室	九尺×十二尺
外國使臣及隨員室	十二尺×二十一尺
皇族便所外國使臣便所	六尺×六尺

總て式殿に瀟したる床下吹拔各出入口を除き周圍間仕切共柱及手摺紅白巻きとし一部間仕切竪羽目板間仕切及周圍紅白幕張各出入口紐絞り上け手洗設備竝大小便器を取付けた、大便所は板戸を建付け便所の天井は化粧布張床は板張の上薄緣敷とした。

御車寄　木骨天幕張(床板ナシ)十六坪　一棟
奉迎所　木骨天幕張　十六坪　一棟
渡廊下　木骨天幕張　八十五坪五合　一棟

御車寄四方柱堀建屋根天幕張天井化粧布張方吹拔各木部見へ掛り紅白布巻とし、奉迎所は御車寄と同様てあるか床板張一方吹拔三方紅白布巻手摺取付け同所紅白幕張床薄緣敷き詰め、御通路天竺木綿敷とし、渡廊下床は奉迎所より御休所入口終り柱迄下り坂斜床同所より、式殿取合迄上り坂斜床兩側附屬室入口を除いて、紅白布巻手摺取付け、同所紅白幕張天井天竺木綿張敷物等は奉迎所と同してある。

二　第二招待者休憩所及參列席竝一般參列者席

(一)　第二招待者休憩所竝參列席

第二招待者休憩所　天幕張延坪　千三百五十坪五合
周圍幕張　延三百六十尺　二箇所
同(巾三尺横幕)　三百尺　五箇所

天幕張とし骨丸太小屋組共紅白布巻一部高さ九尺紅白布巻一部高さ九尺紅白幕張内部裝飾の上爐・湯呑所・椅子等設備した。

同參列席　紅白布巻丸太埒圍ひ　七百八十六坪五合

一萬三千名を收容する埒を七區分し、右端は民間功勞者、次は復興局關係者貴衆兩院議員各官公吏、區劃整理委員各團體代表者とし、前には、紅白巻綱鐵棒埒延長百〇八間を設け埒外者として内閣總理大臣・内務大臣・復興局長官・東京府知事及東京市長の席とした。

(二) 一般參列席

一般參列者席　三千二十二坪五合

紅白巻丸太埒　延長　二千八百二十間

一部棧橋手摺兼用

棧橋　延坪　一千四百〇八坪　一部棧橋共

芝地内樹木養生用紅白綱埒延長　六百八十八間

四萬人を收容する埒にして横に巾二間の通路二通りを取り、前區劃は單に紅白布巻丸太埒とし、中區劃には棧敷の上、紅白布巻丸太埒、後區劃は芝生の上に前區劃と同様紅白布巻丸太埒とした、又縦に巾一間の通路九通りを設け、一桝凡そ四百名參列に供した。

ホ　附屬建物竝式典場内外天幕張

(一) 宮内省供奉調度掛員詰所

詰所天幕張　六坪　一箇所

周圍幕　延十間

皇族從者控所　天幕張　一箇所

周圍幕　延十間

天幕張周圍紅白幕張　高さ九尺出入口幕紐絞り

(二) 奏樂所

陸海軍々樂隊奏樂所　木造床天幕張　七間　三間　延坪四十二坪　二棟

周圍幕　延二十間　二箇所

同(三尺横幕)　四十間　四箇所

床板張背矩折り紅白手摺布巻手摺取付け骨紅白布巻き天幕張背面高九尺紅白幕張前面矩折上布紅白幕張紐絞り下部床下前記幕を張廻した。

(三) 工事掛員詰所

木造平家建　二十坪　一棟

建物壁内外共に板張屋根生子板葺各出入口及窓等は硝子戸嵌込み締り金物堅固に取付け床は板張同板一部切明け緣大谷石を以て圍ひ砂盛り爐を設け宿直室疊敷天井竿緣天井大小便所を設置し机は造り付けにして抽出を設けた。

(四) 式典掛員詰所

天幕張　延九十三坪　十箇所

周圍幕　延八十八間

天幕張周圍紅白張出入口幕紐絞りをした。

(五) 假便所

特大便所　桁行三十尺梁間八尺　三箇所

外部紅白幕張　七間　三箇所

甲便所　桁行二十一尺梁間八尺　十箇所

外部紅白幕張　九間半　五箇所

同　五間半　五箇所

乙便所　桁行十四尺梁間七尺　十一箇所

外部紅白幕張　六間　九箇所

同　四間　二箇所

總てエゾ材とし各柱堀立て内部見へ掛り鉋削り屋根無し各柱頭繋木取付け間仕切竝周圍六分板内部より竪羽目板張小便流し木製樋箱取設け各溜伏込み外部竝塀袖周圍共紅白幕張とした。

二　場內各室備付竝場外備付

(一)　各室備付品

式殿皇族御用　椅子　十一脚

式殿外國使臣隨員　椅子　二十五脚

附屬皇族室　卓子(一尺五寸×三尺)　二

椅子　十一脚

ストーブ　二

附屬外國使臣室隨員室　卓子(二尺五寸×五尺)　二

椅子　二十五脚

ストーブ　四

附屬供奉隨員室　卓子(二尺五寸×三尺)　二

椅子　十脚

ストーブ　二

附屬皇族隨員室　卓子(二尺五寸×三尺)　一

椅子　十一脚

ストーブ　二

附屬豫備室　卓子(三尺五寸×三尺)　三

椅子　二十脚

ストーブ　二

第一招待者休憩室　卓子(二尺五寸×三尺)　二十六

椅子　百二十四脚

ストーブ　六

第二招待者休憩室　椅子　五千脚

各天幕內　卓子(二尺五寸×三尺)　六十

椅子　一千脚

(二)　活動寫眞撮影臺

一間半　五間　高三尺　二箇
何れも紅白布張

(三) 雜工事

撒砂(川砂)　三百五十坪
厚平均二寸內外第二招待者參列席前面其の他へ敷均
敷莚　一千百七十三坪
一般參列席棧敷各棧橋各通路を除きたる各區劃に配備した。

(四) 建札

大きさ　六尺六尺　十一本
四尺三尺　五寸　二本　四尺五尺　四本　二尺三尺　十五本　四尺一尺　五寸　三十二本　六尺一尺　二本
三尺一尺　五寸　一本　三尺一尺　百九本　三尺八寸　十九本　二尺一尺　二百四十六本　一尺二尺　九十八本
一尺一尺　五寸　五本　一尺一尺　百三十八本　一尺一尺　二寸　十一本　七寸三寸　三百七十本　根子(大)三十本
同(小)三十本

文字はペンキにて記し、其の他特殊の標示を施した。
以上附屬建物の外式場內外、天幕張は左の如くである

將校控所	天幕張　六坪	周圍幕張　七間		一箇所
下士控所	天幕張　六坪	周圍幕張　七間		一箇所
憲兵詰所	天幕張　延四十七坪五合	周圍幕張	延五十二間	七箇所
警官詰所	天幕張　延七十二坪五合	周圍幕張	延七十二間	九箇所
記念品置場	天幕張　延四十七坪	周圍幕張	延三十間	二箇所
警護所	天幕張　延三十八坪	周圍幕張	延三十九坪	五箇所
連絡員詰所	天幕張　六坪	周圍幕張	七間	一箇所
湯呑所	天幕張　延十坪	周圍幕張	延十四間	二箇所
湯呑所	天幕張　延四十坪			四箇所
人夫詰所	天幕張　延二十坪	周圍幕張	延十八間	二箇所
擴聲機室	天幕張　三坪			一箇所
受付	天幕張			四箇所

一般受付　四十通路
馬場先門口受付　十二通路
櫻田門口受付　十四通路
受付用桝は、將棋駒形に角材を以て造り紅白布卷とし、其の內に記念品置用卓子を杭打の上に板張とし白布張とした。

第二節　電氣設備

一　電燈

式典の電燈は、復興局の委囑に依り本市に於て設備を施し、式場內の警戒、參列者の整理用として式場周圍に外燈十箇中央部に投光器十二箇を取付け各五百ワット電球を用ひた、尙ほ招待者及一般參列者受付設備の爲各受付口に電燈を施設し、一般參列者席左右には舉式の次第を示す揭示板を設け曇天等の場合を考慮し、遠距離に於ても容易に見受けらるるやう百ワット電球を二箇宛四箇を設備し、更に式殿左右の陸海軍々樂隊奏樂の信號用として赤色五十燭光電球各一箇を設備して式殿正面より信號用開閉器を以て　陛下着御出御・御退下の際に備へた。

設備箇所・燈數燭力は次表の如くてある

設備場所	燭力及燈數 五〇燭光	燭力及燈數 一〇〇ワット	燭力及燈數 五百ワット	計	備考
八重洲口受付		八		八	
坂下門口受付		一〇		一〇	
馬場先門口受付		一〇		一〇	
櫻田口受付		五		五	
揭示場		四		四	
アーチ		三		三	
放送電話室		一		一	
信號燈	二			二	
係員詰所		二		二	
外燈		一〇	一〇	一〇	
投光器		一二	一二	一二	
計	二	四三	二二	六七	

施工

工事着手　昭和五年三月十七日

同竣功　同　年同月二十二日

點燈

試點火　三月二十二日

點火　三月二十五日(全點火)

同　二十六日(五十ワット八燈ノミ點火)

以上の外馬場先門跡奉迎門の照明燈を備付け、奉迎門細部の裝飾に對する照明の爲、小燭光の電球を塔各部に直接隱蔽取付けをなし、反射笠を以て其の照明效果を大ならしめ、且塔頂部分の裝置は赤靑二色電球により點滅せしめた、更に外部より高燭光投光器を用ひて、溢光照明により門全部を照明した。

設備、燈數・燭力等は次表の如くてある

電燈

燭力	一〇燭光	一六燭光	三二燭光	五〇燭光	一〇〇ワット	計
燈數	七二	八八	一六〇	二〇八	四	五三二

電動力	四分ノ一馬力	二臺
投光器	五〇〇ワット	三〇臺

施工

工事着手	昭和五年三月十五日
同竣功	同　年同月二十二日

點燈

試點火	三月二十三日	
點　火	自三月二十四日至同月二十八日	五日間

二　高聲電話

式場内參列者は擧式の次第を周知せしむる爲、式殿階段上階段中程及機械室の三箇所に、送話器各一箇を設備し、式殿階段上の送話器は、内務大臣の式辭を、階段中程の送話器は、内閣總理大臣の萬歳發聲を、機械室の送話器は式典次第其の他一般注意事項竝蓄音機に依る奏樂等を式殿左右に設備せる六箇所の擴聲器より放送した、其の他式場正面左側復興局長官控室及左側掛員室に式典次第合圖用の電鈴一箇を設備した。

第三節　衞生竝警衞設備

式典に對する衞生竝警衞設備はすへて復興局に於て擔當し、本市は主として式典場構營と共に式場の清潔保持に努め、一方式典前宮内省傳染病豫防會により式場參入者中傳染病關係者の調査を行つて該當者無きを認めた。

尙ほ救護施設は御巡幸當日に倣ひ、宮城外苑式場内に第一・第二の救護所二箇所を設けた、其の他式場内には一般參列者席後方に假設したる便所の清潔保持に注意し、消毒に遺漏なきを期し、且つ御巡幸當日施設したる御道筋便所中九箇所は式典當日まで保存し、一般公衆に使用せしめた。

第四節　御道筋竝御立寄箇所下檢分

行幸を仰く復興帝都は豫定の如く諸般の準備を了したので市は、再度の下檢分をなし當日の奉迎豫習を行つて遺漏なきを期したか、更に三月十八日午後より御召車に御陪乘御說明の重任を負ふ鈴木侍從長竝河合侍從次長以下要路の人々は中川復興局長官・堀切東京市長の案内て四臺の自動車に分乘宮内省を出發、御巡幸御道筋御立寄箇所の檢分を行つた、順路は先つ坂下門を出て日比谷公園東側から昭和通りに拔け、岩本町から大正通りを經て九段坂上を左田安門に入り、近衞第一聯隊内の展望所へ約三十分て到着し、ここは牛ケ淵公園を眼下に見下す突堤て、丸の内から日本橋神田・本郷・小石川方面を一望に俯瞰する絶好の場所にて、中央氣象臺の大無線塔の間に三越の屋上及駿河臺のニコライ堂も遙か彼方に巨大な姿を現し、其の他砲兵工廠・神田區を隔て帝國大學の中央講堂は、春霞の中に浮き出て市街・住宅・ビルデングの整然として櫛比してゐる姿は、復興の偉力によつて生み出された新裝帝都の雄々しい姿てある、一行はここより神保町を經、水道橋の府立工藝學校に向ひ、玄關には牛塚知事の出迎を受けて御座所便殿拜謁室の飾り付けもすつかり濟んて晴

れの御巡幸を御待ち申上くるはかりになつてゐた、陳列室の陳列、東京府の献上品等を檢分して同校を退き、上野公園に向つた、ここには、西郷銅像は特に洗ひ清められ、其の前に二十一尺に十五尺高さ四尺五寸の御展望臺は工事中であつたか侍従長と堀切市長と中川復興局長官は假臺に上つて淺草・下谷・神田方面の一帶を見渡してから隅田公園に急いた、隅田川の流れに沿ふ細長い公園てある侍従長はここにてボートレースの御覽を賜はる御位置なとに就て暫く考へ、更に一行は、明治大帝の碑の周圍を一巡して後、第三十號幹線街路から中之郷を經て被服廠跡震災記念堂に着いた、記念堂は災害を追憶せしむる樣々の記念物の陳列を終へたところてあつた、續いて日本橋の千代田小學校に入ると、屋上からは、隅田川を足下に對岸の江東一帶から淺草・日本橋・神田方面を眺望し得る絶好の場所て復興帝都の姿か展開し、更に一行は市立築地病院の諸施設を視察したる後午後六時半全部の下檢分を終つて歸路に着いた。

第三章　帝都復興完成祝賀會設備

第一節　土木設備

一　祝賀會場

本市主催祝賀會場の位置は日比谷公園内公會堂前廣場及其の附近一帶に定め、主賓は式典當日參列者中一萬三千二百人其の他を合して一萬五千人を招待する準備を整へた、公會堂前は食堂・第一休憩所即ち特別招待者休憩所・市會議員休憩所・新聞記者休憩所・陸海軍奏樂所・擴聲機室・救護所・手洗所・各掛員の詰所等を設け又兒童遊園側大芝生附近に餘興用舞臺・第二休憩所(一般招待者の分)受付兼記念品渡場・湯呑所及掛員詰所等を設備した。

二　會場各種設備

特別招待者は中幸門、一般招待者は櫻門及霞門を出入口と定めた、各門の裝飾は左の如くてある。

日比谷門	杉緣葉張	一箇所
櫻門・幸門・霞門	杉緣葉張	三箇所
有樂門・中幸門	杉緣葉張	二箇所

第一休憩所第二休憩所六箇所入口國旗交叉

食堂　食堂は天幕張骨組紅白布卷內部萬國旗・經木モール裝飾、外廻りは紅白幕張とし、一箇所延二千六百七十二坪、食卓四百五十脚を配置した

配膳室並掛員詰所　配膳室は天幕張骨組紅白布卷とし、外廻りは間仕切、廻り紅白幕張として二箇所を設けた、延坪百二十坪てある

第一休憩所　第一休憩所は天幕張とし、一箇所四十八坪、內部は上床板張とした

市會議員休憩所　市會議員休憩所は天幕張とし、一箇所三十二坪、內部を床板張とした

新聞記者休憩所　新聞記者休憩所は天幕張一箇所其の延六十坪てある

奏樂所　奏樂所は天幕張り二箇所其の延四十二坪てある。

擴聲機械室　擴聲機械室は天幕張一箇所六坪

第二休憩所　第二休憩所は天幕張十一箇所、其の延八百六十坪、骨組紅白布卷、外廻り一部は紅白幕張とし外部には湯呑所及腰掛を設けた

舞臺　舞臺は天幕張四箇所延九十五坪、骨組紅白布卷周圍幕張として巾五間奥行三間三箇所、巾八間奥行五間一箇所

掛員詰所　掛員詰所は天幕張り五箇所とし延四十坪てある

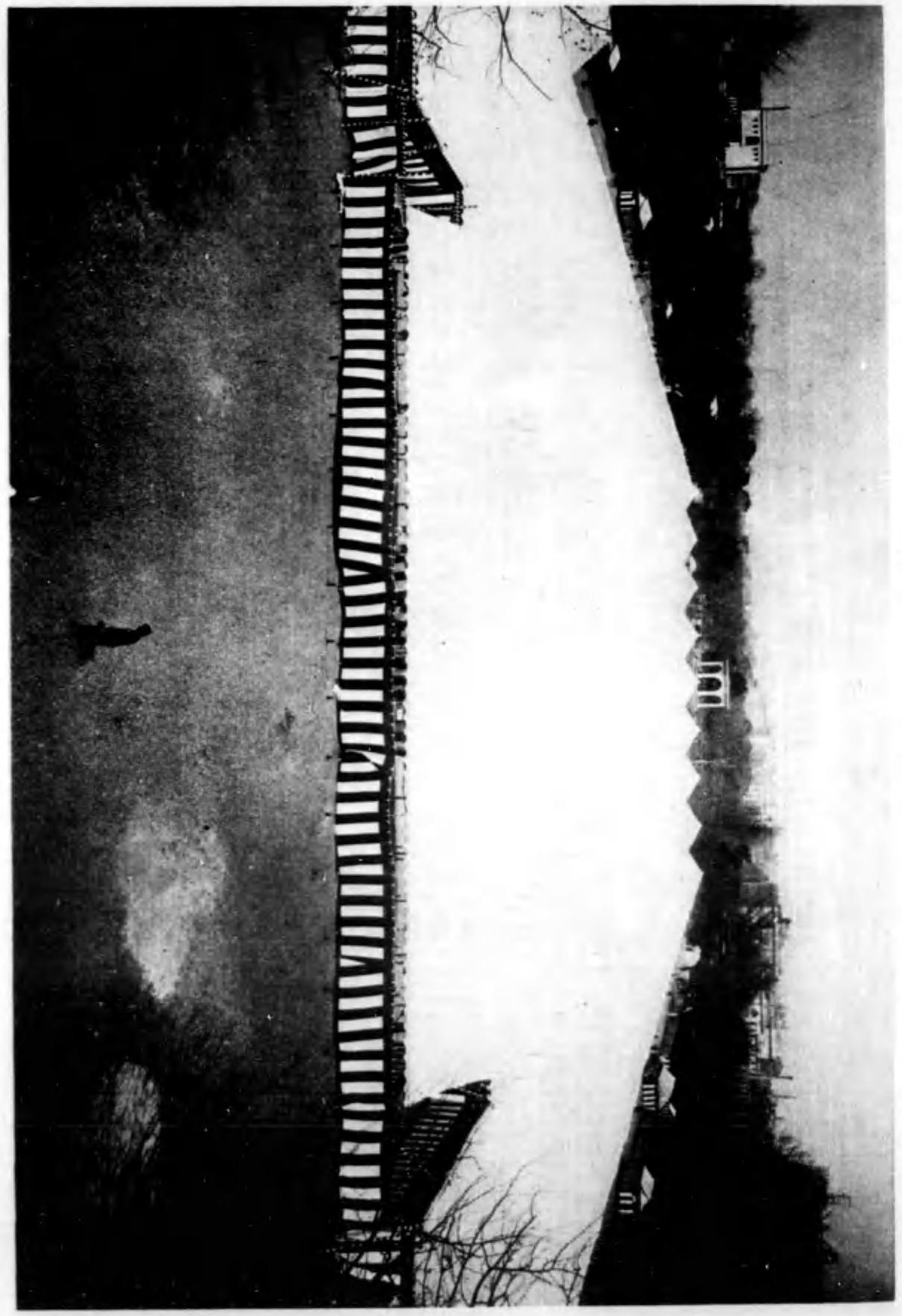
救護所並湯呑所　兩所は各天幕張三箇所とし、延二十四坪てある

手洗所　手洗所は、天幕張六箇所とし延六坪てある

受付兼記念品渡場　受付兼記念品渡場は天幕張二箇所とし延四十二坪柱紅白卷を施した

假便所　假便所は木造十箇所とし延十二坪五合、屋根は天幕張とした

設備



日比谷公園祝賀會場

現場監督員詰所　現場監督員詰所は木造一箇所十五坪である

三　會場内外備付

(一)　卓子及椅子其の他の設備數

區別	卓子	椅子	灰皿	茶碗	土瓶	帽子掛
第一休憩所	六	二〇〇	二〇	二〇〇	五〇	二〇〇人分
市會議員休憩所	三	八八	一〇	八八	二二	八八人分
新聞記者休憩所	三	一〇〇	一〇	六〇	一九	一〇〇人分
第二休憩所	四〇	一、〇〇〇	一五〇	三、〇〇〇	七五〇	—
掛員詰所	八	一〇	一二	七〇	一二	一八〇人分
救護所	八	一〇	六	六〇	一二	一五人分

(二)　埒及建札

埒及建札は埒延長七十二間臨時埒延長二十二間とし、埒は紅白布巻、臨時埒は紅白綱とし、何れも會場の整理・警備上各所遮斷通路に之を施設した。臨時埒は第二休憩所より食堂に至る通路に設け、祝賀會開始前之を取除き、建札は總數百六十一枚を各要所に建て案内の便に供した。

第二節　電氣設備

寫眞

祝賀會場内部の装飾及設備

一　電燈

日比谷公園祝賀の會場電燈設備は記念品準備の爲係員詰所受付口に備へ、尙ほ祝賀會場食堂南隅高聲電話放送室に擴聲機電線用として電燈一燈を施設した。

設備燈數及燭力

櫻門口受付	燭力百ワット	三
同係員詰所	〃	一
霞門口受付	〃	三
同係員詰所	〃	一
高聲電話放送室	〃	一
計		九

施工

工事着手	三月二十二日	同竣功	同日
點燈	三月二十五日		

二　電話

祝賀會場の食堂、第二休憩所間は掛員連絡用として休憩所掛員詰所・會場機械室に電話機各一箇を設備し、工事は三月七日着手、三月二十三日竣功した。而して之を三月二十六日迄存置し、三月二十九日全部之を撤去した。工事中は請負人側より數名の夜番を配置し、尙ほ麴町・日比谷兩警察署及消防署より好意的に警官消防手を派遣せられ、嚴重警戒の任に當られた。本工事は、神田區錦町三丁目十番地日本裝飾株式會社の請負に係り工事費二萬七千六百三十九圓九十一錢を要し、又同會場內「マイクロホン」の裝飾工事は金十五圓を以て麴町區有樂町二丁目二番地東京農產商會の請負に付して施行した。

三　高聲電話

祝賀會場に市長の挨拶を放送する爲、市長食卓前送話器より六箇所・第二休憩所に三箇所の擴聲器を備付けた。

第三節　衞生設備

祝賀會當日の茶菓・料理・調製に從事する者、其の家族及使用人の健康診斷を行ひ、施行したる數は二十二箇所四百十一名に及んだ、健康診斷は三月十三日より、二十一日迄、衞生課勤務醫員之に當り市衞生試驗所は三月十一日より二十日迄に採便檢査、各二回を施行した。

更に十六箇所の調理場は料理請負人の手によりて遺漏なきを期したか更に職員を派して器具材料の檢査を開始し、調理に際しては職員をして指導に當らしめた　（祝賀會救護施設は式典設備の項參項）

第四編　帝都復興祭

第一章　行幸仰出

宮内省告示第一四號

天皇陛下來二十四日復興帝都御巡幸アラセラルヘキ旨仰出サル

但シ二十四日雨天ノ節ハ翌二十五日ニ御變更アラセラル

昭和五年三月十九日

宮内大臣　一木喜德郎

第二章　行幸御次第

第一節　復興帝都御巡幸

一　御發着御時間

三月二十四日　復興帝都御巡幸

宮城御出門前		九・四五	六哩三六	所要時間三二分
九段坂上	著御同	一〇・一七		
	發御同	一〇・二七	一哩〇二	同　五分
府立工藝學校	著御同	一〇・三二		
	發御同	一〇・五八	一哩八七	同　九分
上野公園	著御同	一一・〇七		
	發御同	一一・一七	二哩〇五	同　一〇分
隅田公園	著御同	一一・二七		
	發御同	一一・三九	一哩四一	同　七分
震災記念堂	著御同	一一・四六		
	發御同	一一・五二	一哩五六	同　八分
市立千代田尋常小學校	著御正午	一二・〇〇		
	發御午後	一二・五二	四哩〇八	同　二〇分
市立築地病院	著御同	一・四五		
	發御同	二・〇五	一哩九九	同　一〇分
宮城還御	同	二・一五		

御道筋里程　所要時間
二〇哩三四　四時間四十分（御車上時間　一時間四十一分、御立寄時間　二時間四十九分）

二　御巡幸御次第

三月二十四日(月)

午前九時三十五分

御學問所ニ於テ内閣總理大臣・內務大臣・復興局長官・東京府知事・東京市長ニ拜謁(控所右廂)

同　九時四十五分　御出門

同十時十七分　(一)九段坂上(田安門内近衛歩兵第一聯隊)著御　所要時間十分間

將校集會所前ニテ御下車　近衛師團長以下奉迎送　｝二分

御先導(近衛歩兵第一聯隊長)御展望所へ

拜謁　福田元戒嚴司令官、近衛師團長　｝六分

復興狀況御展望

御說明復興局長官・內務大臣・東京府知事・東京市長

同十時二十七分　發御　(近衛歩兵第一聯隊長御先導)　｝二分

同十時三十二分(二)府立工藝學校著御　所要時間二十六分間

御先導(東京府內務部長)御休所へ

復興事業奏上(東京府知事)

拜謁　一、宮中席次第一階ノ者

列立

二、同第二・第三階ノ者　｝十一分

三、同第四階以下ノ者其ノ他

府執行復興東京資料及工藝學校設備御覽　｝十五分

御先導御說明(東京府知事)

同十時五十八分　發御

同十一時〇七分(三)上野公園著御　所要時間十分間

御先導(復興局土木部長)御展望所ヘ　一分

拜謁　四人

　湯淺會計檢査院長(元警視總監)・宇佐美資源局長官(元東京府知事)・永田元東京市長・森岡元近衞師團長

復興狀況御展望

御說明(東京市長・內務大臣・復興局長官・東京府知事)　八分

同十一時十七分　發御　(復興局土木部長御先導)　一分

同十一時二十七分(四)隅田公園著御　所要時間十二分間

言問橋東詰ニテ御下車

御先導(復興局建築部長)

　日本漕艇協會分列式御覽(十二校)

明治天皇記念碑御覽(德川圀順奉迎送)

公園御視察(御徒步)

御說明(復興局長官・內務大臣・東京府知事・東京市長)　十二分

同十一時三十九分　發御　(隅田公園源森橋出口ヨリ)

同十一時四十六分(五)震災記念堂著御　所要時間六分間

御先導(東京市助役)堂內ヘ

震災記念物御覽　六分

御說明(東京市長)

同十一時五十二分　發御

正午十二時(六)市立千代田尋常小學校著御　所要時間一時間二十五分

御先導(東京市助役)御休所ヘ　二分

御休憩

復興事業奏上竝書類奉呈(復興局長官・東京市長)

拜謁　列立

　一、宮中席次第三階以上ノ者

　二、同第四階以下ノ者及其他　十三分

御晝餐

屋上御展望　五十分

市立小學校兒童代表奉拜

國執行及市執行復興事業關係資料御覽

御先導御說明(復興局長官・東京市長)　二十分

午後一時二十五分　發御　(東京市長御先導)

同一時四十五分(七)市立築地病院著御　所要時間二十分間

御先導(東京市助役)御休所ヘ　二分

拜謁　築地病院長　一分

復興衞生施設社會事業關係資料御覽
御說明（東京市長）　五分
屋上御展望（二箇所芝方面・築港）
御先導（東京市長）
御說明（復興局長官・東京市長・內務大臣・東京府知事）　七分
病院內施設御覽
御先導御說明（東京市長・築地病院長）　五分

同二時〇五分　發御
同二時十五分　還御

三　御巡幸御道筋

宮城正門ヨリ右ヘ馬場先門跡ヨリ濠端ニ右ヘ日比谷公園東側櫻田本鄉町ヲ經テ愛宕町三丁目五番地角左ヘ宇田川町二十五番地角左ヘ第一號幹線街路（昭和通）芝口二丁目一番地角右ヘ同第一號幹線街路（昭和通）蓬萊橋・新京橋・江戶橋ヲ渡リ和泉廣場ヨリ左ヘ第二號幹線街路（大正通）佐柄木町・小川町・駿河臺下・神保町・爼橋ヲ經テ九段坂上左ヘ田安門內ヘ田安門ヲ出テ左ヘ九段坂ヲ下リ仲猿樂町一番地角左ヘ第十三號幹線街路水道橋ヲ渡リ本鄉區元町一丁目東京府立工藝學校ヘ東京府立工藝學校ヲ出テ右ヘ第十三號幹線街路弓町一丁目一番地角右ヘ壹岐坂ヲ上リ第四十四號幹線街路本鄉一丁目七番地角右ヘ第十二號幹線街路湯島六丁目二十番地角右ヘ第二十二號幹線街路（藏前橋通）五軒町十番地角左ヘ第三十五號幹線街路（昌平橋通）池ノ端仲町十番地角右ヘ不忍池畔上野元黑門町二十一番地角左ヘ上野公園ヘ上野公園ヲ出テ左ヘ上野廣場・車坂町十三番地角右ヘ第六號幹線街路（駒形橋通）松淸町一番地角左ヘ田原町三丁目一番地角右ヘ雷門前ヲ經テ花川戶町四番地角左ヘ第三十二號幹線街路右ヘ言問橋ヲ渡リ隅田公園ヘ

但シ雨天ノ爲メ公園內御徒步御巡察御取止メノ場合ハ御道筋中「言問橋ヲ渡リ以下次ノ道筋中源森橋ヲ渡リ」迄ヲ「言問橋ヲ渡リ新小梅町七番地角ヲ右ヘ第三十號幹線街路源森橋ヲ渡リ」ニ改ム隅田公園南出口ヲ出テ右ヘ第三號幹線街路源森橋ヲ渡リ中之鄉元町二十四番地角右ヘ第六號幹線街路（駒形橋通）表町一番地角左ヘ第十號幹線街路（江東通）番場町ヲ經テ震災記念堂ヘ震災記念堂ヲ出テ左ヘ橫網公園角左ヘ第二十二號幹線街路（藏前橋通）藏前橋ヲ渡リ藏前片町二十一番地角左ヘ第五號幹線街路（淸杉通）淺草橋ヲ渡リ若松町十五番地角左ヘ矢ノ倉町東京市立千代田尋常小學校ヘ東京市千代田尋常小學校ヲ出テ村松町十六番地角左ヘ第五號幹線街路（淸杉通）淸洲橋ヲ渡リ第二十八號線街路（淸砂通）仲大工町十五番地角右ヘ第十號幹線街路（江東通）門前仲町十四番地角右ヘ第三號幹線街路（永代橋通）永代橋ヲ渡リ斜ニ左ヘ第十七號幹線街路（通）本八丁堀三丁目五番地角左ヘ第五號幹線街路（市場通）市場橋前右ヘ築地川東支川ニ沿ヒ北門橋ヲ渡リ東京市立築地病院ヘ東京市立築地病院ヲ出テ北門橋ヲ渡リ右ヘ市場橋前左ヘ築地三丁目十八番地角左ヘ第四號幹線

街路（歌舞伎通）三原橋ヲ渡リ銀座四丁目九番地角右ヘ銀座通京橋ヲ渡リ南傳馬町三丁目十五番地角左ヘ第十七號幹線街路鍛冶橋ヲ渡リ馬場先門跡ヲ經テ宮城正門ヘ

四　天皇略式自動車鹵簿（三月二十四日御巡幸）

近衛將校　近將將校
警察官自動車　天皇 御自動車 侍從長陪乘　皇宮警察官　侍從 自動車　侍從武官長 自動車
近衛將校　近衛將校　侍從武官　侍從

內大臣 侍從職御用掛 自動車　宮內大臣 宮內書記官 自動車　警察官自動車

五　供奉員

宮內大臣		宮內書記官	一人
侍從長		侍從	二人
侍從職御用掛	二人	侍醫	一人
主膳監	一人	內大臣	
侍從武官長		侍從武官	一人
近衛將校	五人	計	十七人

判任官同待遇　三〇人　雇員　六人
傭人　十二人　計　四八人

六　御道筋竝御立寄箇所略圖（折込圖）

第二節　帝都復興完成式典臨御

一　御出門竝還御御時間

三月二十六日　復興完成式典臨御
午前十時三十分　宮城御出門
午前十時五十分頃　宮城還幸

二　帝都復興完成式典順序

昭和五年三月二十六日二重橋前廣場ニ於テ擧行

一　午前十時迄ニ一般參列者竝招待者中式殿前ニ參列スル者式場內所定ノ位置ニ整列

一　午前十時二十分總理大臣・內務大臣・復興局長官・東京府知事・東京市長式殿正面下所定ノ位置ニ整列其ノ左右兩側ニ整列スル者亦同シ

一　午前十時二十五分招待者中式殿上ニ參列スル者式殿上所定ノ位置ニ整列

一 午前十時二十八分各國大公使前同斷
一 午前十時三十分各宮殿下式場正門御車寄ニ御整列
一 午前十時三十分宮城發御
一 午後十時三十三分式殿出御各宮殿下御扈從參列員一同最敬禮
一 午前十時三十三分內務大臣式辭奉讀
一 午前十時四十分 勅語 參列員一同最敬禮
一 午前十時四十三分內閣總理大臣發聲
　天皇陛下ノ萬歲三唱參列員一同之ニ和ス
一 午前十時四十五分式殿入御各宮殿下御扈從參列員一同最敬禮
一 午前十時四十七分式場御車寄發御

還御

附記

一 式場着御ヨリ式殿出御マテノ間及式殿入御ヨリ式場發御マテノ間陸海軍々樂隊「君が代」奏樂
一 還幸ノ後各宮殿下御退出續テ各國大公使式殿上參列ノ招待者一般參列者ノ順ニテ退出
　各宮殿下ノ御入場時間竝其ノ他ノ參列者ノ入場受付時間ハ別ニ定ム
一 參列員
　一 招待者 各國大公使 大勳位以下 約一萬三千人
　一 一般參列者 府市公民代表者其ノ他約四萬三千人

三 天皇略式馬車鹵簿（三月二十六日帝都復興完成式典式場臨幸）

警部騎馬　警部騎馬
近衛騎兵
天皇旗近衛騎兵捧持
近衛騎兵
近衛將校騎馬　天皇御馬車 侍従長陪乘　近衛將校騎馬
近衛騎兵
侍従武官　侍従馬車

內大臣　侍従 侍醫 馬車　侍従武官長
馬車
宮內大臣　宮內書記官
馬車
警部騎馬　警部騎馬

四 鹵簿列外扈從者自動車順序

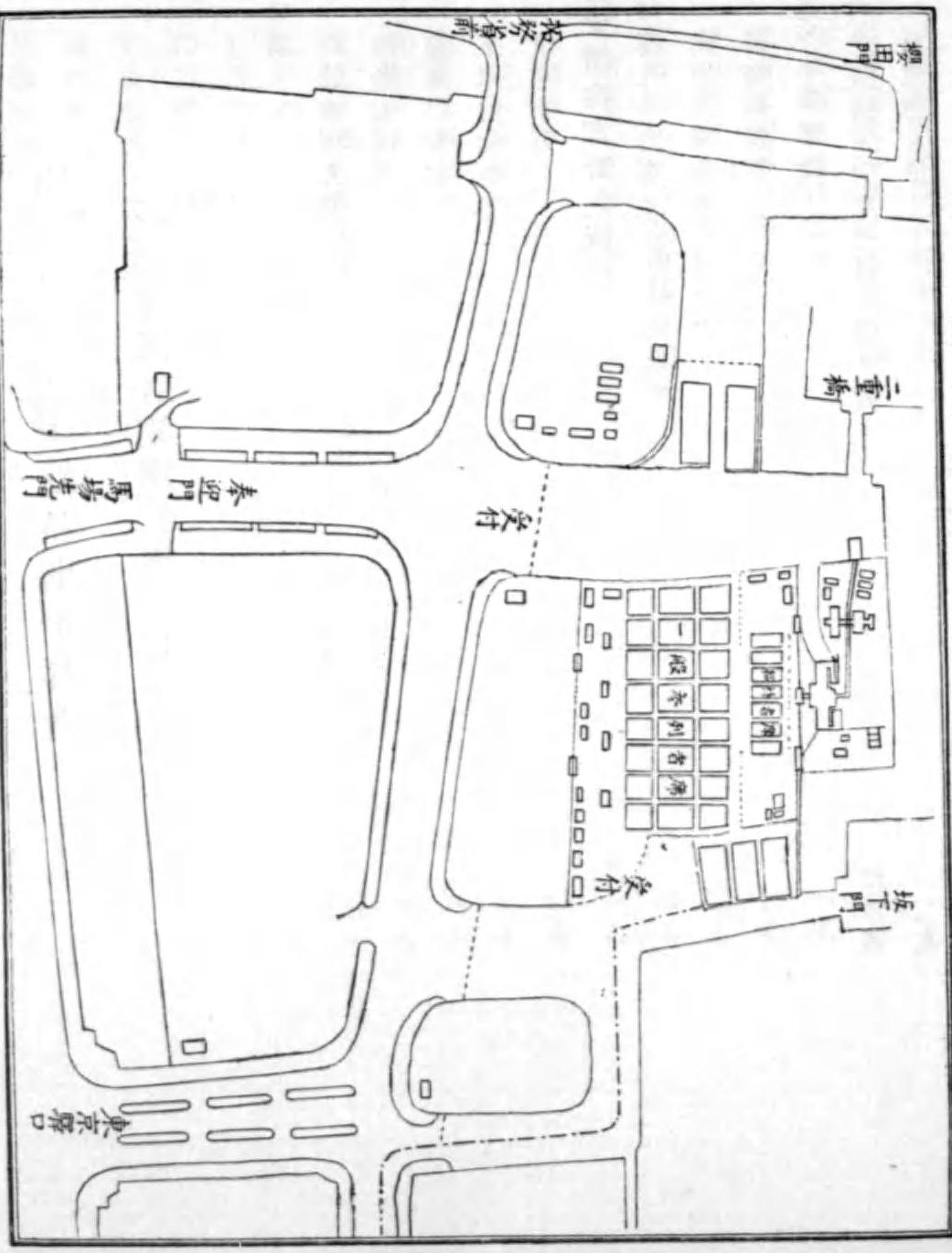
第一 內務大臣・復興局長官
第二 東京府知事・東京市長
第三 警視總監・內務省警保局長・警視廳警務部長
第四 憲兵司令官・東京憲兵隊長
第五 宮內大臣・宮內次官・官房總務課長

五 供奉員

尙ほ當日の供奉員は次の如くである。

內大臣
宮內大臣
宮內書記官一人
侍從長
侍從二人
侍從職御用掛二人
侍從武官長
侍從武官一人
近衞將校五人
侍醫一人
主膳監一人
計一七人
判任官同待遇三〇人、
雇員六人
傭人一二人
計四八人

六 式殿竝式場略圖



第三節　拜謁竝特別奉拜者

一　拜謁者範圍（順序不同）

イ　宮中

單獨拜謁

一　內閣總理大臣
一　內務大臣
一　復興局長官
一　東京府知事
一　東京市長

ロ　九段田安門內御野立所

單獨拜謁　二名

一　福田元關東戒嚴司令官
一　近衛師團長

ハ　東京府立工藝學校

第一　列立拜謁宮中席次第一階ノ者　三六名

一　元內務大臣　二名
一　山本內閣々員　六名

一　元帝都復興審議會委員　三名
一　元帝都復興院評議會々長　一名
一　元帝都復興院評議會評議員　四名
一　元帝都復興院總裁　一名
一　元帝都復興院參與　二名
一　特別都市計畫委員會委員　三名
一　元特別都市計畫委員會委員　一四名

第二　列立拜謁宮中席次第二階及第三階者　一四一名

一　內務次官　一名
一　元東京府知事　二名
一　復興局勅任官　八名
一　元復興局勅任官　一八名
一　東京府復興事業關係勅任待遇者　一名
一　元帝都復興審議會委員　二名
一　元帝都復興院副總裁　二名
一　元帝都復興院理事（局長タリシ者）　二名
一　元帝都復興院參與　九名
一　特別都市計畫委員會委員　三二名
一　元特別都市計畫委員會委員　三〇名

一　補償審査會委員　三名
一　元補償審査會委員　七名
一　元復興局奏任官ニシテ現勅任官タル者　一〇名
一　復興局職員ニシテ宮中席第三階以上ノ者　一名
一　東京府復興事業關係元職員ニシテ宮中席次第三階以上ノ者　一名

第三　列立拜謁（宮中席次第四階以下ノ者共ノ他）　五一六名

一　元復興局長官　一名
一　元復興局勅任官　一名
一　復興局奏任官　八〇名
一　元復興局奏任官　一六〇名
一　元帝都復興院評議會評議員　七名
一　元帝都復興院參與　五名
一　特別都市計畫委員會委員　八名
一　元特別都市計畫委員會委員　二名
一　補償審査會長　一名
一　補償審査會委員　二名
一　元補償審査會委員　一名
一　警視廳官房主事・各部長・行幸關係ノ高等官タル課長　二三名
一　東京府復興事業關係奏任官・同待遇者　四三名

一　東京府復興事業關係元課長以上　九名
一　復興局職員ニシテ宮中席次第六階以上ノ者（常務ノ者ニ限ル）　一三名
一　東京府復興事業關係職員ニシテ宮中席次第六階以上ノ者（常務ノ者ニ限ル）　七名
一　東京府會議長　一名
一　元東京府會議長　七名
一　東京府會議員　八一名
一　東京府立工藝學校長　一名

ニ　上野公園御野立所

單獨拜謁　四名

一　湯淺會計檢査院長（元警視總監）
一　宇佐美資源局長官（元東京府知事）
一　永田貴族院議員（元東京市長）
一　森岡陸軍大將（元近衛師團長）

ホ　東京市千代田尋常小學校

第一　列立拜謁（宮中席次第三階以上ノ者）　四五名

一　元東京市長　三名
一　東京市參與　一名
一　東京市助役　一名

一 元東京市助役　五名
一 東京市會議長　一名
一 元東京市會議長　一名
一 東京市局長　二名
一 東京市復興關係職員ニシテ宮中席次第三階以上ノ者(常務ノ者ニ限ル)　七名
一 東京市復興事業關係元課長以上ニシテ宮中席次第三階以上ノ者　一二名
一 東京市會議員　二名
一 元東京市會議員　一名
一 東京市衛生常設委員　三名
一 元東京市衛生常設委員　四名
一 東京市復興事業關係元區學務委員長　一名
一 土地區劃整理委員會元議長ニシテ宮中席次第三階以上ノ者　一名

第二 列立拜謁(宮中席次第四階以下ノ者共他)　五三一名

一 復興局奏任官(千代田小學校詰ノ者)　五名
一 元復興局奏任官　二名
一 東京市助役　二名
一 元東京市助役　六名
一 東京市局長　四名
一 東京市復興事業關係係長以上　一二七名
一 東京市復興事業關係元課長以上　四六名
一 東京市復興事業關係職員ニシテ宮中席次第六階以上ノ者(常務ノ者ニ限ル)　三四名
一 東京市復興事業關係區長　一〇名
一 東京市復興事業關係元區長　一三名
一 東京市會議員　八一名
一 元東京市會議員　八六名
一 東京市學務委員　五名
一 元東京市學務委員　八名
一 東京市衛生常設委員　五名
一 元東京市衛生常設委員　六名
一 東京市復興事業關係區會議長　四名
一 東京市復興事業關係元區會議長　三名
一 東京市復興事業關係區學務委員長　七名
一 東京市復興事業關係元區學務委員長　一〇名
一 土地區劃整理委員會議長　六一名
一 土地區劃整理委員會元議長　五名
一 東京市立千代田尋常小學校長　一名

ヘ 東京市築地病院

單獨拜謁

一　築地病院長　　一名

備考

一　元何々ト稱スルハ大正十二年九月以降ノモノ

二　特別奉拜者

區別	人員 二重橋際	九段坂上	工藝學校	上野公園	震災記念堂	千代田小學校	築地病院
計	二、〇〇〇	六三四	一五一	一、〇八一	八〇六	四一二	七一三
市會議員						八四	
市會議員待遇者							八五
市ノ各委員				一六			五二
區會議員		一八一		一三三	八四	四〇	一五三
區會議員待遇者		二四九		一五三	一三一	五六	二三九
土地區劃整理委員		一二六		二一一	二八〇	九五	一四九
區各委員		三八		二四	一六	四	二五
方面委員				四九四			
上野恩賜公園關係者				三〇			
震災記念堂關係者					一七五		
罹災私立中學校長			五〇				
復興局職員	一、〇〇〇						
東京府職員			三八				
各廨長			二八				
市職員及市政記者	一、〇〇〇	四〇		二〇	二〇	一三三	二〇
關係町村長（隣接ヲ含ム）			三五				

第四節　御賑恤金下賜

畏くも　聖上陛下三月二十二日東京府市に對して金三萬圓下賜の御沙汰を拜し、畏き大御心のは今ここに七年間の辛酸酬ひられ全市を擧けて復興を慶祝するに當つて其の中にある細民の歡ひを共にすることを得ないてはとの極みなき聖慮と拜し奉る。一木宮相は午前九時三十分、牛塚東京府知事・堀切東京市長の宮内省に出頭を求め、左記震災記念堂への御下賜と共に畏き聖旨を傳達せられ、兩氏は謹みて聖旨を拜受し、御仁慈の深きに感激して退下した。

金三萬圓　　東京府　東京市

右今般帝都御完成ニ際シ以賑恤の御思召下賜

銀花瓶　一對　　震災記念堂

祭祀料金一千圓

東京市は畏き聖旨に添へ奉つるに遺漏なきを期し、御下賜金を左の如く處理した。

帝都復興式典恤救事業

一　昭和五年三月十八日帝都復興祭ニ際シ府下窮民恤救費トシテ金三萬圓御下賜アリタル旨東京府ヨリノ通知ニ接シ東京市社會局長ハ東京府ニ出頭シ府市一萬五千圓宛折半ヲ協議ス

一　昭和五年三月十九日堀切市長ハ御下賜金一萬五千圓ニ市費八千七百六十八圓ヲ追加シテ別表恤救事業ヲ行フ旨參事會ニ報告ス

一　昭和五年三月二十五日東京市長ハ御下賜金壹萬五千圓也ヲ東京府ヨリ受領ス

一　恤救事業左記ノ如シ

イ　勞働者恤救事業

勞働紹介所ニ於テ復興式典三日間一枚五十錢ノ食券ヲ左記數ノ勞働者ニ配給ス

記

紹介所別	人員	單價	金額
芝浦勞働紹介所	一,〇七六人	〇.五〇圓	五三八.〇〇圓
深川〃	三,〇五〇人	〃	一,五二五.〇〇
江東橋〃	三,五二一人	〃	一,七六〇.五〇
玉姫〃	二,四四七人	〃	一,二二三.五〇
技術〃	八六九人	〃	四三四.五〇
新宿〃	一,五七三人	〃	七八六.五〇
計	一二,五三六人	〃	六,二六八.〇〇〇

ロ　要保護者恤救事業

市内要保護者ニハ一世帶七十錢ノ白米引換劵ヲ方面事務所及區役所ヲ通シテ左記ノ通リ配給ス

區別	世帶數	單價	金額
麴町區	七〇	〇.七〇圓	四九.〇〇〇圓
神田區	一三〇	〃	九一.〇〇〇
日本橋區	一〇	〃	七.〇〇〇
京橋區	一,七五〇	〃	一,二二五.〇〇〇
芝區	一,九六〇	〃	一,三七二.〇〇〇
麻布區	一,〇三〇	〃	七二一.〇〇〇
赤坂區	八〇	〃	五六.〇〇〇
四谷區	九六〇	〃	六七二.〇〇〇
牛込區	七四〇	〃	五一八.〇〇〇
小石川區	一,七七五	〃	一,二四二.五〇〇
本郷區	七五〇	〃	五二五.〇〇〇
下谷區	二,八七〇	〃	二,〇〇九.〇〇〇
淺草區	三,七一五	〃	二,六〇〇.五〇〇

本所區	四、二六〇	〃	二、九八二、〇〇〇
深川區	四、九〇〇	〃	三、四三〇、〇〇〇
計	二五、〇〇〇	〃	一七、五〇〇、〇〇〇

一　備考

イ　白米券及食券引換不能ノ爲返納セル金額三十九圓

ロ　印刷費九十二圓二十錢・小學校小使謝禮十六圓・警官茶菓料二十七圓ハ普通市費ヨリ別途支出ス

一　復興祭年月日　昭和五年　自三月二十四日　至三月二十六日

一　御下賜金拜受月日　同　三月二十五日

一　市長參事會報告ノ日　同　三月十九日

一　方面救濟世帶　二五、〇〇〇世帶　一世帶　〇、七〇

計　一七、五〇〇〇圓

一　勞働者救濟人員　一二、五三六人　一人當リ　〇、五〇

計　六、二六八圓

記

御下賜金ノ處理ニ關スル件

一　日傭勞働者

芝浦勞働紹介所分　一、〇七六人

深川　〃　三、〇五〇人

江東橋　〃　三、五二一人

玉姫　〃　二、四四七人

技術　〃　八六九人

新宿　〃　一、五七三人

計　一二、五三六人

二　要保護者

下谷區　二、八七〇世帶

深川區　四、九〇〇〃

淺草區　三、七一五〃

本所區　四、二六〇〃

京橋區　一、七五〇〃

芝區　一、九六〇〃

小石川區　一、七七五〃

四谷區　九六〇〃

本郷區　七五〇〃

麻布區　一、〇三〇〃

牛込區　七四〇〃

麴町區　七〇〃

神田區　一三〇〃

日本橋區	一〇〃
赤坂區	八〇〃
計	二五、〇〇〇〃

市郡ニ於ケル御下賜金配付狀況一覽表

一　日傭勞働者

芝浦勞働紹介所分	一、〇七六人
深川〃	三、〇五〇〃
江東橋〃	三、五二一〃
玉姬〃	二、四四七〃
技術〃	八六九〃
新宿〃	一、五七三〃
計	一二、五三六〃

二　要保護者

下谷區	二、八七〇世帶
深川區	四、九〇〇〃
淺草區	三、七一五〃
本所區	四、二六〇〃
京橋區	一、七五〇〃
芝區	一、九六〇〃

小石川區	一、七七五〃
四谷區	九六〇〃
本郷區	七五〇〃
麻布區	一、〇三〇〃
牛込區	七四〇〃
麴町區	七〇〃
神田區	一三〇〃
日本橋區	一〇〃
赤坂區	八〇〃
計	二五、〇〇〇〃

附記

市長謹話

只今宮內大臣から復興完成に際し、賑恤の思召をもつて府市に三萬圓を御下賜相成る旨、傳達されました。震災の當初にも優渥なる御沙汰を賜はつて「救護に遺憾なき樣期せよ」との有難き思召しを拜し奉つたので當時市民は深く感激したのでありました。今また復興完成に際し斯の恩命を拜することは實に帝都市民として恐懼感激極まりなき次第であります。依ていかなる方法で傳達し聖旨を徹底せしむるかに就ては篤と協議を重ねました結果、市方面委員の手を經て食券として上記の市民に分與することにいたしました。

尙ほ震災記念堂には銀製花瓶竝祭祀料を給はりました五萬八千人の震災遭難者の靈に宏大無邊なる大御心のほとは定めし感通されたことと思はれます花瓶は目錄としていたゞきました、祭祀料はお祭りに使ふのでありますか基金の中に入れるかとうか未た決定しておらぬか記念堂の完成式は多分九月一日となりませう、その時には花瓶も出來て飾りつけることか出來やうと思ひます。

第三章　復興帝都御巡幸御模樣

第一節　御出門前拜謁

復興帝都御巡幸御出門前東京市長に拜謁仰付らるる旨左の通牒かあつた。

復奉發第九七號

昭和五年三月十七日

復興局長官　中川望 印

東京市長　堀切喜次郎殿

拜啓陳者

天皇陛下來ル三月二十四日(當日雨天ノ節ハ二十五日)復興帝都御巡幸被爲在候ニ付當日御出門前宮中御學門所ニ於テ拜謁被仰候趣ニ有之候間御了承相成度此段申進候敬具

追テ拜謁時刻ハ午前九時三十五分ノ御豫定ニ有之候間九時十五分迄ニ東御車寄ヨリ參內相成候樣被致度(控所右廂)尙御巡幸中列外扈從ノコトニ相成居候ニ付御了知相成度候

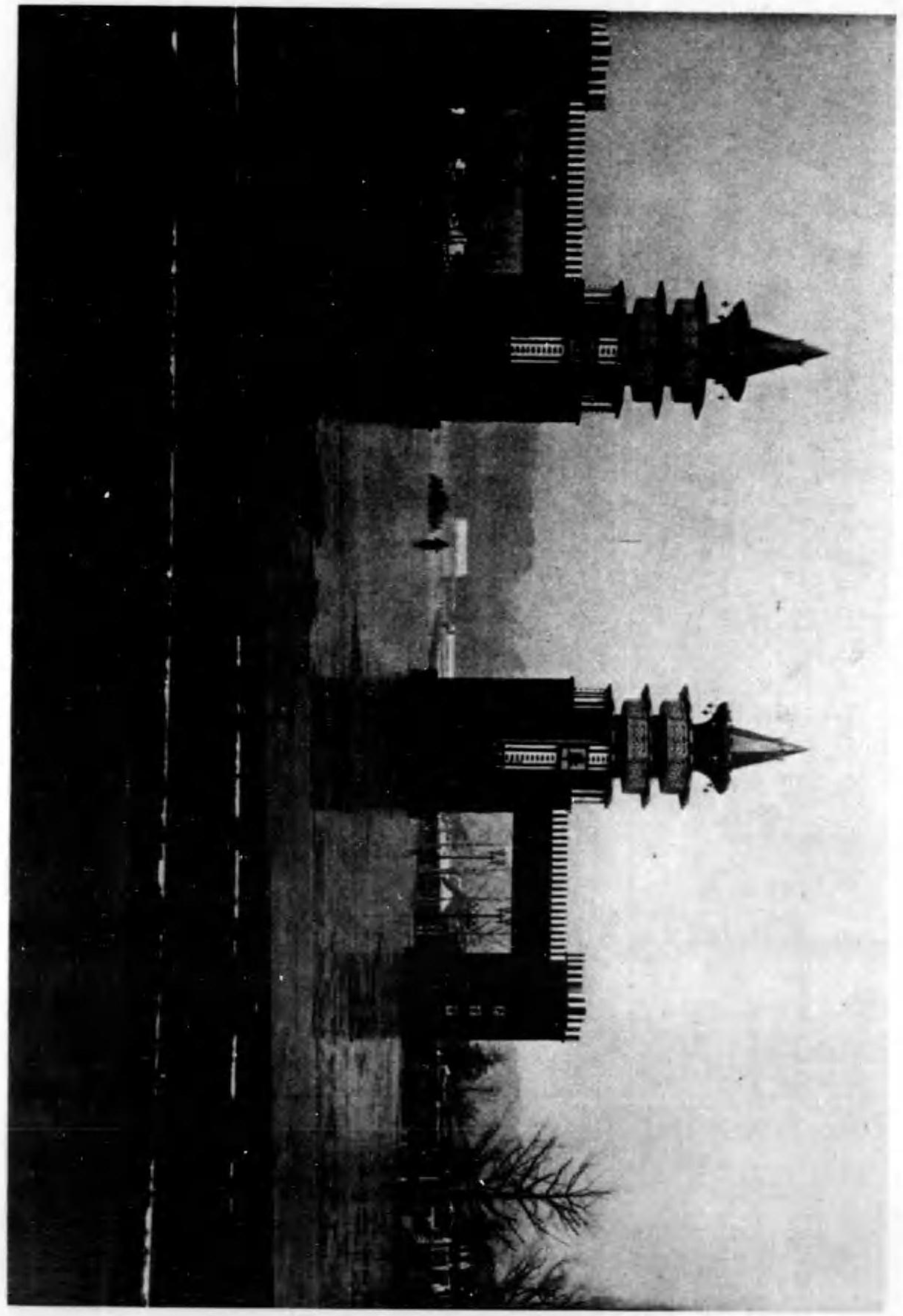
第二節　宮城御出門竝御道筋

畏くも聖上陛下の御巡幸を仰き奉る佳き日の天候は和やかなる春の陽も大内山の綠樹に映

え、そよ吹く風も暖かに匂ひ渡り、上野恩賜公園御立寄所あたりの櫻はほころびそめ、御沿道筋の街路樹はほの〴〵と芽をふき、實に惠み豐かなる天氣であつた御巡幸御道筋は十一區二十哩に亘り街路は申すまでもなく帝都の大路小路殘る隅なく掃きよめられて淸々しく御道筋には奉迎綠門・紅白の幔幕・日の丸の國旗・あるは高塔・あるは皷街衢目さめるはかりに美しき裝飾は施された龍駕を拜仰する光榮と復興新裝の歡びに滿々たる帝都市民は朝靄を縫ふて御沿道兩側に參集堵列し、御道筋はさなから拜觀の人を以て埋められ。

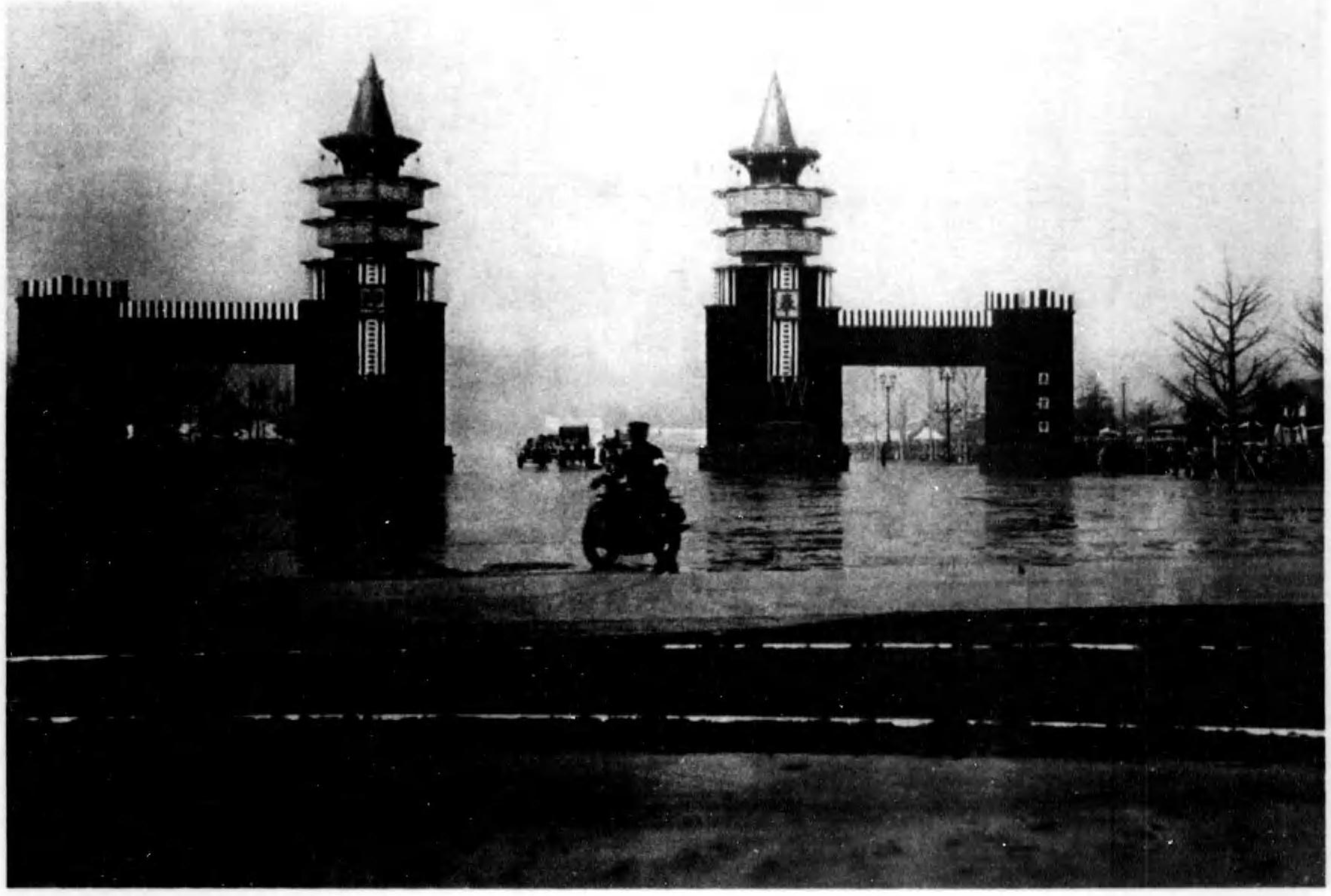
三月二十四日午前九時四十五分、春霞湛ふ大内山のほとりより朗かなラッパの音は流れ響いて間もなく、二重橋上に菊花御紋章に輝く御召車を仰いだ、ゆるやかな速度に進御あらせらるる鹵簿を拜しまつれは　聖上陛下には龍顏いと御麗はしく、陸軍樣式大元帥の通常御禮裝に大勳位略章を佩ひさせ給ひ、侍從長鈴木貫太郎、御陪乘申上け、供奉の自働車には内大臣伯爵牧野伸顯・宮内大臣一木喜德郎・侍從武官長奈良武次・宮内次官關屋貞三郎・侍從職西園寺八郎・侍從子爵甘露寺受長・宮内事務官男爵白根松介・其の他の供奉員四臺の自働車に、更に鹵簿の後方五十間を隔て、列外扈從として内務大臣安達謙藏・復興局長官中川望・東京府知事牛塚虎太郎・東京市長堀切善次郎外に警視廳警務部長・憲兵司令官・東京憲兵隊長・宮内次官・宮内大臣官房總務課長自働車に分乘扈從申上け、宮城正門より肅々と進御あらせられた、この時宮城前廣場指定の場所に奉迎申上くる東京市區會議員・東京市職員・復興局職員・市政記者・市内小學校職員兒童・外府市立諸學校生徒・青年訓練所・在鄕軍人團・青年團・女子青年團等約二萬數千人の外に其の他奉拜所定の場所には莚の上に跪座せる老幼を始めとし、數萬人に達する一般市民感激の胸を高鳴らせた。

御巡幸



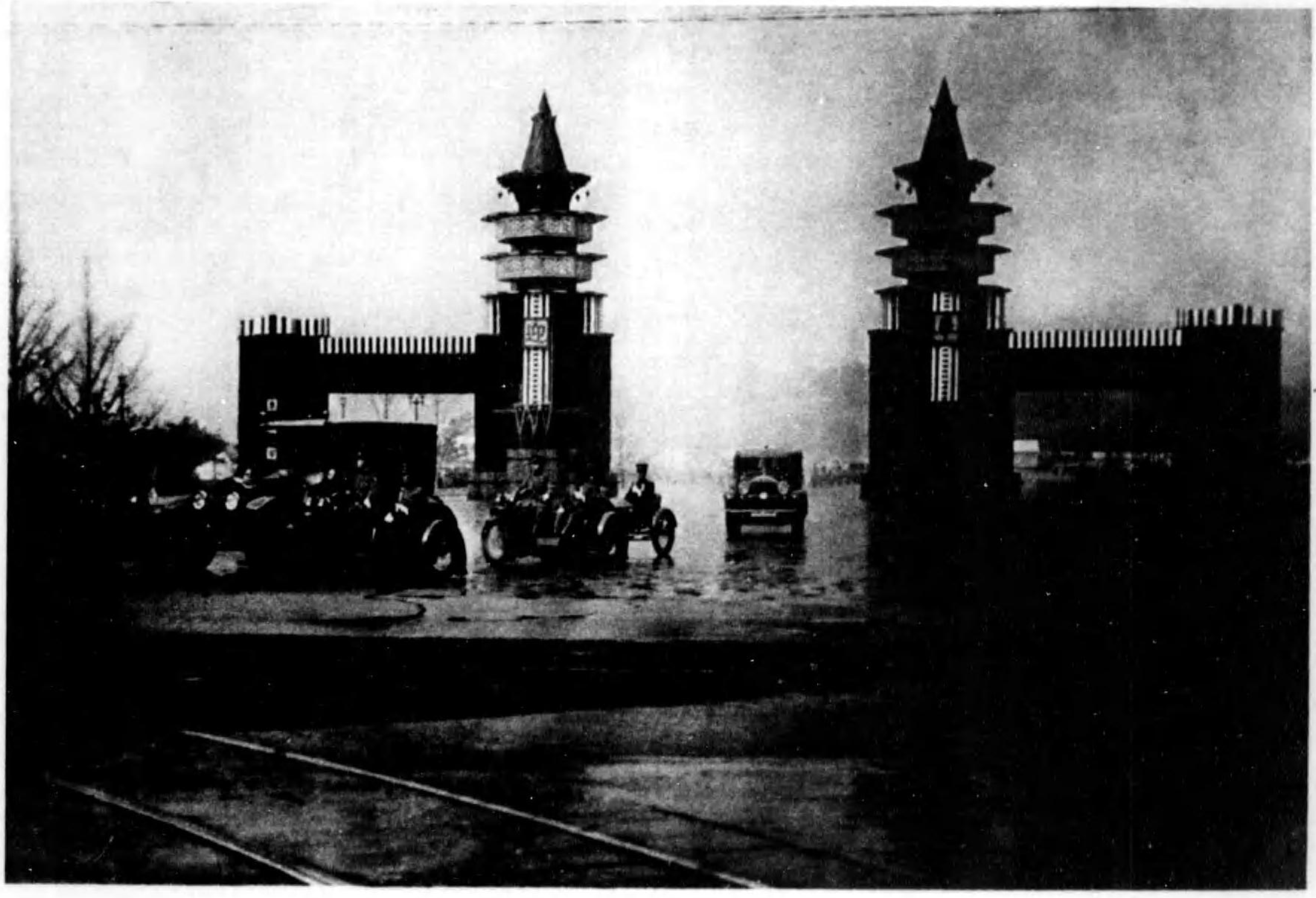
奉迎塔通御の鹵簿（其の一）

御巡幸



奉迎塔通御の鹵簿（其の二）

御巡幸

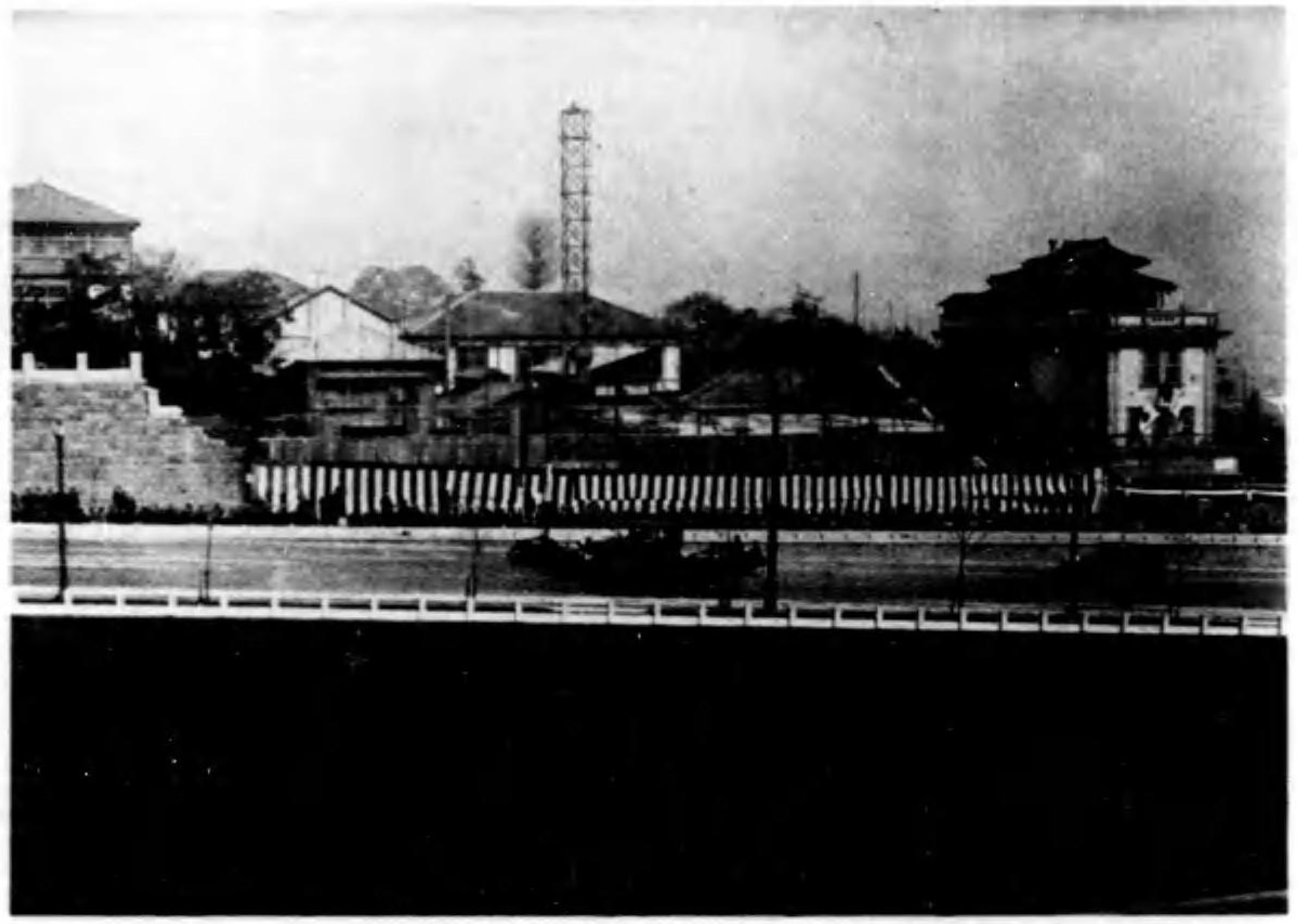


奉迎塔通御の鹵簿（其の三）

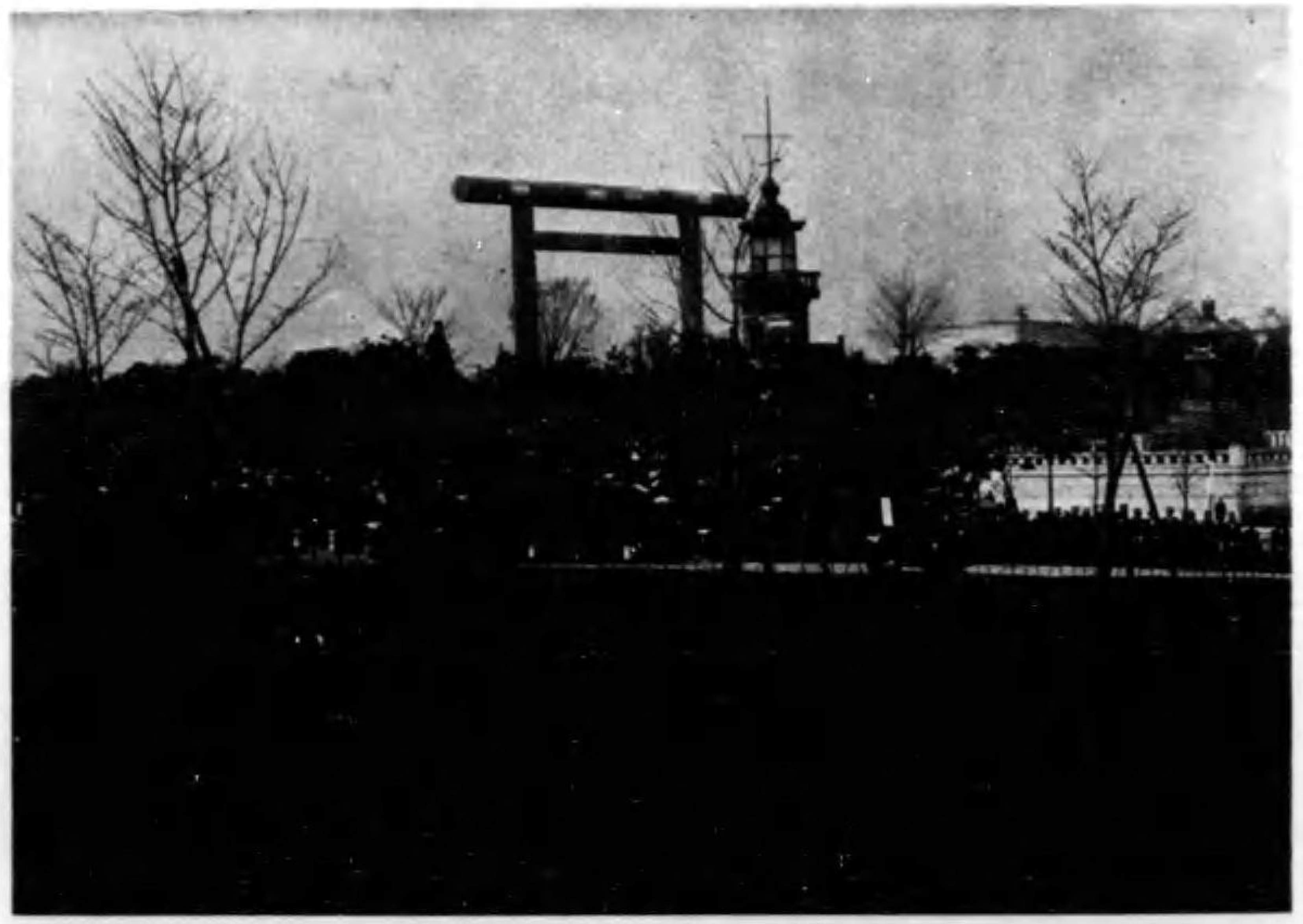
畏くも　聖上陛下にはこれら民草をみそなはせられて、御會釋を賜はりつつ馬場先奉迎塔を出てさせられ、お濠端に沿ひ日比谷公園東側を進ませられ、右に塔姿聳ゆる東京市政會館、左に朝日に映ゆる勸業銀行・飛行會館を望ませられつつ國旗と紅白の幔幕たなひく櫻田本郷町を御通過、御成門跡より愛宕町三丁目角を左へ、宇田川町より左へ昭和通を進御あらせられた、この街路こそ帝都を南北に貫く復興第一の大幹線にて、鳳輦を迎へまつる光榮に浴するこの日大通りは隈なく清掃されて一塵も止めす鳳輦の轍靜かに蓬萊橋を御通過あらせられ、三原橋際に「聖壽萬歲」「花咲く春」「光輝」等七臺の花電車を叡覽あらせられ、それより白魚橋江戸橋を渡御、御召車御窓より御細心に復興狀況をみそなはせられつつ和泉廣場を左へ、坦々と展へられたアスファルト鋪裝の大正通へ進御、新裝の九段坂を御通過あらせられ、御豫定の如く十時十七分御巡幸第一の御立寄箇所九段坂上の田安臺に著御あらせられた。

第三節　九段御立寄所着御竝御展望

鳳駕は午前十時十七分、近衛步兵第一聯隊の喇叭「君か代」の吹奏裡に田安門に入らせられて御降車、福田近衛步兵第一聯隊長は御先導申上け奉迎堵列の近衛將校に御會釋を賜はりつつ、御展望臺に玉步を進めさせられた、而して震災當時關東戒嚴司令官たりし陸軍大將福田雅太郎現在の近衛師團長林陸軍中將に拜謁を賜はりて後、高臺より附近の復興狀態をみそなはせられ、御卓上パノラマ式の地圖によつて、中川復興局長官委細御說明申上けた、この日天候は霞の爲遠方は稍々不鮮明てあつたか　陛下に於かせられてはいと御熱心に、本郷・小石川・神田方面一帶を御展望あらせられ



九段坂を進ませらるゝ鹵簿



九段御展望所より還御

且つ畏くも種々の御下問を賜はつたかくて最初の御立寄所九段の御展望は御豫定の如く終へさせ給ひ仁慈極みなき大御心に供奉員一同感激し、十時二十八分同所を發御あらせられた田安門を通御あらせられたる鹵簿は、再ひ九段坂より神保町に進ませられ、仲猿樂町を左へ十三號幹線街路を進御、第二の御立寄箇所の東京府立工藝學校へ向はせられた。

第四節　東京府立工藝學校御立寄所着御竝御巡覽

九段の御展望を終へさせられて、午前十時三十四分聖駕は水道橋際の東京府立工藝學校へ著御あらせらる、この日同校にては拜謁の光榮に浴する四百名、外に各官廳吏員・中等學校職員竝生徒代表約千名校門に堵列奉迎し、東京府内務部長大場鑑次郎御先導申上けて三階御休憩所に入らせられた、御少憩の後隣室第一拜謁室に於て大震災當時内閣總理大臣たりし伯爵山本權兵衞・元内務大臣水野錬太郎・元鐵道大臣山ノ内一次・復興功勞者俵孫一・男爵阪谷芳郎・上山滿之進・菅原通敬の諸氏十餘名に列立拜謁を賜ひ、更に第二拜謁室に於ては復興關係宮中席次第二・第三階ノ者六十名、第三拜謁室にて同上席次第四階以下の者三百四十五名に列立拜謁を賜はつた、夫より階上復興參考品室にて復興寫眞・統計圖・學校模型を御覽あらせられ、各教室を御巡覽あらせられた、特に同校生徒の家具製作實習にはしはし玉歩を留めさせられ、御感興深けに拜し奉つたかくて御豫定よりも約五分間長く御駐輦遊はされ、午前十一時三分、伯爵山本權兵衞外多數の奉送裡に同校を發御あらせられた、尚ほ同校にて天覽を賜はりし陳列品は左の如くてある。

附記

天覽陳列品　（東京府出品）

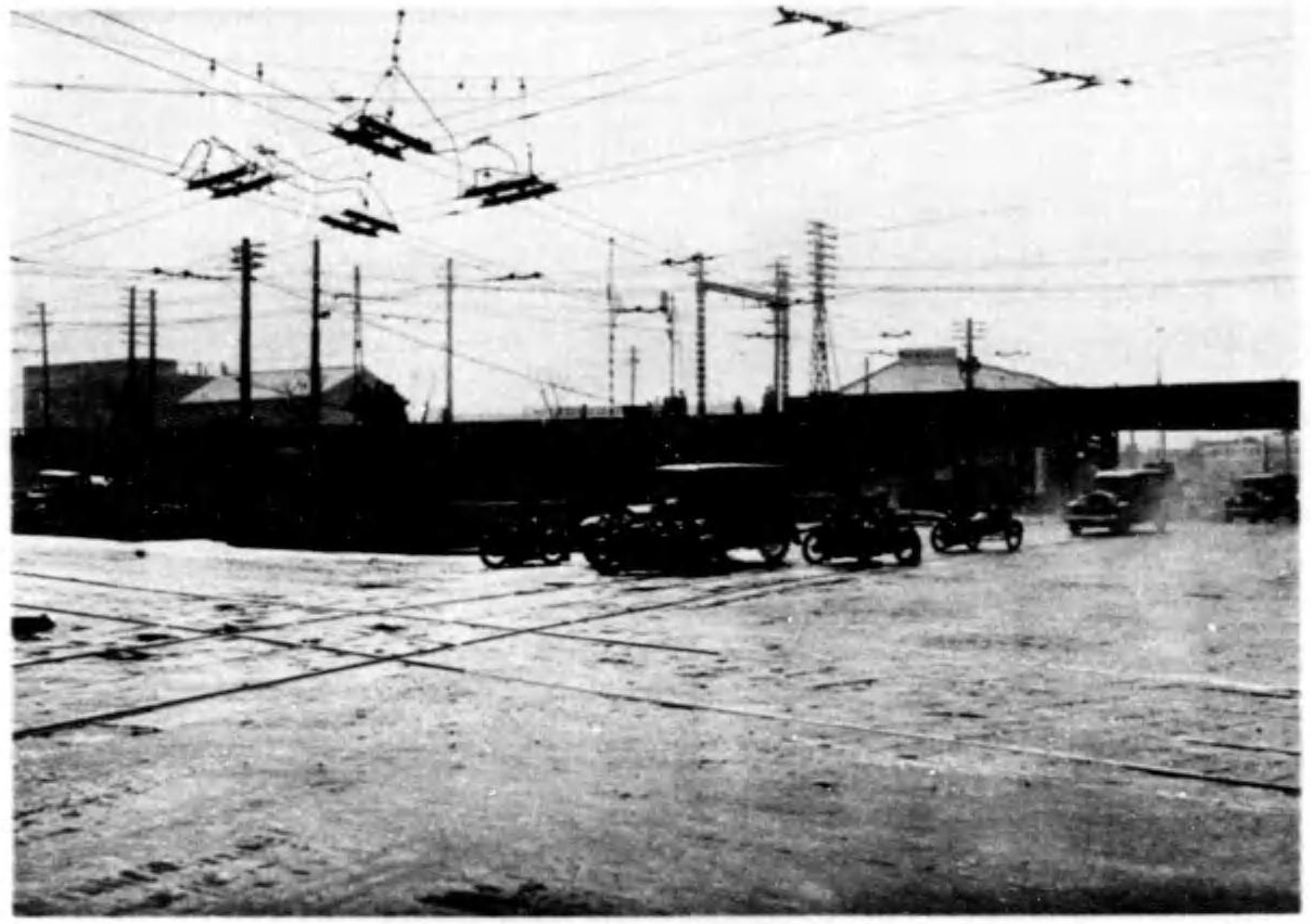
一　街路網圖	縦四・九八尺	横四・七八尺	一枚
一　環狀線道路鳥瞰圖	同　六尺	同　二〇尺	一枚
一　王子附近道路（模型）	六尺角		一個
一　道路斷面圖	縦　一・九尺	横　四尺	三枚
	同　一・九尺	同　四、一五尺	一枚
	同　一・九尺	同　四・五尺	一枚
一　道路鋪裝材料（模型）			五點
一　復興道路現況（寫眞）	縦　一・八尺	横　二・四尺	十枚
	縦　一尺	同　一・三尺	五枚
一　隣接五郡ノ町村財政調（圖表）	四、五尺	同　三・八尺	二枚
一　震災荒廢林地／復舊工事（寫眞）			十二枚

内譯

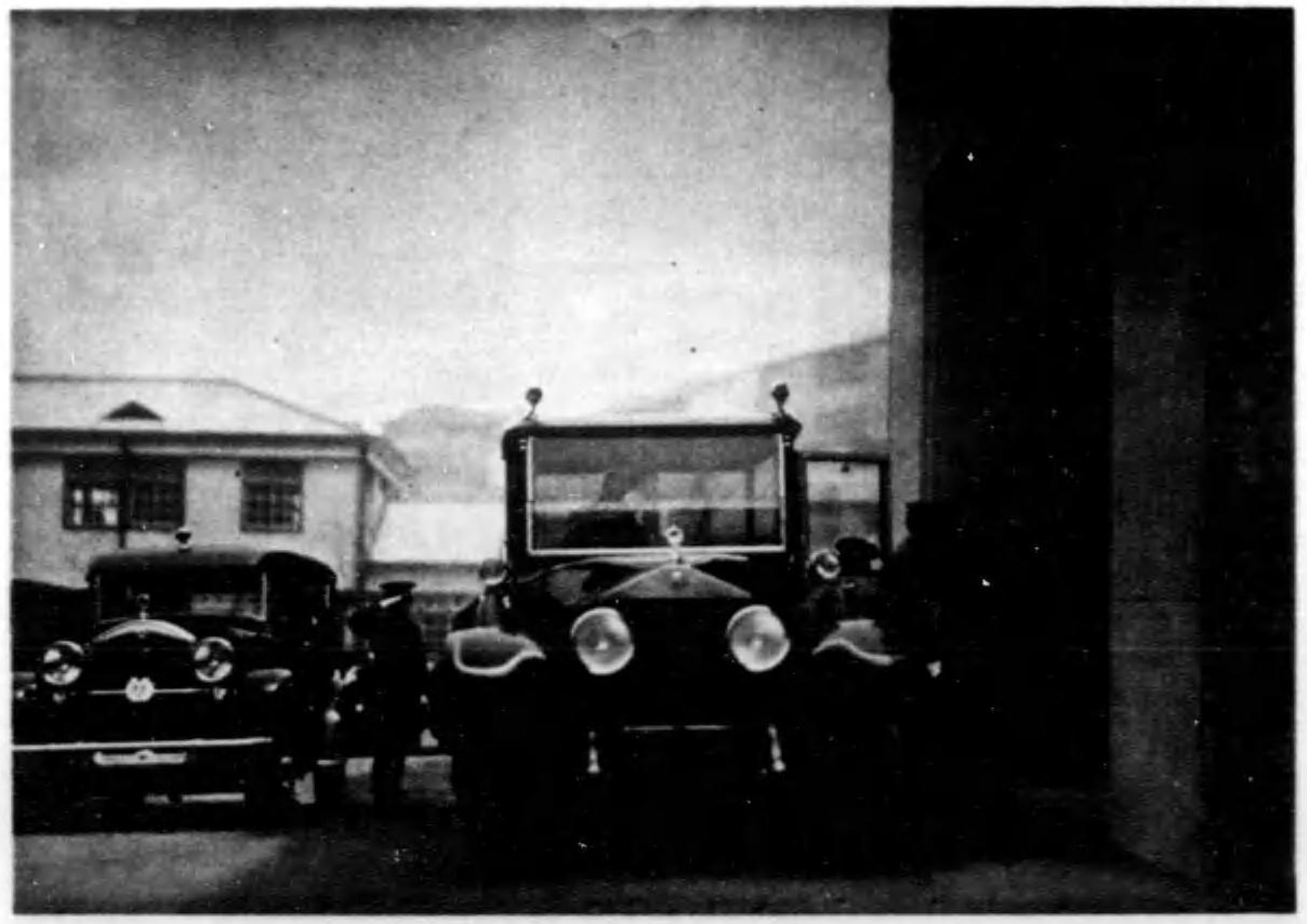
縦一・三尺	横一・三尺	一組
縦一・三尺	横三尺	
縦一・三八尺	縦一・二七尺	一組
横三尺	横二・三尺	
縦〇・九三尺		一枚
横一・三尺		

一　同　圖面（軸）	縦　四・五尺	横　六・一尺	
一　東京府非常變災事務規程概要圖表	縦　五尺	横　六尺	
一　東京府下ニ於ケル私營社會事業復興狀況一覽（圖表）	縦　五尺	横　六尺	
一　東京製品輸出狀況（圖表）	縦　五尺	同　七尺	一枚
一　建築組合復興狀況（圖表）	縦　四尺	同　五尺	一枚

御巡幸

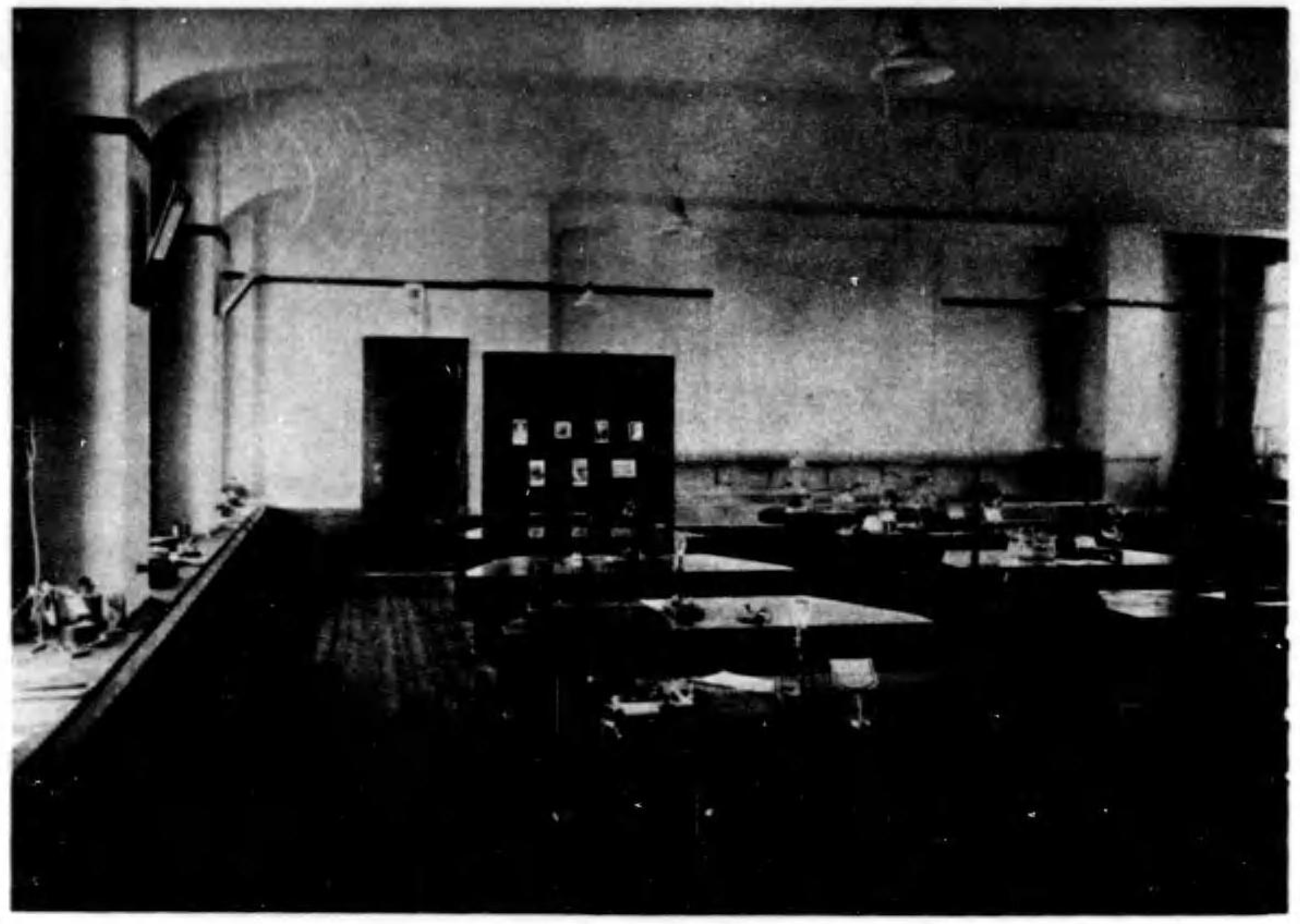


水道橋通御府立工藝學校に向はせらる

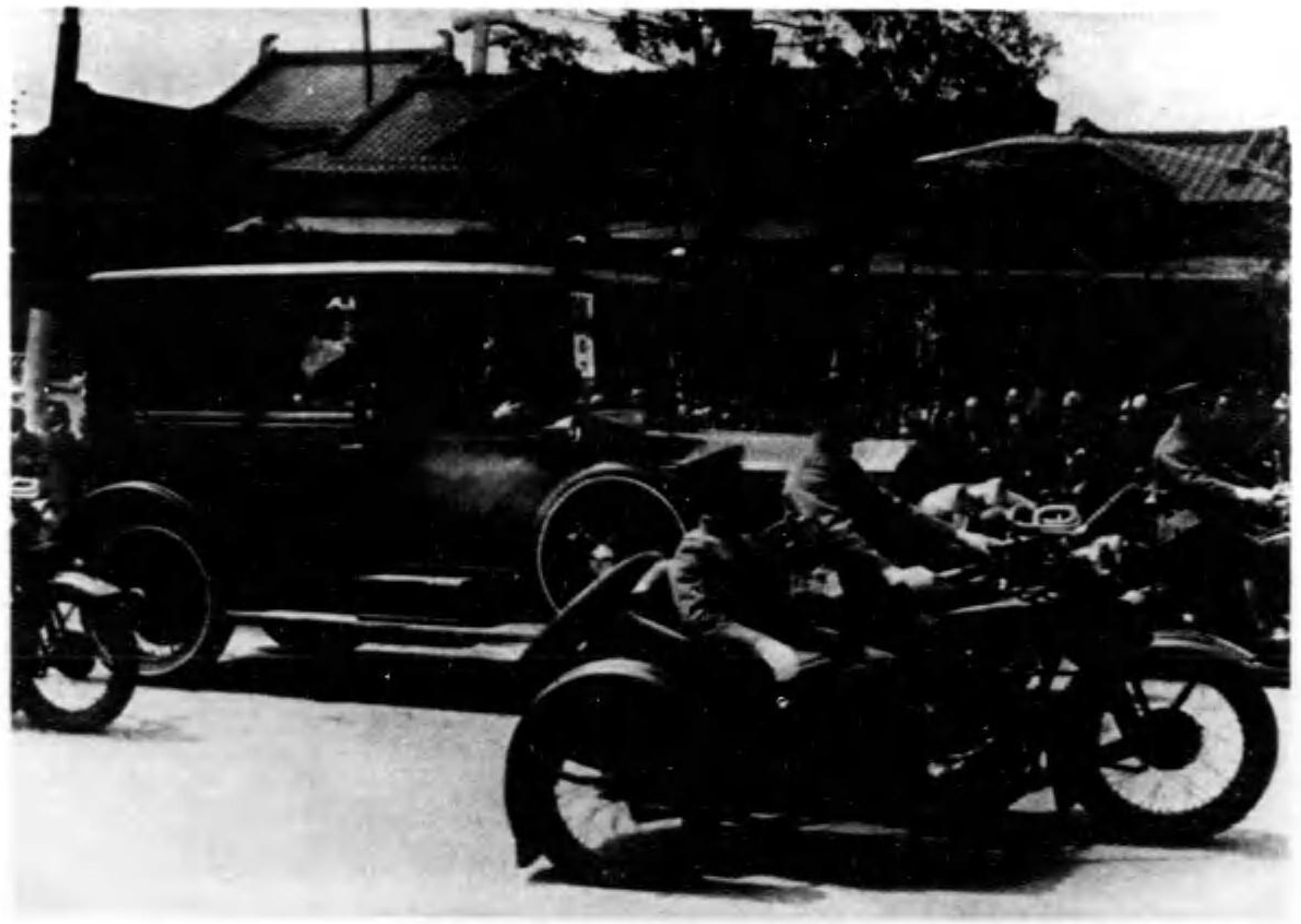


東京府立工藝學校着御

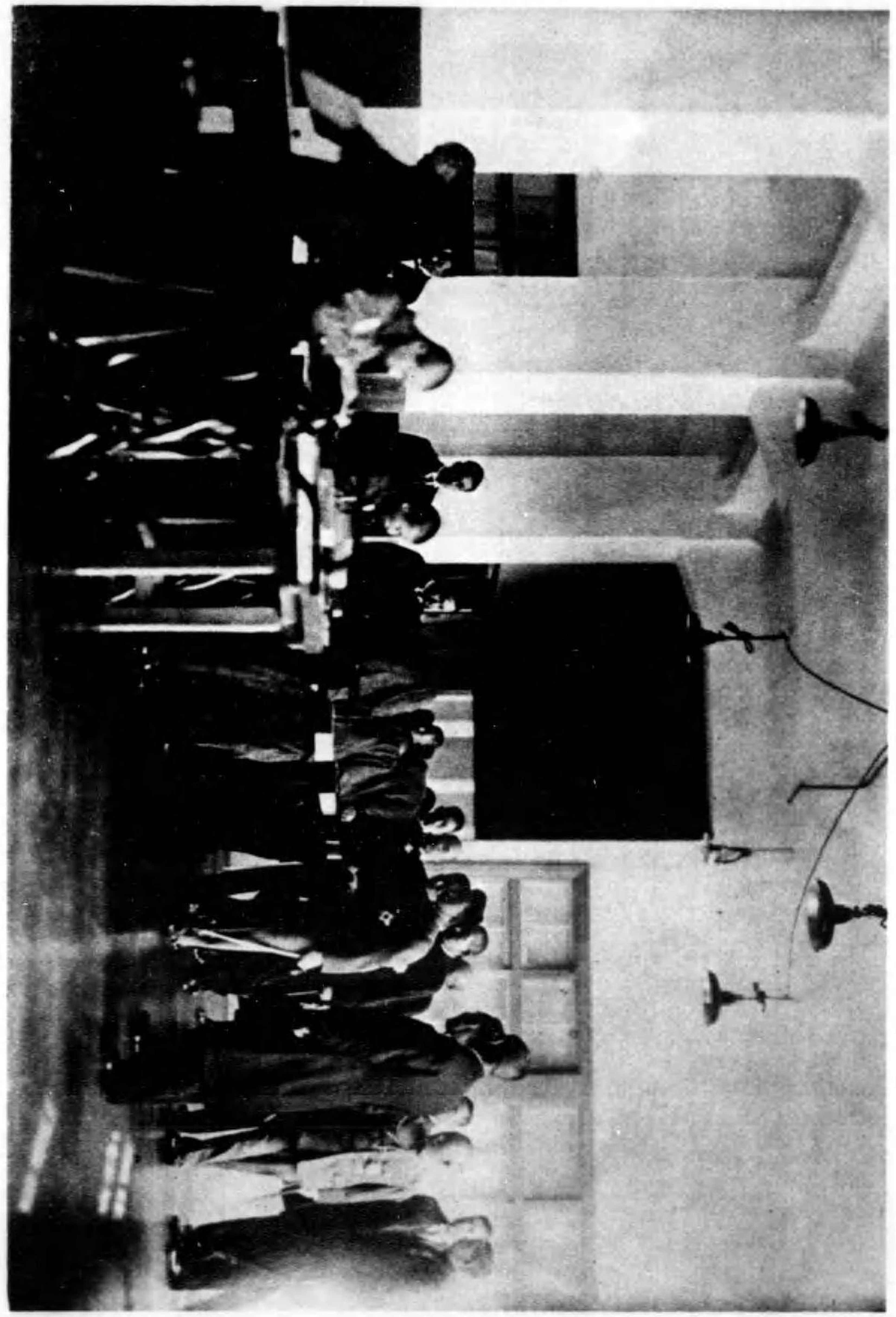
一 復興後ノ府社芝大神宮（寫眞） 縱 一尺 横 一・三尺 一枚
一 震災前後ノ東京府人口（圖表） 縱 四・九尺 横 四尺 一枚
一 震災罹災者（圖表） 縱 四・九尺 横 四尺 一枚
一 震災前後ノ生産額（圖表） 同 四・九尺 同 四尺 一枚
一 震災前後ノ交通量（圖表） 同 四・九尺 同 四尺 一枚
一 震災前後ノ物價ト賃銀（圖表） 同 四・九尺 同 四尺 一枚
一 府立工藝學校（模型） 一個
一 同 （寫眞） 五枚
一 府立第三中學校ニ於テ離散セル生徒ヲ召集スル爲用キタル旗 縱三尺 横四尺 一旒
一 府立第三中學校（寫眞） 三枚
一 同 校友會報 二冊
一 府立第一高等女學校（寫眞） 十四枚
一 府立化學工業學校（模型） 一個
一 同 （寫眞） 五枚
一 府立實科工業學校（模型） 一個
一 同 （寫眞） 二枚
一 大震災前後十三年間ノ比較一覽（圖表） 枚
　一、學校數 二、學級數 三、教員數 四、兒童數 五、經常費 六、經常費兒童一人當 七、臨時費 八、臨時費兒童一人當



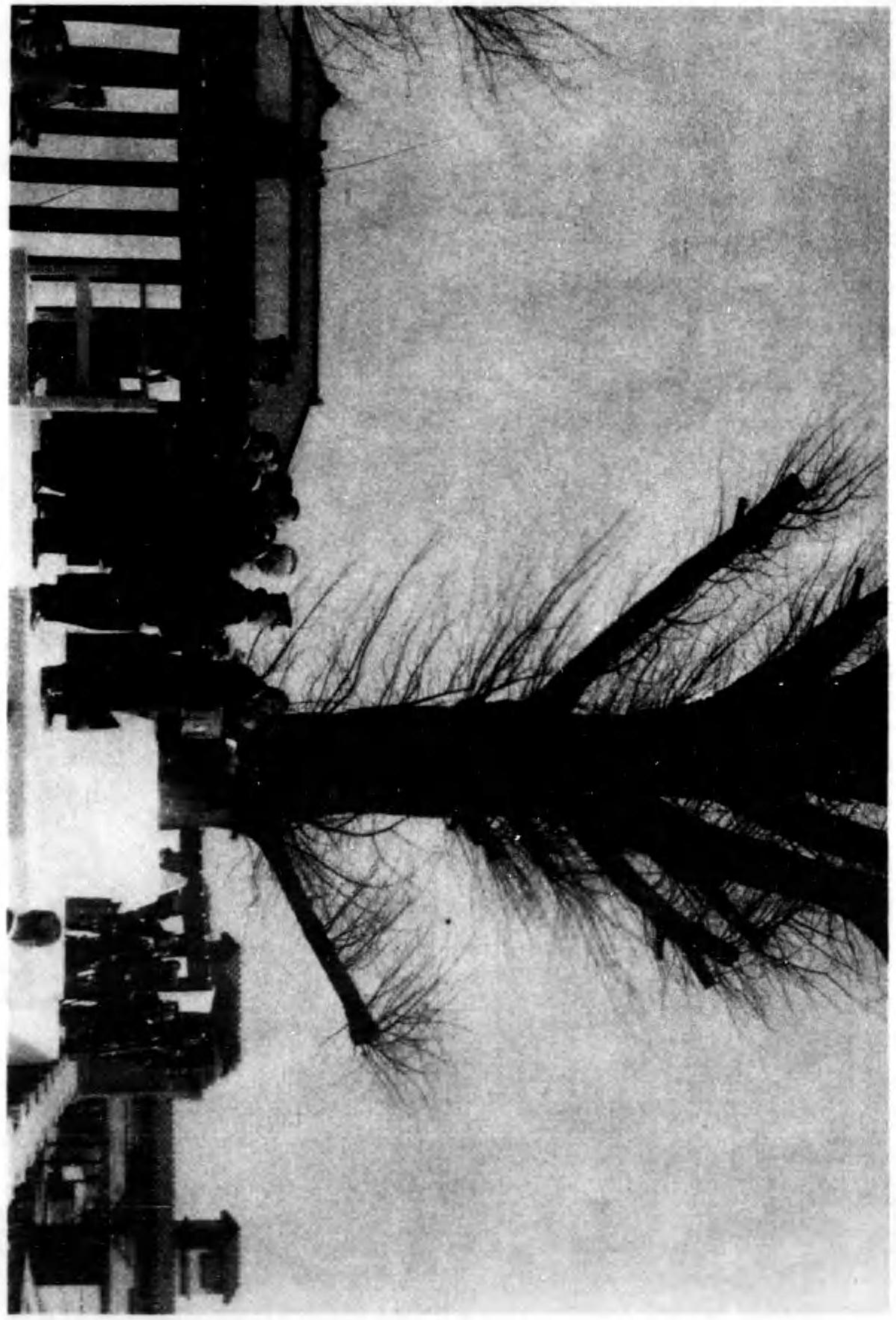
東京府立工藝學校内の天覽設備



上野公園袴腰通御御展望所に向はせらる



東京府立工藝學校生徒の實習御覽

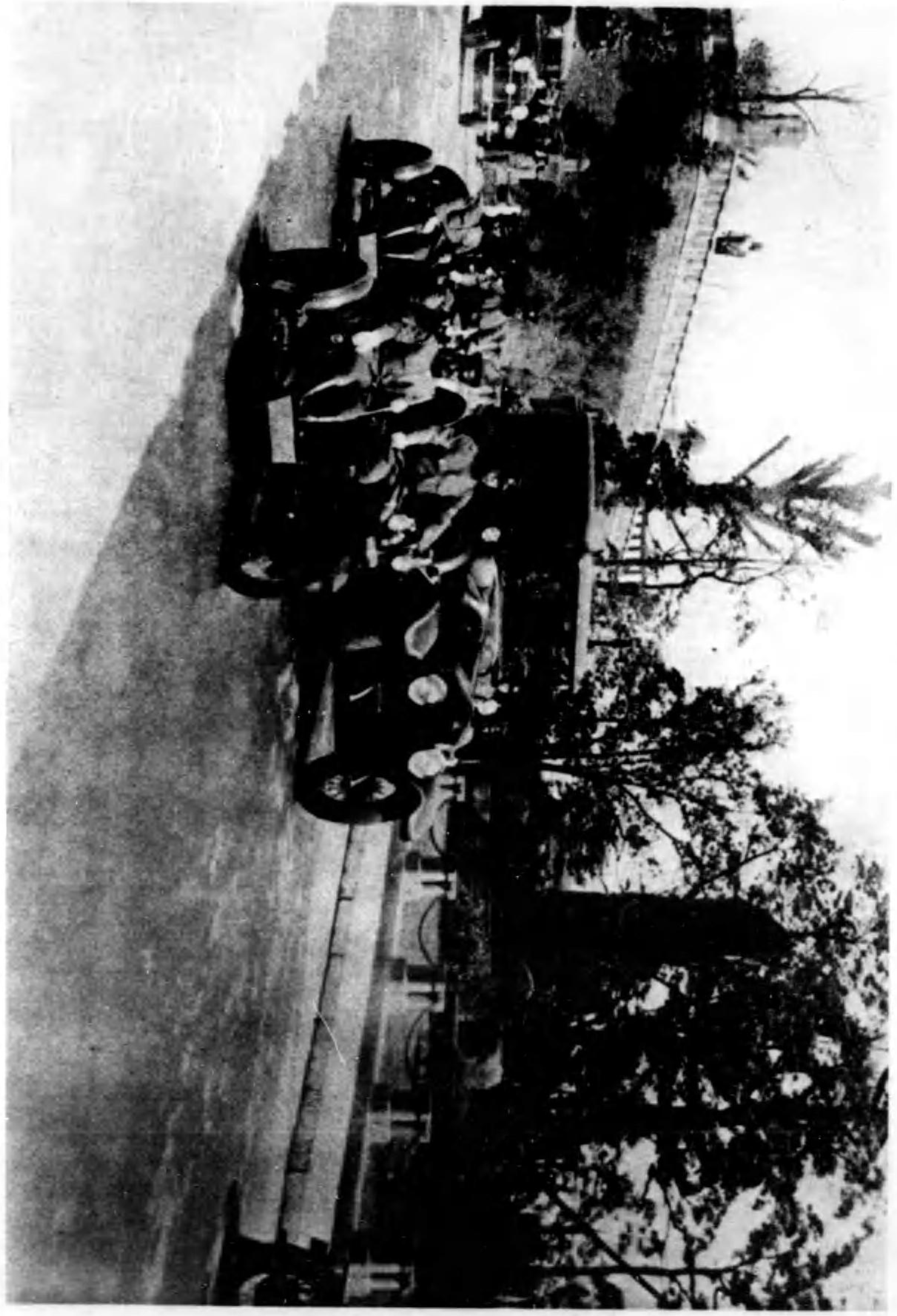


御展望臺上堀切市長御說明言上

上野恩賜公園着御

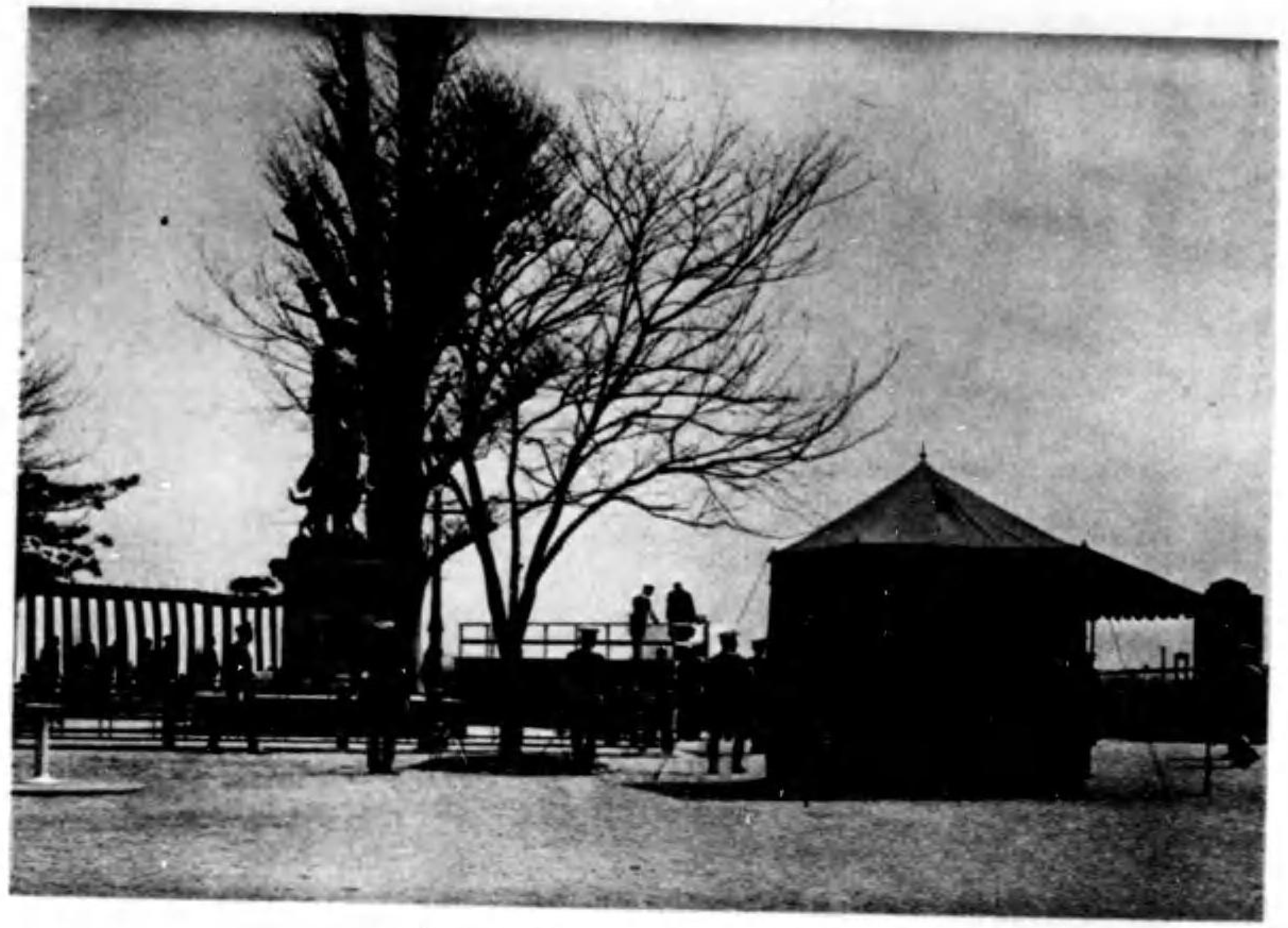
上野公園「見晴し」に玉步を運はせらる

御巡幸

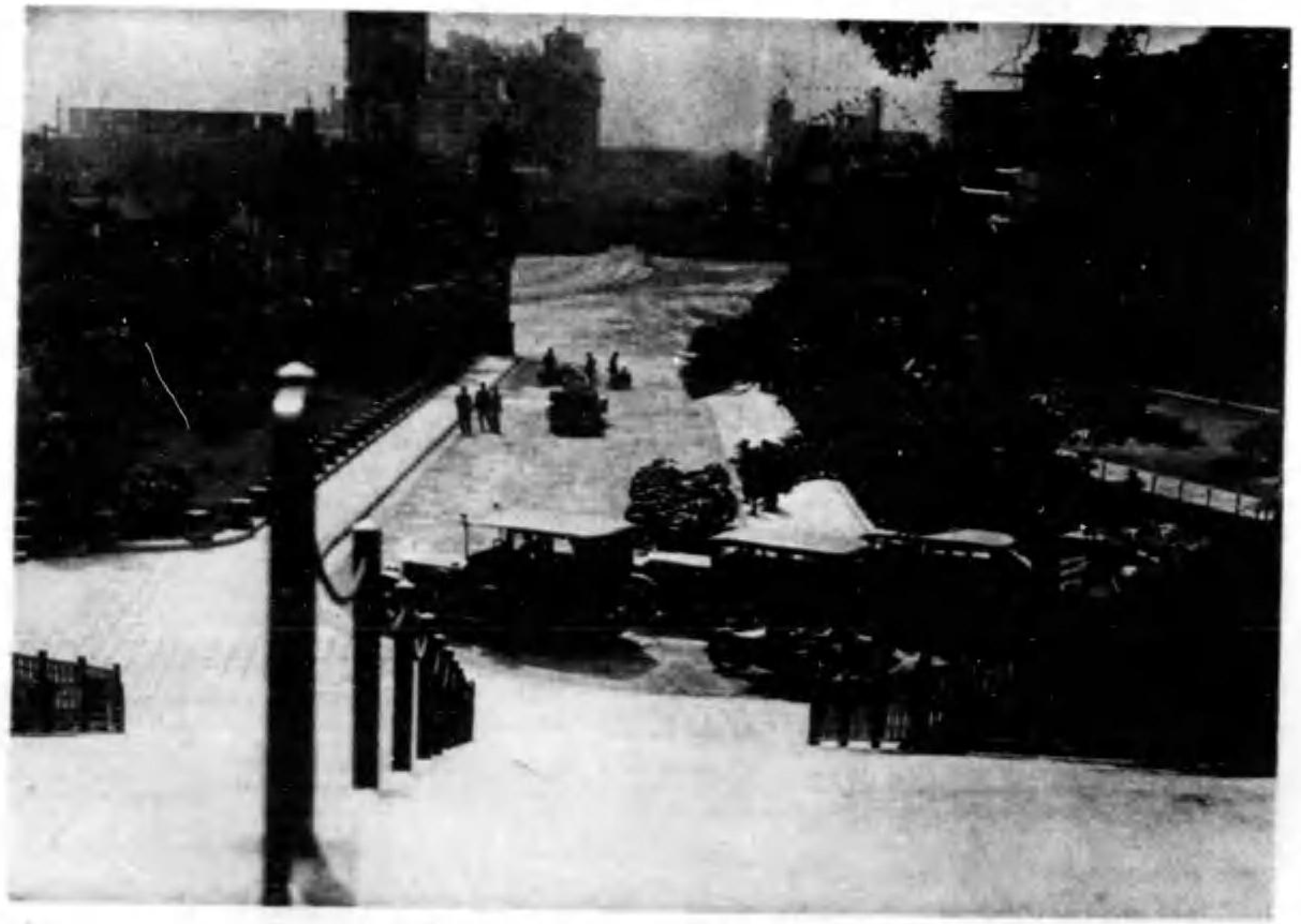


上野公園発御隅田公園に向はせらる

御巡幸



聖上復興帝都御覧



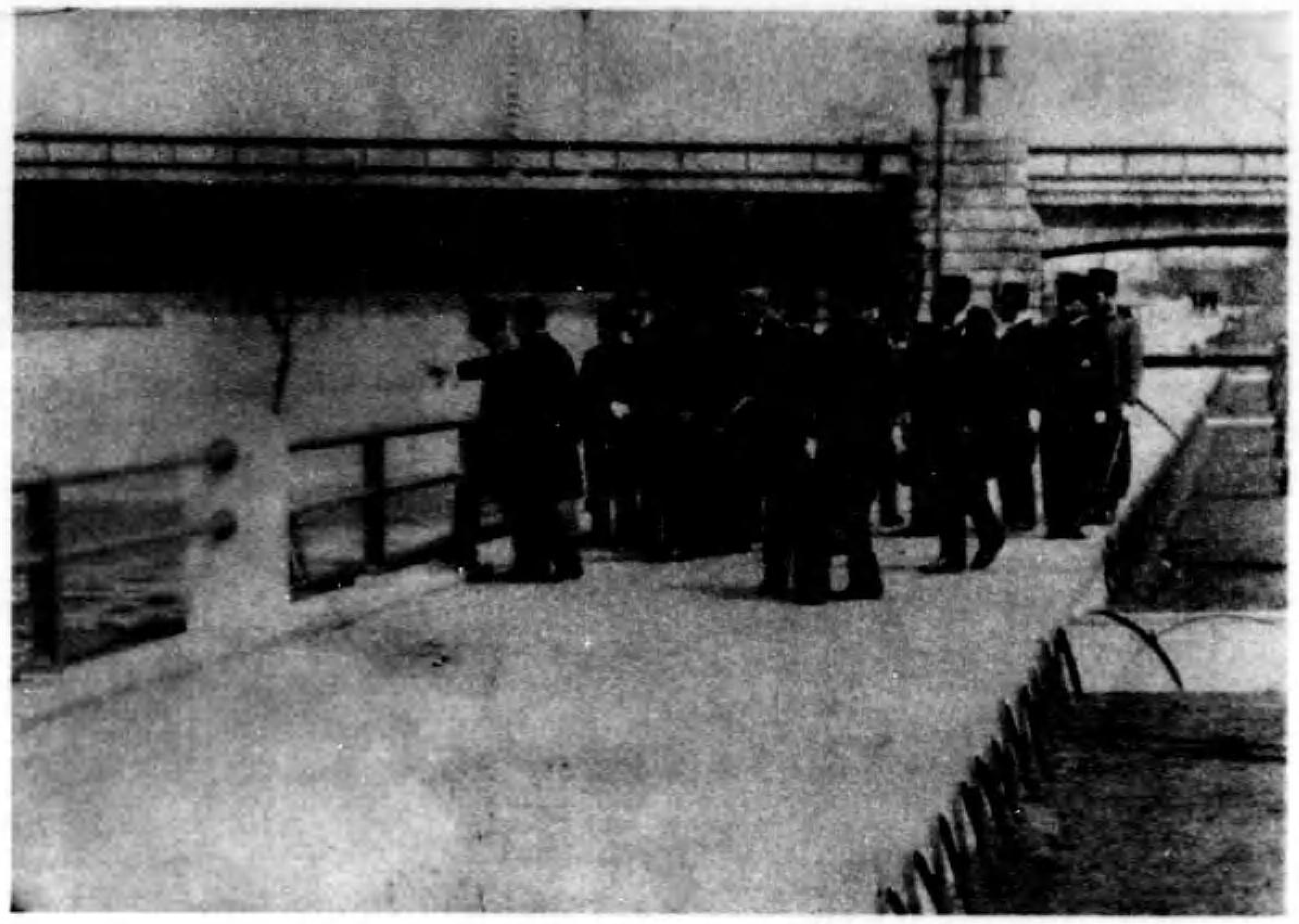
上野公園袴腰に於ける御料車

一	府立第三中學校配景圖	縱二・一尺	橫三・一五尺	一枚
一	同　平面圖	縱二・一尺	橫三・一五尺	二枚
一	府立第一高等女學校配景圖	同　同	同　同	一枚
一	同　平面圖	同	同	二枚
一	府立工藝學校配景圖	同	同	一枚
一	同　平面圖	同	同	二枚
一	府立化學工業學校配景圖	同	同	一枚
一	同　平面圖	同	同	二枚
一	府立實科工業學校配景圖	同	同	一枚
一	同　平面圖	同	同	二枚

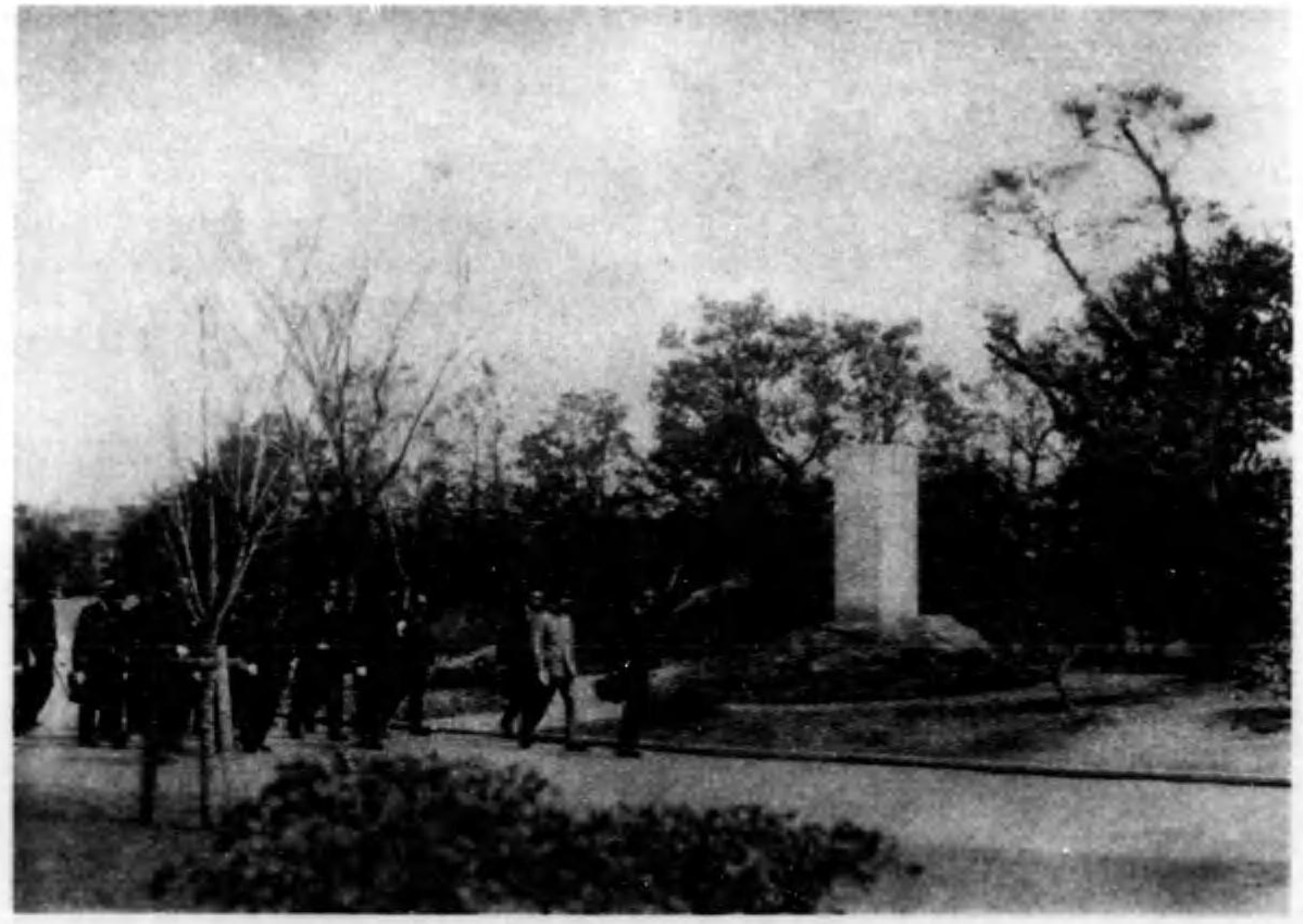
第五節　上野恩賜公園御立寄所着御竝御展望

上野公園櫻ヶ岡西鄕銅像前白木の御展望所に至る御道筋は玉砂利も淸々しく、園內樹木の若葉は春の陽に彩られてみゆきにふさはしく、ここにも奉拜者は朝まだきより老幼相擧つて山下一帶を埋めた、御展望臺から、約十數間後方には復興局土地區劃整理委員・東京市の同委員、約百五十名參集整列して聖駕を御待受け申上げた。

鹵簿は午前十一時十分頃、新裝されたる不忍池畔の散步道を進ませられ、上野山下に着御　聖上陛下には鈴木侍從長・奈良武官長・中川復興局長官・堀切東京市長を從へさせられ、大岡復興局土木部



隅田公園言問橋畔の　聖上陛下（中川長官御說明）



隅田公園內舊水戸邸御巡覽

長の御先導て御晴やかに石段を御登りあらせられ、御沿道兩側に整列の復興事業に參與したる百五十七名の諸員に御會釋を給ひ、御野立所の天幕內に入らせられた。

同所にて震災當時、在職の東京市長永田秀次郎・同警視總監湯淺倉平・近衞師團長陸軍大將森岡守成・元東京府知事宇佐美勝夫に單獨拜謁を賜はりて後、御展望臺に立たせられ、遙か下町一帶の復興狀況を御展望あらせられた。嘗て震災の餘燼未た熄まぬ災害直後畏くも御視察あらせられたる廢趾に替り今や復興に輝やく市街を樹はせられていとも御追憶深けに拜し奉つた、ここにて東京市長堀切善次郎御說明申上けた、先つ御見晴臺下の道路や、上野驛完成の顚末、地下鐵道の現況、燒失を免かれたる神田區佐久間町に竝行する御成街道と一號路線なとの言上に、始終御頷き遊された、又中川長官は市長、の御說明を補足し、更に復興地圖に就て詳細言上し御下問に奉答した、かくて上野公園よりの復興帝都御展望は約八分にて終へさせられ御機嫌麗はしく御展望臺を御下降、參列者一同に御會釋を賜ひ奉拜市民の割るるか如き萬歲唱和裡に午前十一時十八分上野公園跨腰を發御淺草向島方面に向はせらせられた。

第六節　隅田公園御立寄所着御竝御巡覽

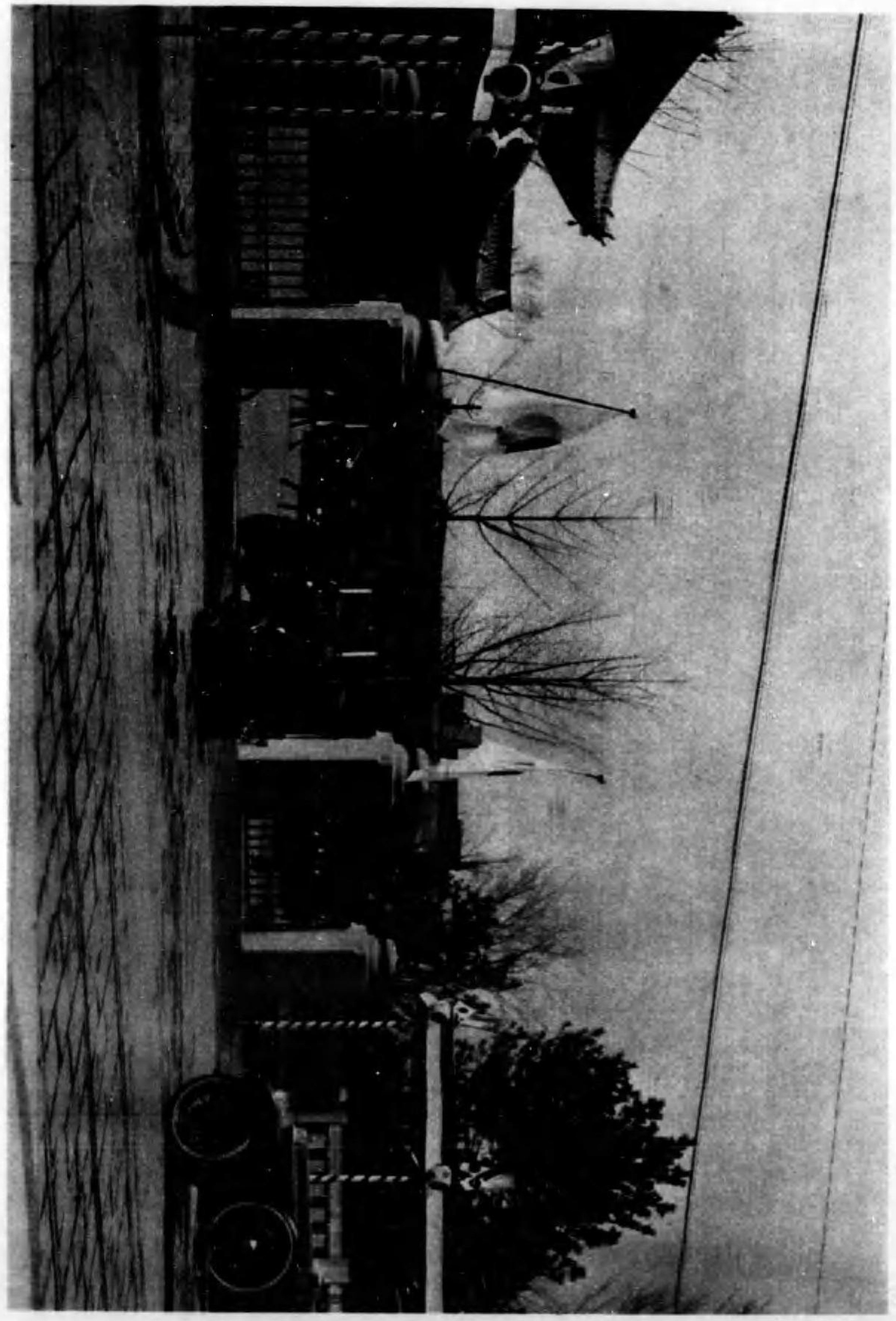
鹵簿は上野廣場より六號幹線を淺草區松淸町・田原町へと進御、更に第卅二號路線を進ませられ山ノ宿より、復興六大橋梁の一なる言問橋を渡御あらせられて江東の地に入らせられた、本所・深川の二區は大震災慘禍の中心てあり、殊に聖駕を奉迎することはこの日を最初とするものてあるから無上の光榮に浴する住民の歡喜極みなく、鹵簿を言問橋を隅田公園北口まて進ませられて御降車、笠原復興局建築部長御先導申上け、石の階段七つ八つにして隅田公園へ玉步を運はせられ、對岸淺草方面を御眺望あらせられて玉步いと緩やかに光榮に輝く隅田川際のひた〳〵と水寄する邊りまて進ませらる・時恰も竹屋の渡しを出發點とし日本漕艇協會の復興記念十二大學の短艇十二雙は矢の如く下流よりピッチを揃へて漕き來る、三列縱隊分列式の光景をしはし御覽あらせられた、この時、對岸の淺草河岸は恰も築き上けたるか如く數萬の奉拜者を以て滿たされた、隅田公園は舊水戶家下屋敷跡て自然に古ひたる舊藩の古苑と復興新裝の言問橋の構圖とを對照すれは流石に、江東名勝の隨一てある、　陛下にはこのほとり一帶の春うららかなる風光に御機嫌御うるはしく御逍遙あらせられ、亦公園獨特の誇りとする明治大帝御歌碑の前に進ませられる

　　花くはし櫻はあれとこの宿の
　　　　代々の心をわれは訪ひけり

と謹刻されてある御碑前に暫しの間立たせ給ひ、いと御感深けに拜され、一同恐懼感激に滿たされたかくて御巡覽十二分にして東南御出口より御車に召させられ、源森橋より駒形橋通を御通過十一時四十六分震災記念堂へ向はせられた。

第七節　震災記念堂御立寄所着御竝御巡覽

震災記念堂前には本所區々會議員・神佛各派代表者・特別功勞者等の奉迎者、整列を終ふ、午前十一時四十九分、御召自動車著御あらせられた、東京市助役廣瀨久忠御先導申上け記念堂正面の階段に



御巡幸

震災記念堂に御着

玉歩を進ませせられ堂內正面祭檀の前にて畏くも御脫帽の上しはし御默禱あらせらる供奉員始め奉拜者一同大御心に恐懼感激極りなく實に木蓮の香にほやかにあへなく逝ける六萬數千の生靈も今日そ無上の光榮に蘇へるてあらうとさへ想はれ一同感激の淚にひたつた。

これより堀切市長は記念堂建立の顚末其の他に就て御說明申上けたるに一々御聽取あらせられ更に堂の南方にある陳列室に玉步を進ませられ大震災の記念物たる午前十一時五十八分の電氣時計丸善書籍店燒跡より堀り出されたる洋書を御覽あらせられ又當時の外國新聞を天覽に供へたか特にニューヨークツリビューン紙か「日本を救へ」との全面を埋めて救援の宣傳に努めたる記事を御覽あらせられ尙ほ當時の慘害寫眞及震災內閣成立の圖其の他に御目を注かせられて御感慨いと深けに拜し奉つた。

その時恰も記念すへき一瞬十一時五十八分となつて堂內外に竝居る人々は無上のに感激を胸にたたへて一同默禱した。

陛下には十二時記念堂御退出零時一分發御本所橫網公園角を左へ藏前橋を通御日本橋矢ノ倉町市立千代田小學校へ向はせられた。

當日震災記念堂に於て天覽に供したる陳列品左の如くてある。

附記

天覽震災記念品

一　廣間陳列繪畫　十四點

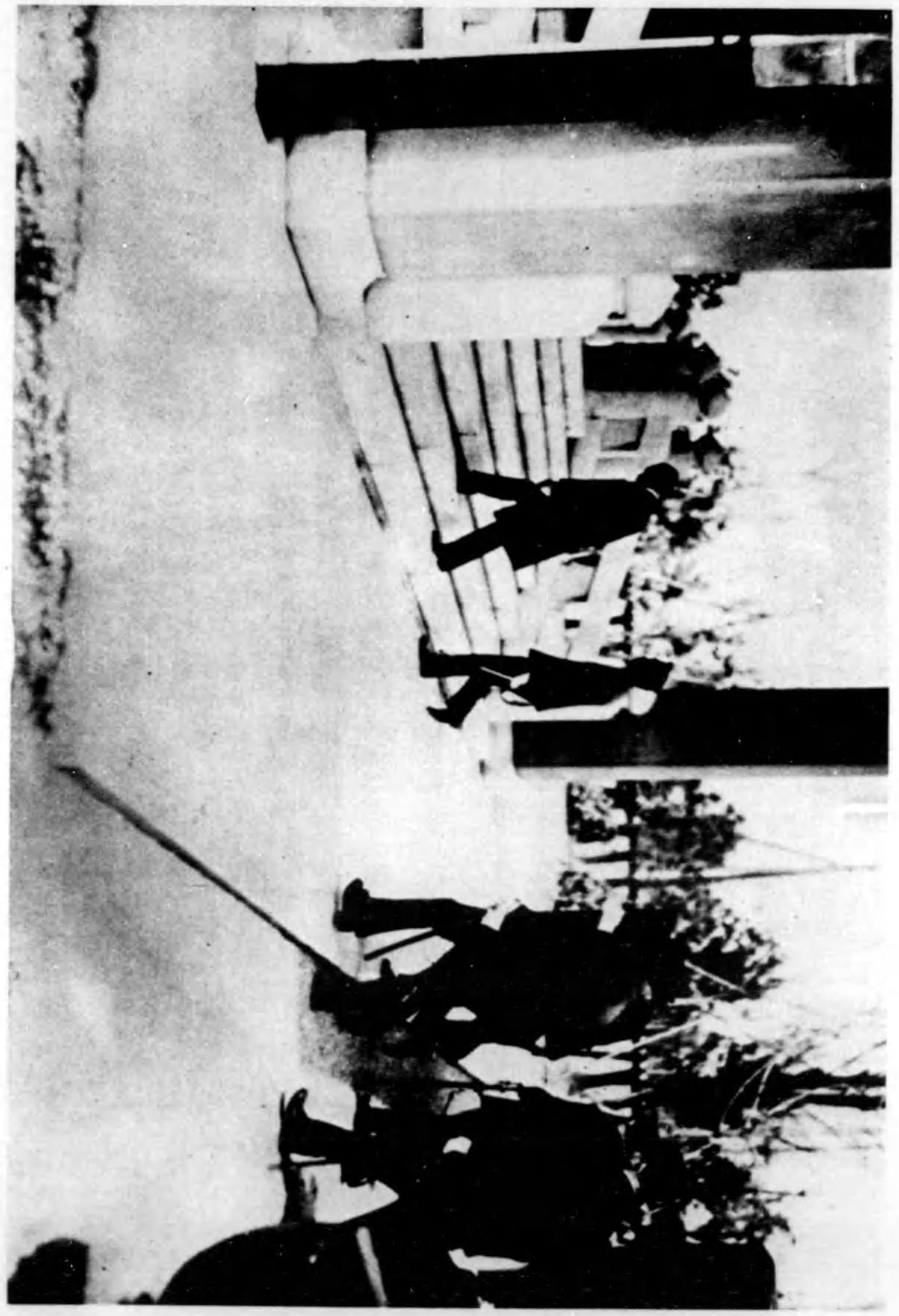
一　壁面陳列物　八十一點

內譯

御巡幸

震災記念堂退御

御巡幸



震災記念堂内へ進ませらる

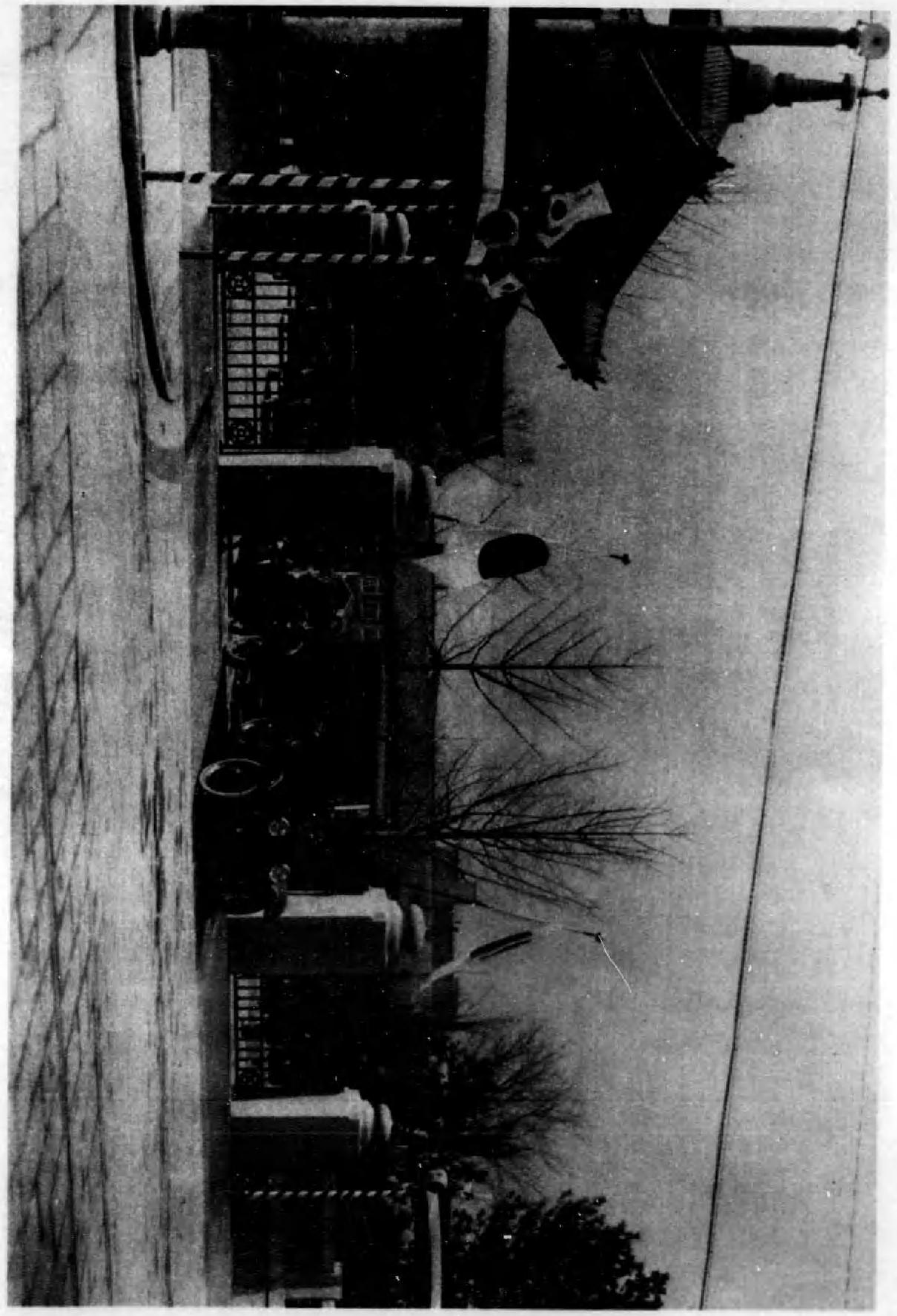
圖表　十八點
繪畫　二十一點
寫眞　三十四點
ポスター　七點
新聞　一點

一　ケース內陳列物　四十六點
內譯
記念物類　四十點
書籍　六點

廣間之部

番號	品名	種別	大サ	出品者
1	第一震十二階の崩壞	繪畫	五尺五×五尺八	東京震災記念事業協會
2	御茶の水附近	同	同	同
3	當夜の永代橋	同	同	同
4	避難者の混亂	同	同	同
5	淺草北部	同	同	同
6	隅田川端の叫喚	同	同	同

御巡幸



震災記念堂發御千代田小學校に向はせらる

番號	品名	種別	大サ	出品者
7	旋風	同	同	同
8	軍隊の炊出作業	同	同	同
9	軍隊の傷病者救護	同	同	同
10	赤十字の活動	同	同	同
11	自警團	同	同	同
12	翌日の悲嘆	同	同	同
13	被服廠跡	同	同	同
14	避難バラック	同	同	同

第一室右側

壁面之部

番號	品名	種別	大サ	出品者
1	江戸十大火災圖	圖表	八尺×六尺	東京市
2	安政大地震	同	三尺四×二尺四	東京帝國大學
3	大地震進行	同	三尺四×三尺	同
4	東京有感地震年次變化	同	二尺二×三尺四	同
5	關東地方の大地震進行	同	三尺四×二尺四	同
6	震時を示す東京驛の時計	寫眞	二尺一×二尺七	東京朝日新聞社
7	直後日本橋通の混亂	同	同	同
8	火災	同	同	電報通信社
9	關東火災分布	圖表	二尺四×三尺四	東京帝國大學
10	關東大地震の數元と斷層系	同	同	同
11	關東大地震地形變動	同	同	同
12	大正大地震	同	同	同
13	初度方向及震度分布	同	三尺六×五尺	中央氣象臺
14	東京大火災の氣象圖	同	同	同

ケース之部

番號	品名	種別	大サ	出品者
1	破損せる電氣時計			東京博物館
2	帝國劇場欄干の破片			同
3	帝國劇場のシャンデリャの一部			同
4	帝國劇場欄間飾			同
5	帝國劇場出札口の掛札			同
6	帝國劇場蛇腹の一部			同
7	丸善燒跡より出てたる和洋書の燒塊			同

8	震災を報道せる米國新聞紙			日米協會

第一室左側

壁面之部

番號	品名	種別	大サ	出品者
1	上野驛前の避難	寫眞	二尺一×二尺七	電報通信社
2	丸の内附近の大火	同	同	東京朝日新聞社
3	直後銀座の避難	同	同	同
4	驅逐艦による避難者	同	二尺七×二尺一	同
5	日比谷附近	同	二尺一×二尺七	同
6	汽車による避難者	同	同	同
7	野外の閣議	同	同	同
8	震災を報せる新聞	新聞	同	東京震災記念事業協會
9	震災發火地點と火流	圖表	五尺×三尺五	警視廳
10	上野公園避難者	寫眞	二尺七×二尺一	東京朝日新聞社
11	戒嚴令の銀座通	同	同	同
12	負傷手當	同	同	同
13	罹災者散布狀況	圖表	五尺×七尺	東京市
14	應急ポスター	ポスター	二尺七×二尺一	陸軍省
15	應急處置	寫眞	同	海軍省
16	應急ポスター	ポスター	二尺七×二尺一	陸軍省
17	戒嚴地域內警備配置要圖	圖表	四尺五×二尺二	同

ケース之部

番號	品名			出品者
1	燒固りたる拾圓紙幣			內閣印刷局
2	燒固りたる郵便切手			同
3	燒固りたる郵便葉書			同
4	當時の官報			同
5	澁澤倉庫に於ける釘の溶塊			東京博物館
6	澁澤倉庫に於けるビール場の溶塊			同
7	澁澤倉庫に於ける砂糖の燒塊			同
8	遞信省電話交換機及電話機			同
9	遞信省電話穿孔器			同
10	陸軍東京工廠窓硝子			同
11	坑火石			同

番號	品名	種別	大サ	出品者
12	澁澤倉庫に於ける燒ワイヤロープ			同
13	電話架空線支持金具			同
14	當時市政調査會の用ひたる尋ね人調査材料			東京市政調査會

第二室右側

壁面之部

番號	品名	種別	大サ	出品者
1	救護食糧品配給所位置	圖表	六尺五×六尺四	陸軍省
2	東京大火災上空の襟卷雲	寫眞	二尺七×二尺一	中央氣象臺
3	米國ミネソタ州に起れる龍卷	同	一尺六×二尺二	東京帝國大學
4	震災罹災者收容圖	圖表	五尺五×四尺	東京市
5	被服廠跡(其の一)	寫眞	二尺一×二尺七	東京朝日新聞社
6	同(其の二)	同	同	同
7	罹災人口及戶數	圖表	四尺×六尺	東京市
8	三越吳服店跡	寫眞	二尺一×二尺七	東京朝日新聞社
9	新橋驛附近	同	同	同
10	圖說	圖表	二尺五×一尺九	東京帝國大學
11	米國ミネソタ州に起れる龍卷	寫眞	二尺一×二尺七	同
12	吾妻橋	同	同	東京朝日新聞社
13	日比谷公園避難者	同	同	同
14	銀座附近	同	同	日本電報通信社
15	深川方面を望む	繪畫	一尺五×二尺	東京震災記念事業協會
16	日本橋通	同	同	同
17	隅田川より本所方面を望む	同	同	同
18	淺草北部	同	同	同

ケース之部

番號	品名	出品者
1	床置物	東京震災記念事業協會
2	古錢其の他の熔塊	同
3	象牙の置物	同
4	貯金箱	同
5	硯及硯屛	同
6	古鏡	同
7	香爐及鍋	同
8	水差	同
9	鐵瓶	同
10	額面	同

番號	品名	種別	大サ	出品者
11	藥罐とサイダー壜と溶合物			同
12	扇風機			同
13	銅器			同
14	香爐			同
15	松平家の屋根瓦			同
16	ニコライ堂建物金具			同
17	被服廠跡遺品			本所區役所

第二室左側壁面之部

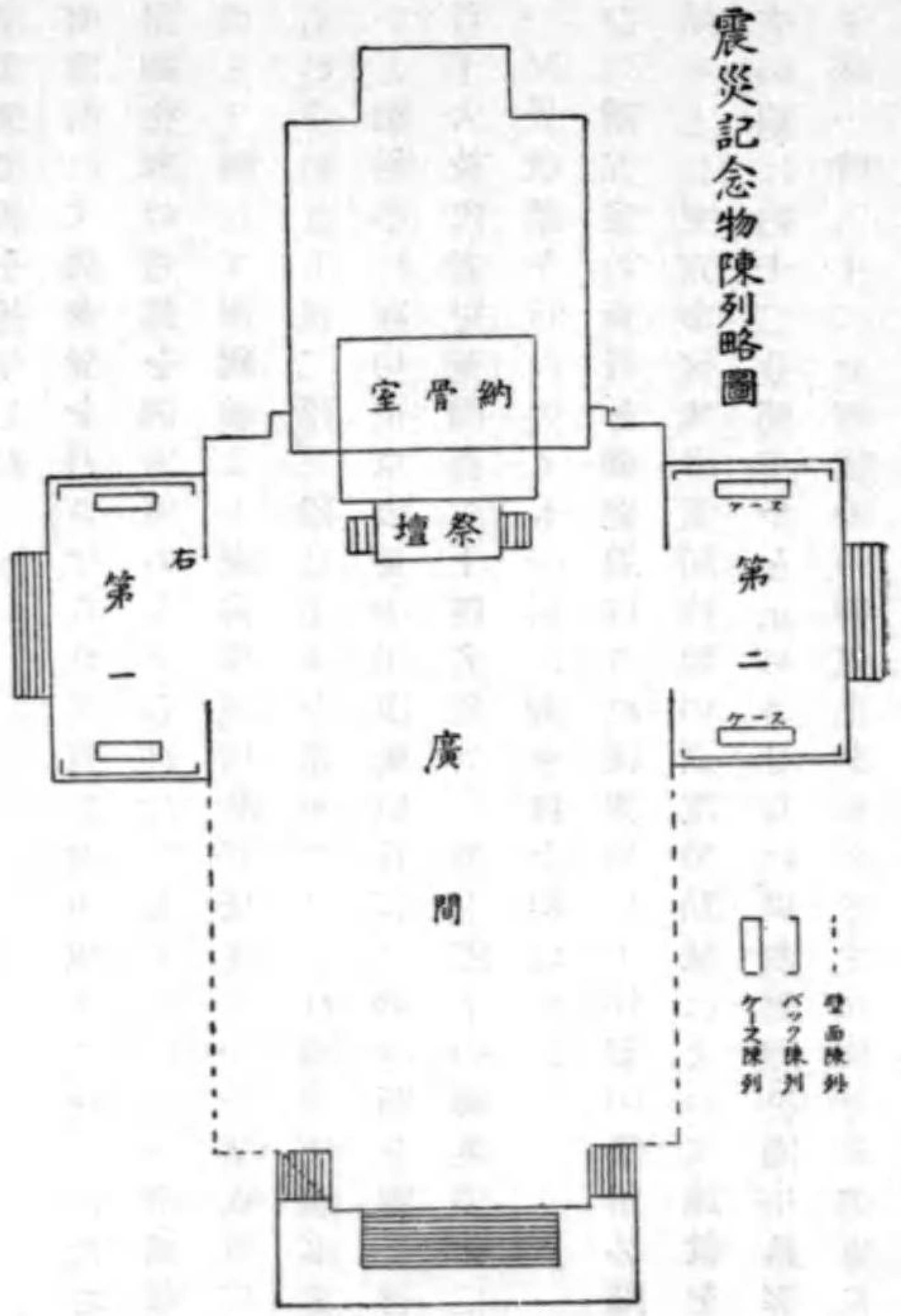
番號	品名	種別	大サ	出品者
1	九段下の假居	寫眞	二尺一×二尺七	東京朝日新聞社
2	宮城前廣場避難群	同	同	同
3	海軍の救護作業	同	同	海軍省
4	本郷湯島臺	繪畫	一尺五×二尺	東京震災記念事業協會
5	京橋出雲町	同	同	同
6	銀座方面を望む	同	同	同
7	九段下	同	同	同
8	ポスター	ポスター	二尺七×二尺一	東京市
9	ポスター	同	同	同
10	警視廳入浴場	寫眞	二尺一×二尺七	東京朝日新聞社
11	米國寄贈天幕病院	同	同	同
12	佛蘭西寄贈天幕病院	同	同	同
13	芝離宮のバラック	同	同	同
14	芝公園内バラック	同	同	同
15	十二階跡	同	二尺七×二尺一	同
16	丸善の燒跡	同	同	同
17	淺草北部	繪畫	一尺五×二尺	東京震災記念事業協會
18	銀座裏	同	同	同
19	ニコライ堂を望む	同	同	同
20	麴町六番町	同	同	同
21	上野驛附近	同	同	同
22	築地教會跡	同	同	同
23	神田三崎町附近	同	同	同
24	公園の避難者	同	同	同
25	日本橋白木屋前	同	同	同
26	記念事業ポスター	ポスター	二尺七×二尺一	同
27	同	同	同	同

28	同	同	同	東京震災記念事業協會
29	吾妻橋ビール會社	繪畫	一尺五×二尺	同
30	神田小川町附近	同	同	同
31	湯島臺	同	同	同
32	魚河岸附近	同	同	同

ケース之部

番號	品名			出品者
1	外國寄贈傷病者救療具類			東京市
2	大正震災誌及寫眞帖			內務省
3	大正大震火災誌			警視廳
4	震災及火害の研究			大藏省
5	關東地震調查報告			商工省
6	大正震災誌			東京市
7	當時の圖書雜誌類數種			東京震災記念事業協會

震災記念物陳列略圖



第八節　東京市立千代田小學校御立寄所

御巡幸を仰き奉る晴れの千代田小學校はアーチより校門玄關まて清砂は清々しく敷詰められ御召車御着を御待申上け、軈て隅田川の水に響いて聽ゆるサイレンか鳴り止む頃、先驅自動車到着して約八分を經、沿道彼方より萬歲の呼聲起ると間もなく颯爽たる英姿を拜し奉つた。

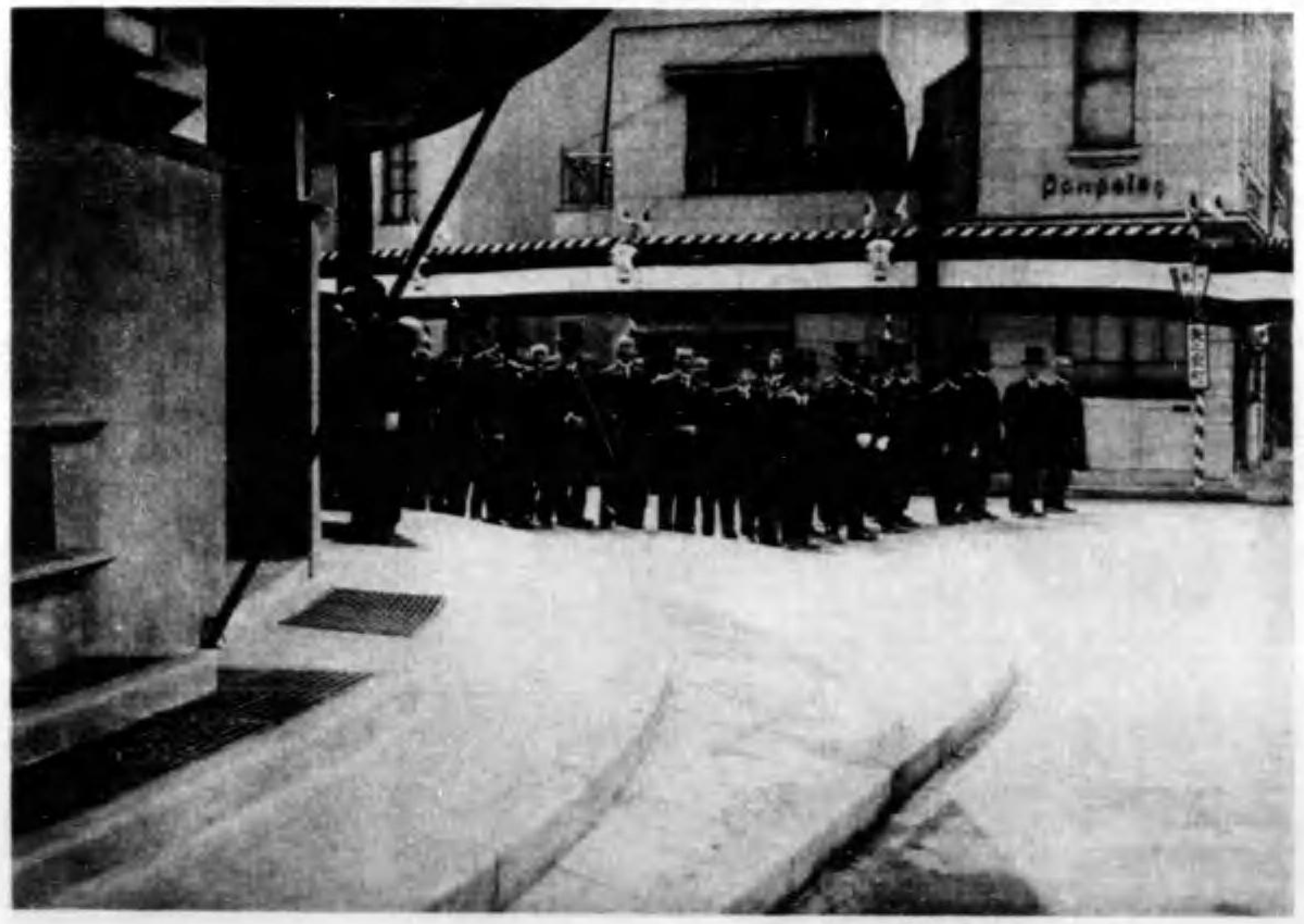
これより先校前には總理大臣濱口雄幸・前東京市長伊澤多喜男・同市來乙彦・前東京市助役岡田忠彦・同勝正憲外本日拜謁の光榮に浴する五百餘名は威儀を正して整列し、校長御先行東京市助白上佑吉御先導申上げ陛下には供奉員を隨へさせられて三階御座所に入御あらせられた、御休憩の御いとまもなく直に拜謁室に出御あらせられ、市復興關係者五百餘名に拜謁を賜ひ引續いて牧野內大臣・奈良侍從武官長侍立の下に、復興局長官中川望より國執行復興事業東京市長堀切善次郎より市執行復興事業概要書を捧呈した。

それより御座所にて御晝餐を召させられて暫し御少憩あらせられたる後、市長御先導申上げて同校屋上に出御、復興の帝都を御展望あらせられた、卽ち右に江東一帶・淺草・下谷方面、左に神田・日本橋・丸の內方面まで、轉して兩國橋より藏前橋・廐橋・駒形橋までか一望收められたる復興の形貌を御展望あらせられ、それより後二階、三階に玉歩を進めさせられ、國・市復興事業關係資料の陳列を御覽あらせられ、いと御熱心に堀切東京市長・中川復興局長官の御說明を聞し召された、この時校庭には燒失小學校百十六校代表兒童四百六十四名整列　聖上陛下の御英姿を二階バルコニーに拜し、校長以下兒童一同最敬禮を行ひ畏くも一同に御會釋を賜はつた。

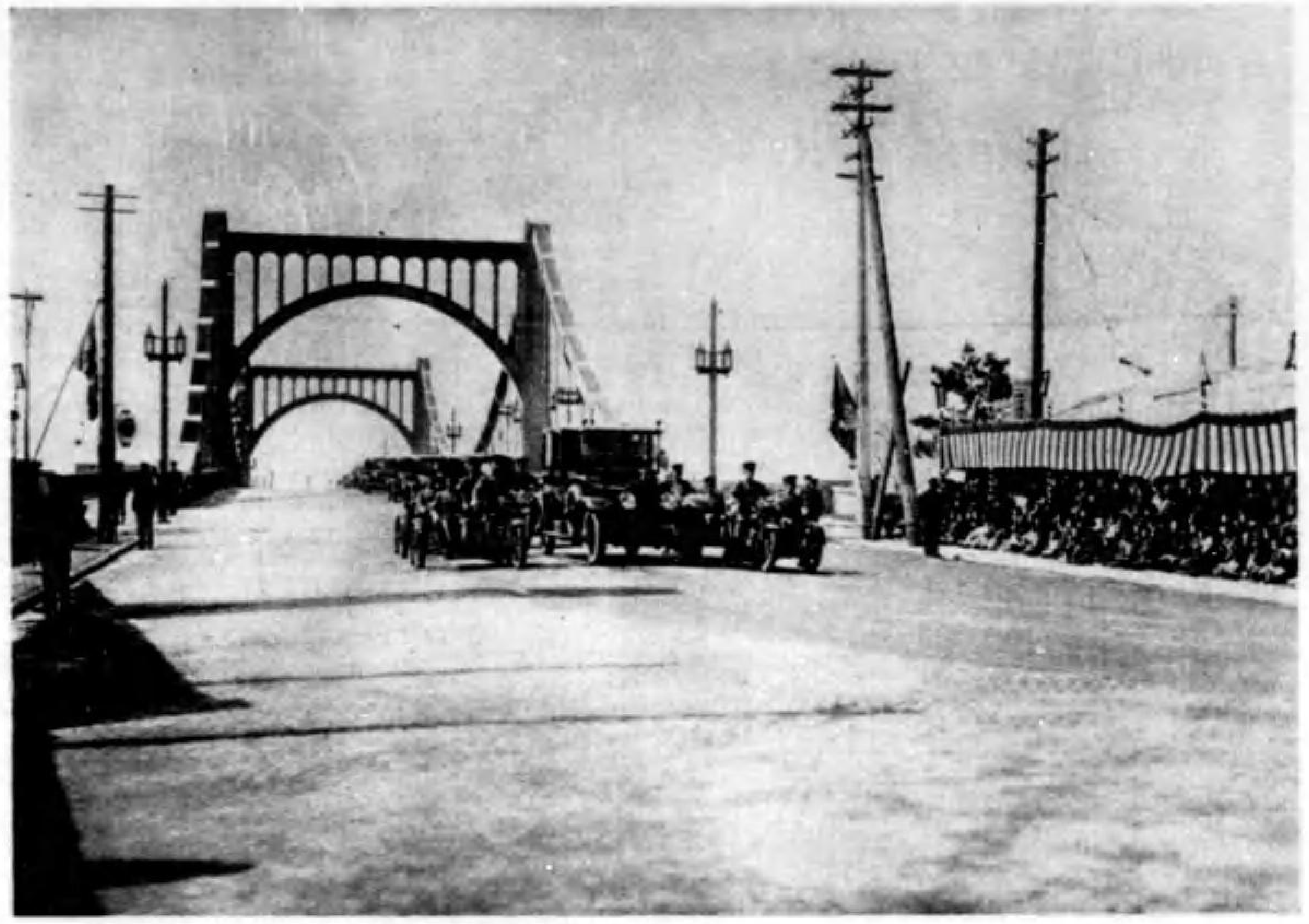
引續き再ひ二階五室の資料を御覽遊はされ、復興局にて作製の隅田公園模型や、大東京都市計畫區域模型を始めとし、東京市復興事業局作製の豆電燈點滅によつて施設を表はしたる復興事業の各年度進行表の前に約十二分間玉歩を止めさせられ、區劃整理・公園・街路等の進行振りを御覽遊はされた時に午後一時三十二分、御疲勞の御氣色をも拜せす同校を發御、第五號幹線街路を御通過清洲橋を渡御、清杉通りを深川大工町に向はせられ最後の御立寄箇所なる市立築地病院に向はせら

御巡幸

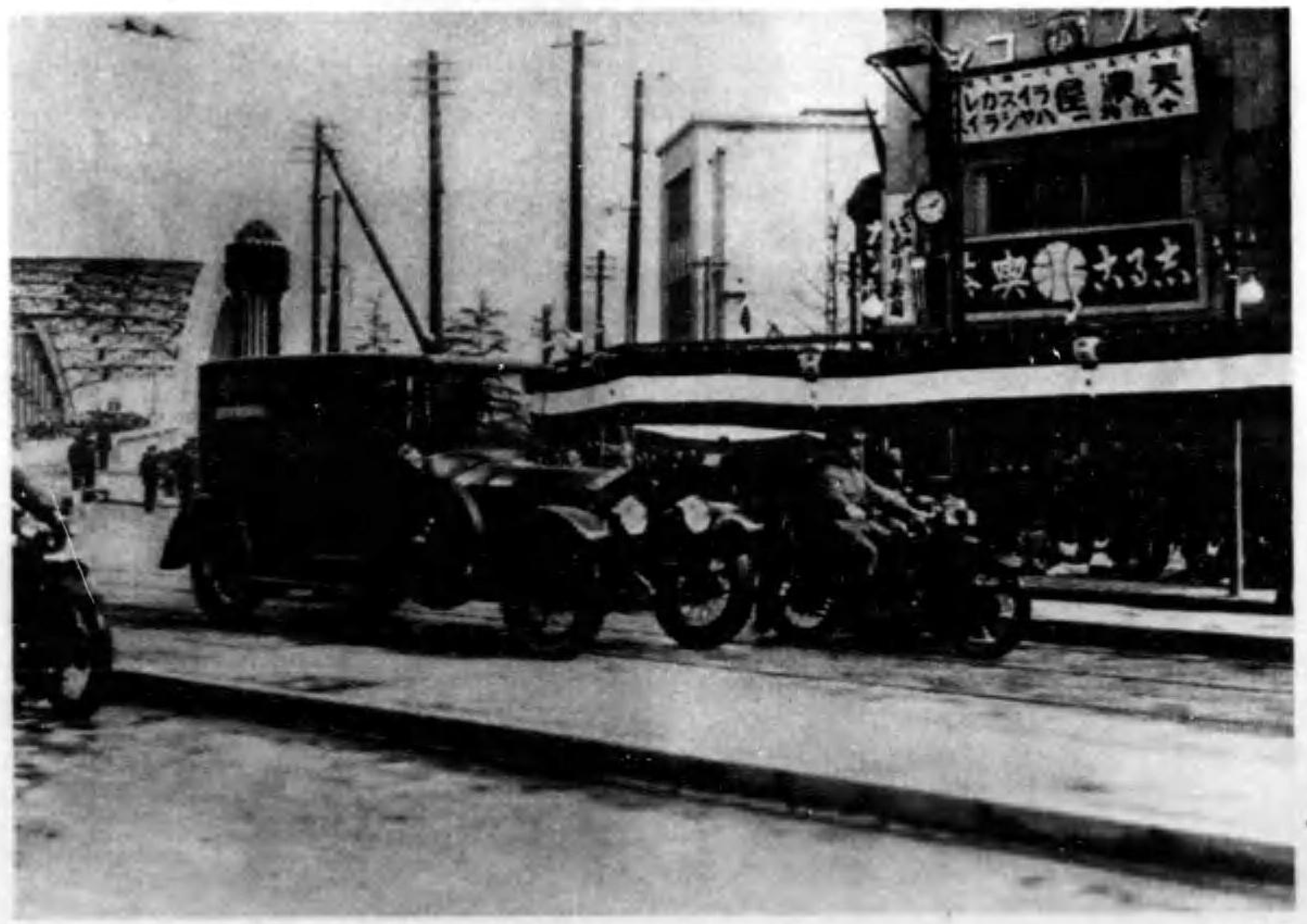
千代田小學校御着



千代田小學校に於ける市名譽職の奉迎



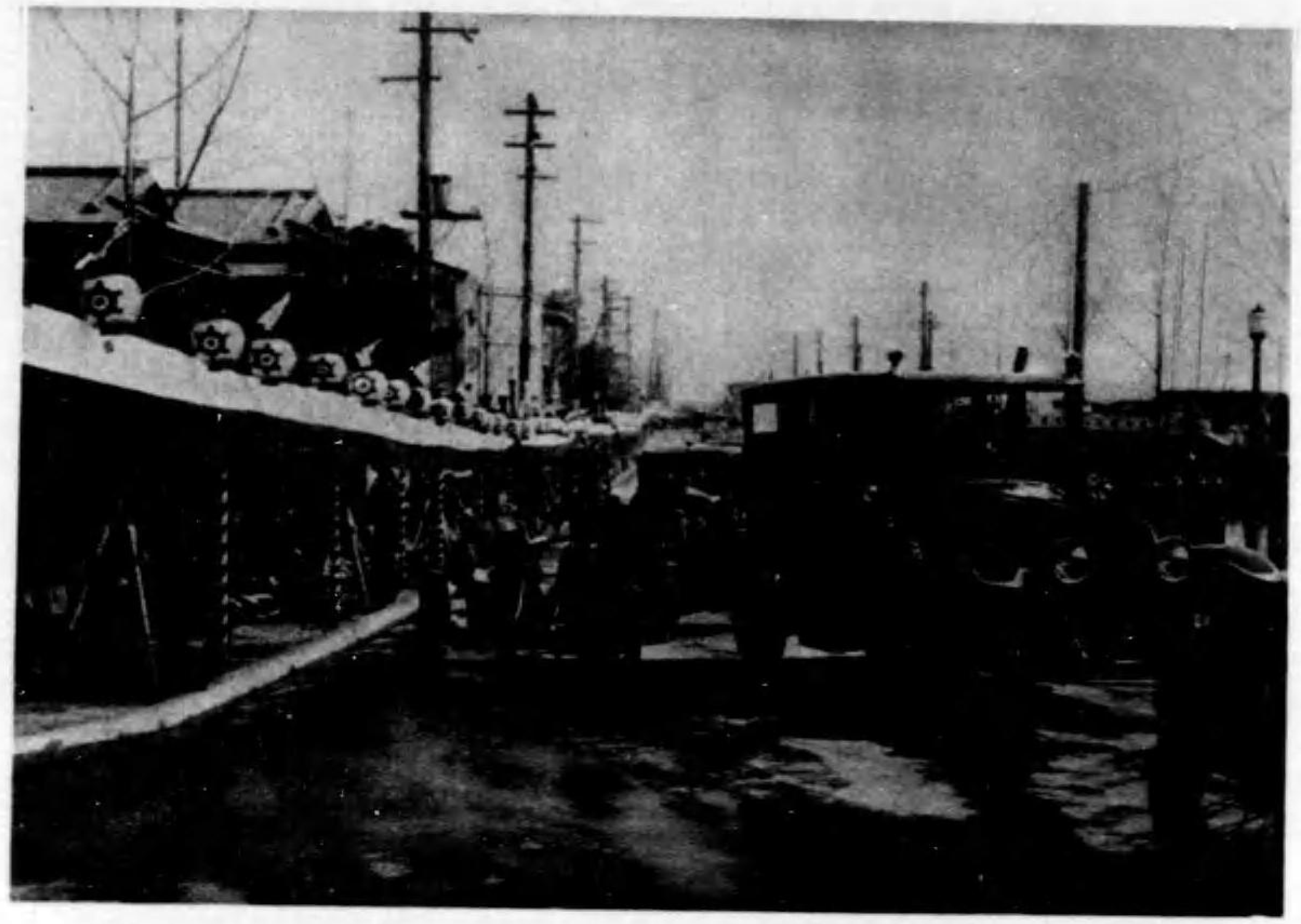
清洲橋御通過の鹵簿



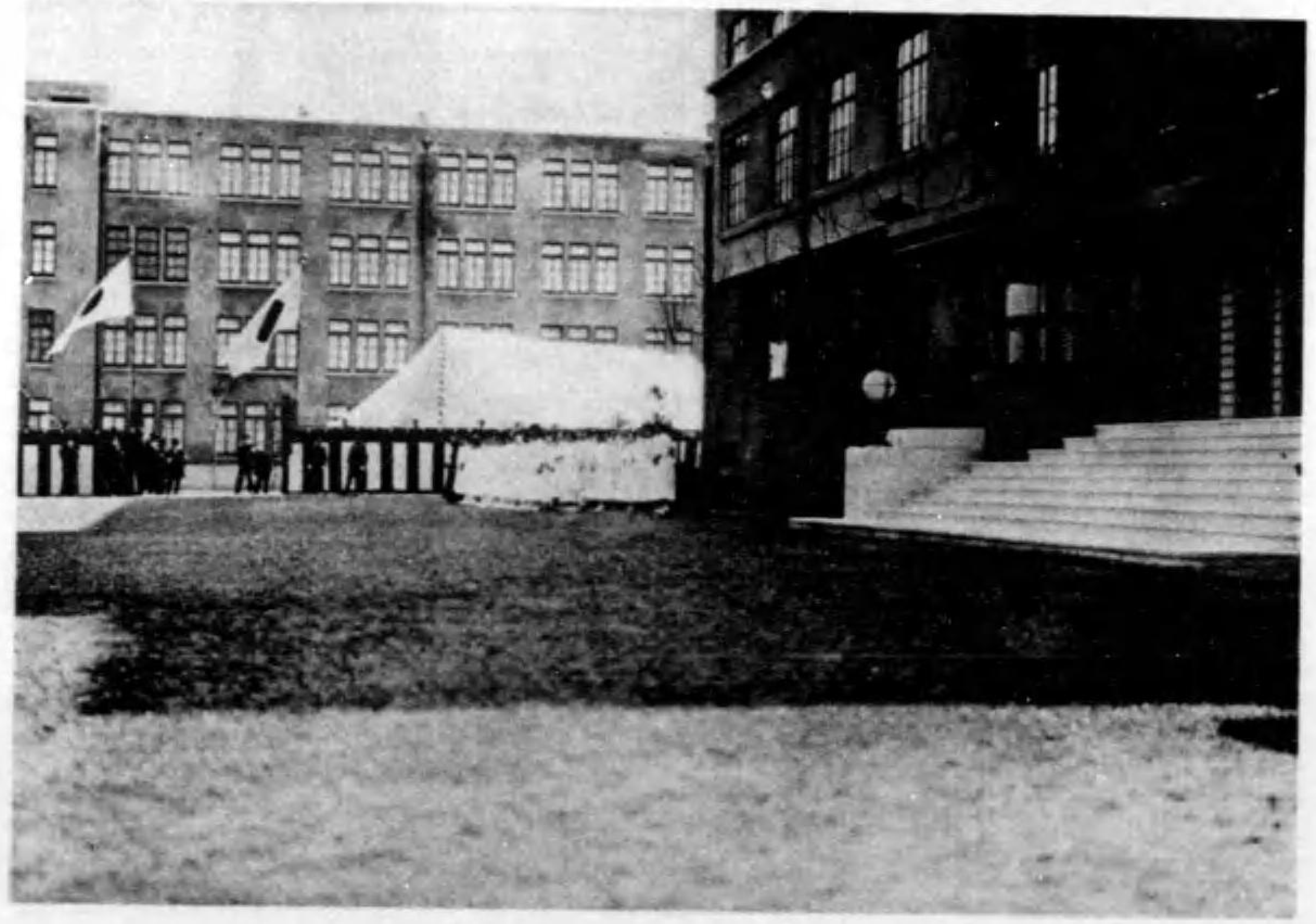
永代橋御通過の鹵簿

大震災燒失小學校代表職員及生徒に御親閲を賜ふ

御巡幸

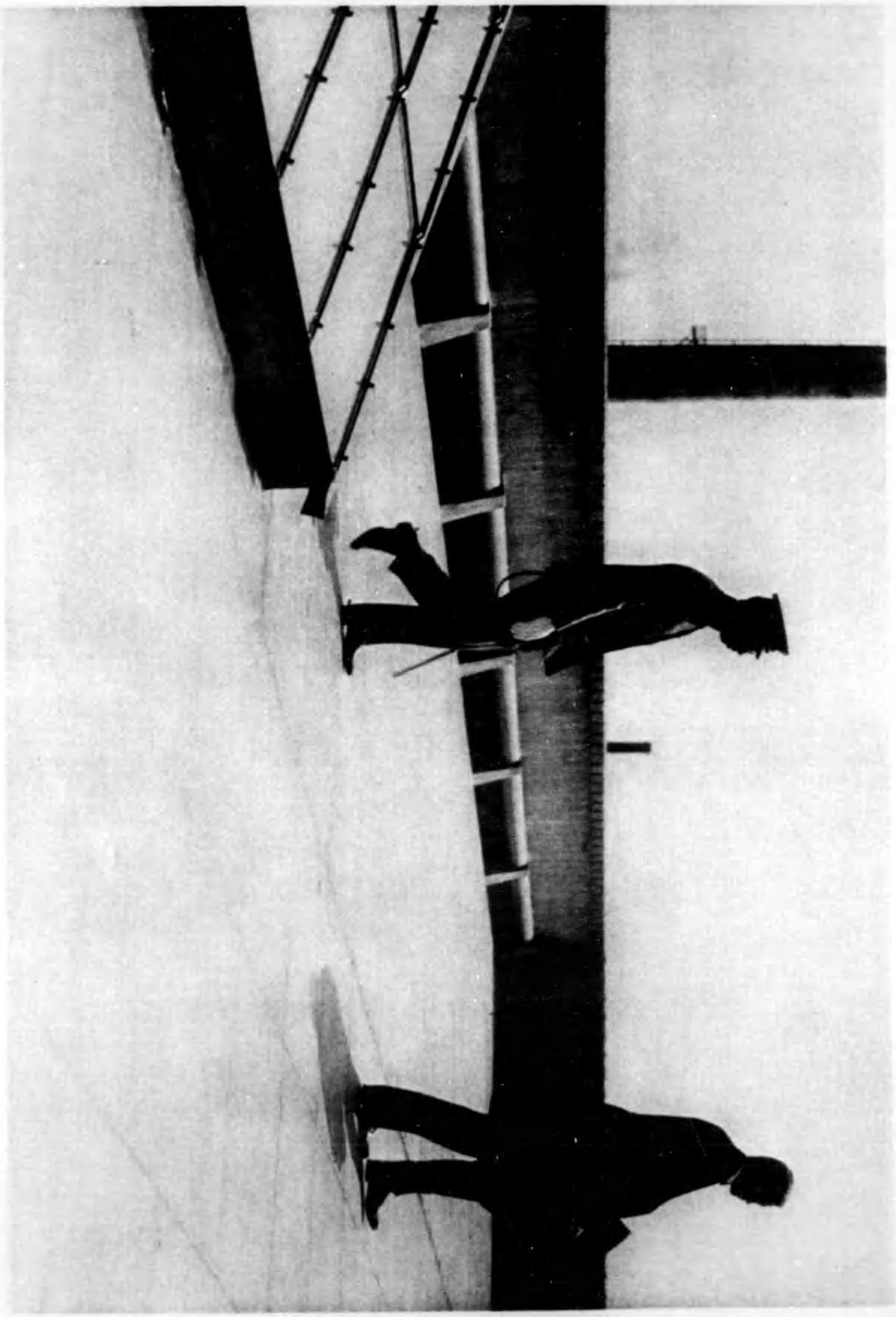


築地病院に向はせらる



築地病院表玄關

御巡幸



築地病院屋上御展望所に進ませらる（市長御先導）

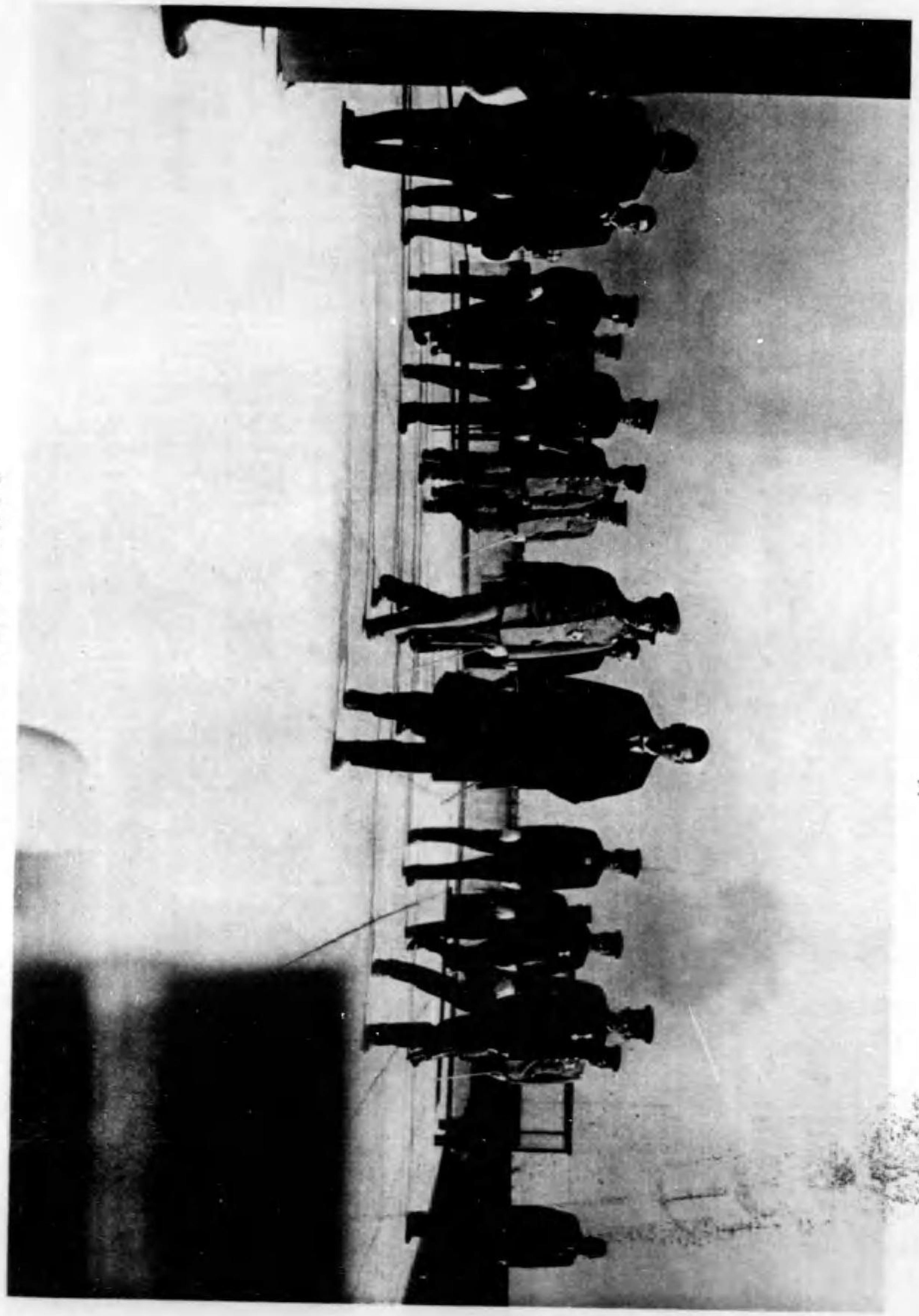
御巡幸

築地病院屋上より東京港方面御展望

御巡幸

築地病院屋上より京橋日本橋方面御展望

御巡幸



蠶絲試驗場上の御展望を給へさせらる

れた當日、東京市所管事業の上奏文竝拜謁の光榮に浴したる諸員氏名及天覽を給はりたた陳列資料は左の如くてある。

一　上奏文

東京市所管帝都復興事業概要

帝都復興事業トシテ東京市ニ於テ施行シタル事業ノ内容ハ、頗ル廣汎多岐ニ亘ル、卽チ本事業ノ根幹タル土地區劃整理事業ヲ始メトシ、補助線街路ノ修築、小公園ノ新設、塵芥處分施設、中央卸賣市場、小學校、病院等ノ建設、鋪裝路面竝橋梁ノ修築、水道施設、電氣事業施設等ノ復舊改良及大震火災前既ニ都市計畫事業トシテ決定シ施行中ナリシ水道擴張工事竝下水道改良工事ノ繼續施行等ノ諸事業ヲ包含シ、此ノ事業費總額三億五千二十八萬七千二百十四圓ナリ。

前掲ノ事業中、小公園ノ新設以下ノ諸施設ハ當初ヨリ東京市ニ於テ施行シ、政府ハ之ニ對シ補助金ノ交付、起債ノ保證、市債利子ノ補給等事業助成ノ爲メ財務援助ノ方法ヲ講スル豫定ナリシモ、土地區劃整理事業及補助線街路ノ修築ハ政府ニ於テ直接施行スヘク、大正十二年十二月第四十七臨時帝國議會ニ對シ之カ豫算ヲ提出シタルニ、是等ノ事業ハ其ノ性質上、地方團體ヲシテ施行セシムルヲ適切ナリトスルノ趣旨ヲ以テ、豫算ノ修正減額ヲ見タリ、茲ニ於テ土地區劃整理事業ノ大部分及補助線街路ノ修築ヲ東京市ニ於テ施行スルコトトナリ、政府ハ之カ爲ニ補助金ヲ交付スルノ外、新タニ事業資金ノ貸付ヲ爲スニ至レリ、此ノ結果東京市ハ復興事業費豫算總額三億五千二十八萬七千二百十四圓ニ對シ、國庫補助金一億四千七百二十一萬六千七百七圓ヲ、國庫貸

付金四千七百七萬七千圓ヲ又市債利子補給一千九百二十五萬三百九十四圓ヲ受クルコトトナ

帝都復興事業ノ施行年度ハ電氣事業施設ノ大正十三年度至大正十五昭和元年度ノ三箇年度ニ施行スルモノヲ除キ他ハ總テ政府ニ於テ施行スル事業ト同シク大正十二年度ヨリ昭和三年度ニ至ル六箇年ノ繼續事業トシテ施行スルモノト定メタリシモ後中央卸賣市場ノ建設ハ同五年度迄電氣事業施設ハ同十年度迄其ノ他ハ之ヲ昭和四年度迄延長シ繼續施行スルコトトナレリ。

而シテ東京市ハ帝都復興事業ノ根幹タル土地區設整理事業施行ニ付特ニ大正十三年三月區劃整理局ヲ設置シタルノ外街路事業以下各事業ハ其ノ種別ニ從ヒ既設ノ局課ヲシテ各管掌セシメタリ後大正十五年十二月市役所處務規程ヲ改正シ區劃整理局ヲ復興事業局ト爲シ同時ニ他ノ局課ニ付テモ廢合ヲ行ヒタル結果現在復興事業ヲ管掌スル局課ハ土地區設整理事業ハ復興事業局補助線及區設整理街路橋梁ノ新設改修下水道ノ改良其ノ他ノ土木事業ハ土木局小公園ノ新設衞生施設ハ保健局教育施設ハ教育局社會事業施設ハ社會局水道事業施設ハ水道局電氣事業施設ハ電氣局中央卸賣市場ハ商工課ニ分屬セリ。

今東京市ノ管掌スル復興事業ノ概要ヲ擧クレハ左ノ如シ

一　土地區劃整理事業

本事業ハ實ニ復興事業ノ根幹ニシテ市內燒失區域中麴町・神田・日本橋・京橋・芝・本郷・下谷・淺草・本所・深川ノ十區ニ涉ル九百八萬坪ヲ六十二箇地區ニ分割シ內五十箇地區約七百九十二萬坪ヲ以テ市ノ施行地區ト爲シタリ斯クシテ之ヲ施行シタル結果施行前ノ宅地總面積約五百六十七萬坪ニ對シ施行後ノ同面積ハ減シテ約四百九十萬坪トナリ卽チ道路其ノ他ノ公共用地ノ面積約七十七萬坪ノ增加ヲ見タリ。

而シテ區劃整理街路ハ幹線及補助線街路ニ連繫シテ其ノ支脈ヲ爲シ宅地利用上必要缺クヘカラサルモノニシテ東京市ノ施行ニ係ル土地區劃整理地區內ニ於テ縱橫ニ交叉スル區劃整理街路ノ新設改修ハ區劃整理地區外ニ涉リテ施行セル分ヲ合セ其ノ延長實ニ約四十八萬八百米突ニ上レリ。

尙宅地ノ低濕若ハ前面街路ニ對シ高低著シク利用上不適當ノモノニ付宅地造成工事ヲ施行シタルモノ約五十三萬八千坪ニ及ヒ更ニ土地區劃整理ノ施行ニ伴ヒ建物ノ移轉ヲ爲シタルモノ十六萬一千五百餘棟ニ上レリ。

而シテ之カ所要經費ハ九千三百九十五萬一千圓ナリ。

二　補助線街路修築事業

本事業ハ復興事業街路ノ新設改修中政府ニ於テ施行シタル幹線街路ニ連繫シタル第二次的主要街路ニシテ百二十二路線(橋梁百三十四橋)其ノ延長約十二萬四千四百米突ノ新設改修ヲ行ヒタルモノナリ。

尙補助線街路ノ機能ヲ充分ナラシムル爲橋梁ノ架設ヲ爲シタルモノ百二十八ナリ。

而シテ之カ所要經費ハ八千百三萬四千三十八圓ナリ。

三　道路橋梁改築事業

本事業ハ大震火災ニ因リ損傷シタル鋪裝路面橋梁ノ修築ヲ爲スト共ニ燒失區域內ニ於ケル一部路面ノ新規鋪裝等ノ事業ニシテ鋪木道約一萬六百坪瀝青混凝土道約一萬坪瀝青マカダム道

約四千三百坪、混凝土道約五千三百坪、鋪石道約一千三百坪、歩道約二千三百坪及緣石約三千八百米突ノ新築、修繕竝橋梁三百三十五ノ復舊、改築ヲ施行シタリ。

而シテ之カ所要經費ハ一千三百六十八萬四千二百二十一圓ナリ。

四　下水道改良事業

本事業ハ東京市區改正事業トシテ明治四十四年度ヨリ繼續施行中ナリシ第一期及第二期下水道改良事業ヲ震災ト同時ニ一旦打切リ、復興事業トシテ災害復舊第一期、第二期下水道改良事業殘工事ノ完成、及第三期事業計畫中第一區ノ一部、同第三區ノ大部ニ於ケル燒失區域ノ排水基幹工事ヲ施行シタルモノナリ。

卽チ災害復舊工事トシテハ三河島汚水處分場・淺草喞筒場管渠等ノ第一期工事既成部分ノ修築ヲ爲シ、第一期完成工事トシテハ三河島汚水處分場ノ事務所、公舍・附屬建物及淺草區內枝線管渠ヲ、第二期工事トシテハ、錢瓶町・芝浦喞筒場及麴町竝芝ノ一部・日本橋・京橋（月島ヲ除ク）ニ於ケル及枝線管渠ヲ、又第三期第一區工事トシテハ神田ノ大部・麴町・芝ノ一部ニ於ケル幹線及枝線管渠幹線ヲ同第三區工事トシテハ業平橋・三ノ橋及木場ノ三喞筒場・砂町處分場竝本所・深川ノ全部ニ於ケル幹線及枝線管渠ノ敷設ヲ爲シタリ。

而シテ之カ所要經費ハ四千二十一萬一千三百二十一圓ナリ。

五　小公園ノ新設

本事業ハ大震火災ニ因ル燒失區域內ニ九百坪內外ノ小公園五十二箇所面積合計約四萬四千三百坪ヲ復興小學校ニ附設セルモノニシテ樹林・花園・廣場等ヲ適當ニ配置シ運動器具ヲ設備シ、一般公衆ニ開放シ兼テ小學校兒童ノ遊園トシテ利用セシムルヲ目的トシテ施設シタルモノナリ。

而シテ之カ所要經費ハ一千四百七萬二千五百三十八圓ナリ。

六　塵芥處分設備

本事業ハ東京市ニ於ケル塵芥ノ一日ノ排出量約二十萬貫ニ上ルヲ以テ、之カ處理ノ爲メ二十七箇所ノ塵芥取扱所及二箇所ニ塵芥處理工場四工場ヲ建設シ、以テ高熱又ハ低熱ノ燒却設備ヲ爲シ、尙一面ニ於テ有價物撰別設備ヲモ附設スルモノナリ。

而シテ之カ所要經費ハ百八十五萬圓ナリ。

七　中央卸賣市場建設

本事業ハ中央卸賣市場法ニ準據シ魚介・靑果・獸鳥肉類等日常生活必需品配給ノ中樞機關ノ設營ニシテ位置ヲ京橋區築地四丁目海軍省用地ノ內、約五萬九千坪ニ決定シ、目下建設ノ準備中ナリ、

而シテ之カ經營販賣及處理等ノ設備ニ關シテハ歐米ニ於ケル最新ノ施設ヲ參酌シ、經濟上竝衞生上些ノ遺漏ナキヲ期セリ。

而シテ本事業ハ費用一千六百五十萬圓ヲ以テ昭和五年度迄ニ完成ノ豫定ナリ。

八　小學校ノ建設

本事樣ハ大震火災ニ因リテ燒失シタル市立小學校百十七校ノ復興ニシテ併合等ノ關係ニ依リ復興計畫ニ於テハ校數ヲ百十六校二千八百八學級トシ、一校ノ規模ハ十六學級乃至三十二學級ノ範圍ニ於テ實情ニ應シ其ノ規模ヲ定メタリ、內一校ハ市ニ於テ直接建設シ、百十五校ハ區ニ於テ工事ヲ執行セルモノニシテ市ハ建設費ノ補給ヲ爲シタリ。

而シテ右建設竝補給所要經費ハ四千九百十三萬九千九十六圓ナリ。

九　社會事業施設

本事業ハ失業救濟・兒童保護・簡易宿泊・簡易食事供給・庶民金融・浴場等社會事業各般ノ施設ニシテ職業紹介所十三箇所、託兒竝兒童健康相談所、婦人授産場六箇所、公衆食堂十箇所、簡易宿泊所十箇所、公設質屋七箇所、浴場二箇所及普通授産場一箇所ヲ建設スルモノナリ。

而シテ是等施設ノ爲メノ所要經費ハ四百五十二萬五千圓ナリ。

十　市立病院建設

本事業ハ實費診療ト施療トヲ兼ネ、平均二百ノ病床ヲ備ヘ、且外來患者ノ診療設備ヲ有スル同型ノ病院五箇所ヲ建設スルモノナリ。

而シテ之カ所要經費ハ三百十萬圓ナリ。

十一　水道復舊竝擴張事業

本事業ハ大震火災ニ因リ損傷シタル水道設備ノ復舊及大正十五年東京都市計畫事業トシテ決定シタル東京市水道擴張設計中一部速成工事ニシテ復舊工事トシテハ全水路ニ亘リ隧道決潰竝築堤破損箇所ノ修理・橋梁ノ架設・新宿淨水場沈澄池・濾過池・淨水池・淨水渠・排水渠・鐵管等ノ修理、永代橋外二十六橋ニ添加シアル設備ノ復舊其ノ他ノ附帶施設ヲ包含セリ、又水道擴張速成工事トシテハ村山貯水池下堰堤上半部、境淨水場濾過池及淨水渠配水管ノ築造ヲ爲シタルモノナリ。

而シテ之カ所要經費ハ壹千萬圓ナリ。

十二　電氣事業施設

本事業ハ大震火災ニ因リ損傷シタル電氣軌道事業竝電氣供給事業施設ノ復舊新設、改良ヲ爲スモノニシテ、軌道、送電線、車輛、發電所、變壓所竝變電所、其ノ他ノ附帶施設ヲ包含セリ。

而シテ本事業ハ經費三千四十二萬圓ヲ以テ昭和十年度迄ニ完成ノ豫定ナリ。

以上ハ東京市ニ於テ施行シタル復興事業ノ概要ナリ。尚東京市ニ於テ施行セル復舊事業トシテ區役所廳舍・圖書館・築地病院アリ、又普通事業トシテ中央卸賣市場神田及江東ノ二分場・芝浦棧橋及上屋倉庫等アリ、何レモ其ノ實質ニ於テ復興事業ト目スヘキモノ尠カラサルモ、甚タ多岐ニ亘リテ煩ハシケレハ記セス、唯、町界、町名、地番ノ整理、本所、深川方面ノ低濕地盛土及復興建築ノ助成施設ハ、復興事業ト極メテ密接ナル關係ヲ有スルカ故ニ、玆ニ其ノ概要ヲ述フルコトトセリ。

一　町界町名地番ノ整理

由來東京市ノ町ノ區域、名稱、地番ハ甚タ亂雜ニシテ、市民日常ノ生活上不便不利尠カラサリシカ、土地區劃整理事業施行ノ結果、事業區域內ノ土地ハ大部分異動シ、一層錯綜ヲ來シタルヲ以テ、此ノ際町界、町名、地番ノ整理ヲ併セ行フヘシトノ議起リ、復興局ニ於テ種々調査考究ノ上、整理ニ關スル基本方針ヲ樹テ、參考案トシテ東京市ニ回付アリタルヲ以テ、東京市ハ更ニ實施ノ狀況等ニ鑑ミ具體案ヲ決定シ市會ノ議決ヲ經テ逐次施行中ナリ、整理豫定區域內ニ於ケル從前ノ町名數七百五十二區町名アリ、而シテ既ニ決定シタルモノヲ擧クレハ、從前ノ町名數二百八十八箇町名ナリシヲ六十四箇町名ニ整理シ、內實施シタルモノ十二箇町名ナリ。

二　本所深川方面低濕地ノ盛土

本所、深川方面卽チ江東一帶ノ地ハ概ネ卑濕ニシテ、住民ノ保健上甚タ憂慮スヘキモノアリシカ、

土地區劃整理事業ニ依リ建物ヲ移轉スル機會ニ於テ、低濕地ノ盛土ヲ爲サシムル爲、復興事業其ノ他ノ工事ヨリ生スル殘土ヲ希望者ニ配給スルノ制ヲ樹テテ、鋭意斡旋シ總所要土量概算二十一萬立坪ニ對シ既ニ約九萬二千立坪ヲ供給シ、尚繼續施行中ニ屬ス。

三 復興建築ノ助成施設

復興事業ニ依ル街路・運河・公園等ノ都市施設ト共ニ、民間ニ於ケル建築物ノ復興ヲ促ス爲メ復興建築助我ノ急務ナルヲ認メ、東京市ハ政府ヨリ資金ノ融通ヲ受ケテ、之ヲ復興建築助成株式會社又ハ燒失區域內ニ於ケル各區ノ建築復興信用組合ニ資金ヲ供給シ居レリ。而シテ前者ハ耐火建築資金ノ融通、又ハ耐火建築物ノ割賦販賣ヲ目的トシ、既ニ東京市ノ供給セル資金一千六百三十五萬四千二百三十圓ナリ、後者ハ木造建築資金調達ノ信用組合ニシテ、既ニ東京市ノ供給セル資金一千三十萬圓ニ達セリ。

今ヤ帝都復興ノ大業略我リ玆ニ畏クモ鑾輿ヲ迎ヘ奉リテ復興帝都ノ御親閱ヲ辱ウス、東京市民ノ光榮何モノカ之ニ過キン、臣等恐懼感激ノ情ニ禁ヘサルナリ、抑モ帝都復興ノ事業タル、其ノ規模廣汎ニシテ施設ノ多岐ニ渉レル洵ニ空前ノ事ナリ、大震火災ノ深酷ナル傷痍ヲ受ケタル帝國ノ果シテ能ク之ヲ爲シ得ルヤ否ヤ列國注視ノ的タリキ、今日大業滯リナク略終了ヲ告クルニ至リタルハ是偏ニ御稜威ノ致ス所ニ外ナラス。雖然帝都ノ施設ハ以上記述セル事業ノミニ依リテ萬全ヲ期シ得ヘキニ非ス、尚幾多ノ都市施設ヲ逐行シテ始メテ完璧ヲ得ルナリ、益々奮勵努力、帝都ノ進展ヲ圖リ報國ノ微衷ヲ効サンコトヲ期ス。

二 拜謁

第一列立拜謁者

元東京市長	正四位勳一等	市來乙彥
元東京市麴町區學務委員長	正三位勳一等	土方寧
元東京市長	從三位勳一等	伊澤多喜男
元東京市助役	從四位勳三等	勝正憲
復興局部長	正五位勳四等	吉村哲三
東京市會議長	從二位勳二等伯爵	柳澤保惠
東京市會議員	正三位勳二等	岡田和一郎
同	從三位勳三等	田代義德
東京市衛生常設委員	從三位勳二等	栗本庸勝
東京市局長	從四位勳三等	筧正太郎
元東京市技師	正四位勳三等	月田藤三郎
元東京市主事	從五位勳三等	佐伯敬一郎
元東京市技師	從四位勳三等	渡邊浚郎
東京市主事	正五位勳三等	工藤隆治
元東京市助役	從四位勳三等	岡田忠彥
東京市主事	正五位勳三等	佐藤醇
東京市助役	從四位勳三等	白上佑吉
元東京市參與	從四位勳三等	生野團六
	從五位勳三等	木村由之助
	(功五級)正五位勳三等	棋林馨
東京市衛生常設委員	從四位勳四等	北島多一
元東京市助役	從四位勳四等	馬渡俊雄
休職東京市技師	從四位勳四等	久米甚太
東京市局長	從四位勳四等	近新三郎
東京市技師	從四位勳四等	稻葉慂
同	從四位勳四等	永井松次郎
元東京市技師	從四位勳四等	池邊稻生
元東京市局長	從四位勳四等	今村次吉

以上 廿八名

第二列立拜謁者

土地區劃整理第三十六地區整理委員會議長		太田信治郎
元東京市淺草區長	正五位	安藤正純
元東京市助役	從五位	松本忠雄

元東京市會議員		山崎龜吉
元土地區劃整理第十四地區整理委員會議長		津村重舍
元東京市會議員	勳四等	村松恒一郎
東京市會議員	勳六等	大崎清作
元東京市會議員		栗原彥三郎
東京市會議員		高橋秀臣
同		本田義成
同		古島宮次郎
同		土倉宗明
元東京市會議員		大野伴睦
東京市會議員		深澤豊太郎
東京市衞生常設委員	從五位	伊藤武彥
元東京市會議員	正六位勳四等	大石熊吉
東京市技師	從五位勳四等	中村琢治郎
	正六位勳四等	山本久吉
東京市助役	正五位勳四等	田中廣太郎
元東京市會議員	勳四等	福田又一
		黒須龍太郎
東京市日本橋區長		田村瑞穗

元東京市主事	正六位勳四等	林忠美
東京市技師	正五位勳四等	神谷秀吉
東京市局長	正五位勳四等	藤井利譽
東京市技師	正五位勳四等	安倍邦衞
元東京市局長	正五位勳六等	御厨規三
元東京市技師	正五位勳六等	宮川波衞
東京市技師	正五位勳六等	景山貫
東京市主事	正五位勳六等	井上柱
東京市技師	正五位勳五等	龜岡慶治
同	正五位	衣斐淸香
元東京市助役	從五位勳六等	田澤義鋪
東京市技師	從五位	中西義榮
同	從五位勳六等	今井哲
同	從五位勳五等	阿部五郎
東京市麴町區長	從五位勳五等	龜山忠之助
東京市局長	從五位	安井誠一郎
復興局事務官	正六位勳五等	西村輝一
	正六位勳五等	水田久壽彌太
元土地區劃整理第八地區整理委員會議長	從七位勳六等功五級	秋草愛一

東京市會議員	正六位勳五等	新居友三郎
	正六位勳五等	松尾義男
	從六位勳五等	增田達一
	正六位勳五等	松浪勘三郎
	正七位勳五等	石塚廣彌
元東京市主事	正六位勳五等	平田富資
東京市淺草區長	正六位勳五等	杉梅之治
東京市技師	從六位勳五等	太田轍
復興局事務官	從六位勳五等	大平吉五郎
元東京市衞生常設委員	勳五等	木村德衞
元東京市主事	正六位勳五等	山崎犀二
東京市會議員	正六位	有竹雅巳
東京市技師	正六位	高橋茜也
同	正六位	近藤伊三郎
	正六位勳六等	矢賀武之
東京市京橋區長	正六位	川島一郎
東京市麴町區學務委員長	從六位	綠山貞規
元東京市技師	從六位	加藤谷祐太郎
同	從六位勳六等	江口萬藏

	從六位	橋宰三
休職東京市主事	從六位勳六等	石原市三郎
東京市技師	從六位	志知勇次
同	從六位	古茂田甲午郎
同	從六位勳六等	沖山金治
	從六位	宮本龜藏
	從六位勳六等	松浦角太郎
	從六位	前原仲內
東京市會議員	從六位	柳田宗一郎
同	從六位	橋本祐幸
東京市主事	從六位勳六等	鈴木榮一郎
同	從六位勳六等	上原六郎
同	從六位	倉內豐太郎
東京市芝區長	勳六等功六級	高川宅次
東京市技師	從七位勳六等	山田釜次郎
	勳六等功七級	竹下虎雄
	勳六等	武田兵吉
元東京市衞生常設委員	勳六等	細野順
元東京市主事	勳六等	芹澤登一

勳六等功六級　山下正巳
勳六等　安藤辰三
勳六等　本田今朝吉
從七位勳六等　芳賀力藏
勳六等　伊藤勝義
元東京市主事　正七位勳六等　宮澤小五郎
從七位勳六等　福田松吉
勳六等　佐々木伊三郎
勳六等　篠原朝男
勳六等　吉田直助
從七位勳六等　日下哲千代
元東京市主事　正七位勳六等　大内亥之吉
東京市主事　正七位勳六等　櫻木計三郎
同　從七位勳六等　岩崎松太郎
從七位勳六等　天田惠三
東京市主事　正七位勳六等　增田稔
正七位勳六等　根本傳作
勳六等　鯉淵誠
元東京市學務委員　正七位勳六等　湯澤直藏

元東京市芝區學務委員長　正七位　中村兵之助
土地區劃整理第五十三地區整理委員會議長　正七位　小林文之助
東京市會議員　正七位　森原嘉逸
元東京市京橋區長　正七位勳七等　澁谷德三郎
元東京市助役　正七位　荒木孟
東京市理事　正七位　山下又三郎
元東京市主事　正七位　石井滿
東京市講師　正七位　田中三郎
東京市技師　正七位　前田長久
東京市主事　正七位　土生文之助
同　正七位　船津新四郎
同　正七位　大里常弘
同　正七位勳七等　寺本末藏
同　正七位　黑川一次
元東京市學務委員　正七位　上沼久之丞
復興局技師　從七位　尾崎巖
元東京市主事　從七位　木村条三
復興局事務官　從七位　加古松太郎
東京市技師　從七位　中大路氏爲

東京市會議員　從七位　八太茂
東京市視學　從七位　山内太一
東京市技師　從七位　坂井代作
元東京市理事　從七位勳八等　北林賢次郎
東京市主事　從七位　守屋正二
同　從七位　佐藤徹夫
東京市技師　從七位　青山泰晴
同　從七位　阿部喜之丞
東京市主事　從七位　由良新
元復興局事務官　從七位　勝田八十一
同　從七位勳七等　市川達
東京市技師　從七位　小川榮次郎
元東京市學務委員　從七位　下川兵次郎
東京市主事　勳七等功六級　清水義俊
東京市技師　勳七等功六級　有元岩鶴
同　正八位　小野基樹
同　正八位　寶田一藏
東京市會議員　正八位　均月學
東京市技師　勳七等功七級　吉澤源素

東京市會議員　勳八等功七級　高橋庄之助
東京市技師　勳七等　内藤義演
東京市芝區學務委員長　勳七等　岡　秀賓
東京市主事　勳七等　横田富太郎
同　勳七等　田村春松
東京市會議員　勳八等　池田萬藏
同　勳八等　池田清秋
同　勳八等　新甫寛實
土地區劃整理二十五地區整理委員會議長　勳八等　吉川忠志
東京市主事　勳八等　喜多村開藏
東京市日本橋區會議長　勳八等　渡邊善十郎
東京市主事　勳八等　高橋友忠
元東京市學務委員　勳八等　相島龜三郎
東京市主事　勳八等　米谷留太郎
同　勳八等　矢島慶次郎
元東京市會議員　勳八等　加藤辰之
同　宇田川幸吉
東京市主事　勳八等　福原敬治
東京市技師　勳八等　今村義一

元東京市助役　田沼義三郎
東京市局長　小川織三
東京市技師　福田重義
東京市神田區長　白鳥德之助
東京市本鄕區長　前田賢次
東京市本所區長　大堀佐內
東京市深川區長　野崎廣助
東京市赤坂區長　森岡保喜
元東京市神田區長　山縣鐵藏
元東京市神田區長　榮原國松
元東京市京橋區長　八田五三
元東京市芝區長　小宮山信治
元東京市深川區長　川部爽介
元東京市本所區長　十時尊
元東京市深川區長　中野浩
元東京市深川區長　伊藤治作
東京市會議員　溝口信
同　笠井重治
同　中川重政

東京市會議員　岸邊福雄
同　桑原信助
同　河村慶治郎
同　伊東美代松
同　松浦清三郎
同　中南定太郎
同　阿部温知
同　富岡袖吉
同　橋本信次郎
同　大神田軍治
同　高橋義次
同　中塚榮次郎
同　川手忠義
同　和田操
同　和久利幾之助
同　小久保時之助
同　詫摩武彥
同　羽田如雲
同　中西敏二

東京市會議員　山田保
同　結城禮一郎
同　高木謙
同　大野傳吉
同　島中雄三
同　島名健
同　松永東
同　長島武治
同　山口久吉
同　蓮江啓藏
同　安部利七
同　友成四郎
同　高崎高次郎
同　倉持忠助
同　小澤佐重喜
同　小林半三郎
同　森富太
同　岡田四郎
同　川村正夫

東京市會議員　山田種三郎
同　寺部頼助
同　小野善治
同　茂木太市
同　鈴木慶四郎
同　佐藤庄吾
同　島本龍太郎
同　馬島僩
同　森粂道
同　糟谷磯平
同　北條彥四郎
同　增田知治雄
同　加藤正信
同　森健二
同　高橋俊太
同　國枝捨次郎
同　卯木國三郎
元東京市會議員　廣橋嘉七郎
同　山口德二

元東京市會議員　鈴木彌吉
同　西村吉兵衛
同　安東正臣
同　橋本直一
同　秋山朗
同　尾後貫朝吾郎
同　小島左馬太郎
同　木下常松
同　河井榮三郎
同　松尾要
同　入山祐治郎
同　吉田勘衛門
同　渡邊繁太郎
同　中村萬吉
同　森脇源三郎
同　井上萬吉
同　鎌田芳太郎
同　遠藤憲治
同　尾中勝也

元東京市會議員　宇都宮政市
同　本宮辰次郎
同　角野庄太郎
同　寺田彌一郎
同　大橋誠一
同　伊藤勝藏
同　岡本瀧雄
同　秋庭伊兵衛
同　深山彦平
同　若林成昭
同　天利庄次郎
同　松崎英太郎
同　小栗富五郎
同　山本繁吉
同　長町康夫
土地區劃整理第一地區整理委員會議長　垣見八郎右衛門
第二地區同　阿久津喜兵衛
第三地區同　西尾豊
第四地區同　光田幸次郎

第五地區整理委員會議長　水原漸
第七地區同　塚谷喜一
第八地區同　梅岡正吉
第一〇地區同　菊地長四郎
第十一地區同　高津六平
第十二地區同　佐藤長祐
第十三地區同　高木與兵衛
第十四地區同　細田安兵衛
第十五地區同　大塚彌吉
第十六地區同　門野錬八郎
第十七地區同　後藤進二
第十八地區同　早川庄太郎
第十九地區同　辰澤延次郎
第二十一地區同　秋田豊藏
第二十二地區同　加藤純吾
第二十四地區同　久野木孝則
第二十五地區同　岡田利之助
第二十八地區同　加藤三平
第二十九地區同　植村永之助

第三十地區整理委員會議長　守田治兵衛
第三十一地區同　山崎金五郎
第三十二地區同　阿部喜勝治
第三十三地區同　古谷豊三郎
第三十四地區同　太田浅吉
第三十六地區同　加藤龍門
第三十八地區同　神谷傳兵衛
第三十九地區同　橋本武四郎
第四〇地區同　松崎権四郎
第四十一地區同　八田浪之助
第四十二地區同　大熊仁三郎
第四十七地區同　松田鑛作
第五十一地區同　佐々木森男
第五十二地區同　嶋田藤吉
第六〇地區同　松本光太郎
第六十二地區同　關口安五郎
第六十三地區同　宮本平十郎
第六十四地區同　岡崎直太
第六十六地區同　北島巳三郎

元第十七地區整理委員會議長　泉　熊次郎
元第二十四地區同　竹下延保
元第六十四地區同　堀內福雄
東京市千代田尋常小學校長　武見五作
東京市學務委員　三輪田元道
同　米木卯吉
同　長田勝五郎
同　武藤市藏
元東京市學務委員　笠間平右衞門
同　宮內與三郎
東京市衞生常設委員　柳澤信賢
同　坂下日吉
同　竹內薫兵
元東京市衞生常設委員　水野　升
東京市神田區會議長　長濱　繁
東京市京橋區會議長　石原脩吉
東京市下谷區會議長　小川彙四郎
東京市淺草區會議長　鮎貝昌藏
元東京市芝區會議長　今村太平次

元東京市深川區會議長　木村德兵衞
東京市神田區學務委員長　木內傳之助
東京市日本橋區學務委員長　平井文正
東京市京橋區學務委員長　田村藤兵衞
東京市下谷區學務委員長　谷　古善
東京市本鄕區學務委員長　池田光次
元東京市日本橋區學務委員長　石井彥治
元東京市京橋區學務委員長　萩原與兵衞
元東京市京橋區學務委員長　山野井龜五郎
元東京市芝區學務委員長　田中武助
元東京市本鄕區學務委員長　稻見寅治
元東京市本所區學務委員長　刀根豐之助
元東京市深川區學務委員長　川上賢三
東京市技師　原　全路
同　大田原俊
東京市主事　羽生　正
同　金谷重義
東京市副收入役　小木于丈
東京市主事　萱場順治

東京市主事　馬場密藏
同　佐藤傳四郎
同　三村　一
東京市技師　井下　清
東京市主事　武藤麒駛郎
東京市技師　阿部　努
同　岩崎富久
同　小野二郎
東京市主事　筒井茂也
同　小山田正直
東京市副收入役　平野義貞
東京市主事　澤　逸與
東京市技師　古屋五郎
東京市主事　瀨川昌邦
元東京市收入役　見山正賀
元東京市局長　矢吹慶輝
元東京市副收入役　熊野　昇
元東京市理事　齋藤　力
同　益田元亮

東京市主事　川口寬三
元東京市技師　谷井陽之助
元東京市主事　松尾儀一
同　藤井靖夫
同　高城　衞
同　加藤榮助
同　本間虎五郎
同　難波義雄
同　吉山眞棹
同　杉本謙治
東京市主事　岸壽喜惠
同　丹羽　篤
同　松岡淺太郎
同　蓮田琴次郎
同　林慶四郎
同　今井彙矩
東京市技師　廣瀨　興
東京市主事　田中謙吾
同　林　濤

東京市主事　原田士朧雄
同　室田寅雄
東京市技師　市川政司
東京市主事　荒牧練太郎
東京市技師　田島房四郎
同　辨田寅次
同　安西景一郎
同　永井純一
同　木代嘉樹
同　菅原正志
同　島田衛吉
東京市主事　杉浦元義
東京市技師　根岸耕司
同　堀信一
同　坪田正造
同　瀧尾達也
同　小池啓吉
同　加納豐彥
同　山田武治

東京市技師　山形鐘太郎
同　八乙女正
東京市主事　安田三次
東京市技師　安田唯祐
同　下坂茂人
東京市主事　郡山貞次郎
東京市技師　石川省三
同　安藤佐平
東京市主事　西川武雄
東京市技師　入江博
東京市主事　大野淺一
同　三好毅
同　三宅龜吉
同　高嶋信一
東京市技師　伊賀秀雄
同　山元誠安
同　神谷貞夫
同　秀島清
東京市主事　高橋勝三郎

元東京市主事　從六位　塩均川正藏　一

以上　四百二十二名

三　天覽陳列品

イ　目錄竝室割

第一室（復興局出品）

第一　東京復興事業一覽圖（圖表）
第二　第十地區一部現形圖竝確定圖（二）（圖表）
第三　各種鋪裝材料（實物標本）
第四　技術試驗所內部寫眞（額面）
第五　幹線第一號街路寫眞（額面）
第六　幹線第二號街路寫眞（額面）
第七　幹線第一號街路（模型）
第八　九段坂街路（模型）
第九　幹線第七號街路寫眞（額面）
第十　家屋移轉ノ現狀（額面）
第十一　日本橋區濱町附近航空寫眞區劃整理前後對照（額面）
第十二　家屋移轉ノ實況（額面）

第十三　家屋及工作物移轉ノ實況(額面)

第二室

第十四　錦糸公園平面圖(額面)
第十五　濱町公園平面圖(額面)
第十六　錦糸公園寫眞(額面)
第十七　濱町公園寫眞(額面)
第十八　隅田公園(模型)
第十九　隅田川橋梁鳥瞰圖(額面)
第二十　壓搾空氣潜函工事(額面)
第二十一　永代橋(模型)
第二十二　清洲橋寫眞(額面)
第二十三　藏前橋寫眞(額面)
第二十四　聖橋寫眞(額面)
第二十五　三吉橋寫眞(額面)
第二十六　神田川改修工事寫眞(額面)
第二十七　築地川連絡新整運河寫眞(額面)
第二十八　小名木川改修工事(額面)
第二十九　大東京都市計畫區域(模型)

第三十　東京飛行機寫眞(額面)

東京市出品

第一室

第一　東京震火災發火地點及燒失區域圖(圖表)
第二　震災ニ因ル日本ノ損失(圖表)
第三　震火災被害建物(圖表)
第四　震災後ニ於ケル東京市内ノ假設建物(圖表)
第五　詔書(額面)
第六　江戸ノ生立(圖表三枚)
第七　攝政宮御沙汰書(額面)
第八　震火災一箇月後ト復興後ノ東京(寫眞)
第九　御下賜金竝國内各地震災救援狀況(圖表)
第十　海外友邦震災救援狀況(圖表)

第二室

第十一　兩國橋計畫圖(繪圖)
第十二　東京市ノ復興復舊費(圖表)
第十三　帝都復興事業進捗一覽圖(電氣裝置)
第十四　土地區劃整理前後ノ土地面積比較圖(圖表)

第十五　東京市鋪裝道路一覽圖（圖表）

第十七　上野廣小路地下埋設物ノ狀況（圖表）

第十八　復興計畫橋梁一覽圖（圖表）

第十九　東京市下水道現況圖（圖表）

第二十　東京市ノ公園ト其ノ內容一覽圖（圖表）

第二十一　復興小公園ノ一日（繪畫）

第三室

第二十二　第一塵芥處理工場（模型）

第二十三　塵芥處分設備一覽圖（圖表）

第二十四　中央卸賣市場竝小賣市場分布圖（圖表）

第二十五　中央卸賣市場江東分場（模型）

第二十六　中央卸賣市場神田分場（模型）

第二十七　復興市立小學校一覽圖（圖表）

第二十八　復興市立圖書館一覽（圖表）

第二十九　西櫻小學校寫眞（額面）

第三十　泰明小學校寫眞（額面）

第三十一　駿河臺圖書館寫眞（額面）

第三十二　東京市立小學校竝圖書館分布圖（圖表）

第三十三　龍泉寺町託兒所ノ狀況寫眞六枚

第三十四　富川町託兒所（模型）

第三十五　復興市立病院一覽圖（圖表）

第三十六　村山・山口貯水池（模型）

第三十七　東京市水道現在及將來鳥瞰圖（繪畫）

第三十八　東京防火地區圖（圖表）

ロ　東京市關係陳列品說明

第一　東京震火災發火地點及燒失區域圖（圖表縱五尺横四尺 文書課出品）

說明

（一）表示ノ目的

大正大震災ニ依ル火災發火地點風向延燒方向旋風等ヲ示ス

（二）表示事項

一　藥品ニ由ル火元　二　藥品以外ノモノニ由ル火元　三　風向延燒方向及旋風　四　多數死者ヲ出シタル箇所

（三）表示方法

發火地點及卽時消止延燒飛火ノ關係ヲ示シ風向延燒方向旋風及多數死者ヲ出シタル場所ヲ色竝矢ニテ表

示ス

（參考資料）

(一) 燒失面積 總面積 三四、七〇六、九一九平方米 總面積ニ對スル燒失面積ノ割合 四三・五%　二 發火數 市部一三四 郡部四四 合計一七八　三 被害棟數 全燒二一八、九〇一棟 半燒九三棟 全潰及半潰五五、五七三棟 合計二二四、五六七棟　四 罹災人口 死者五八、一〇四人 行衛不明一〇、五五六人 重傷及輕傷二六、二六八人 其他一、六〇五、二二一人 合計一、七〇〇、二四九人　五 震災當時ノ東京市現住人口二、二六五、三〇〇人

第二　震災ニ因ル日本ノ損失（圖表縱六尺橫九尺 統計課出品）

說明

(一) 表示ノ目的

大震火災ニ因ル日本ノ損害額ヲ示ス

(二) 表示事項

一 罹災地區別ニ依ル損害額　二 種類別ニ依ル損害額

(三) 表示方法

一 罹災地區別ニ且ツ種目別ニ其ノ損害額ノ火焔ヲ背景トセル圖面ニブロックニテ表示ス

（參考資料）

損害總額種類別一覽表（一）

	皇室	各省	東京府	東京市	郡部	神奈川縣	橫濱市
河港	—圓	—圓	一、八三四、七九二圓	一、一三三、四七二圓	七〇一、三二〇圓	五、三五〇、〇〇〇圓	五、三五〇、〇〇〇圓
堤防	—	—	八三四、一四五	—	八三四、一四五	三五、二〇九、四六八	一〇、一四〇、〇〇〇
道路	—	—	二、四〇六、六九四	二、〇一七、四五〇	三八九、二四四	一六九、五六〇、〇九七	六、八三八、六〇〇
橋梁	—	—	八、〇一〇、九四八	七、七四七、九三〇	二六三、〇一八	五、三八八、五〇七	四、七六四、七五九
上水道	—	—	一〇、一三六、八一四	一〇、一三六、八一四	—	三、六三八、五一六	三、〇四八、五一六
下水道	—	—	一、一七一、四一〇	一、一七一、四一〇	—	一、一三九、五〇〇	一、一三九、五〇〇
船舶	—	—	八、〇六五、〇〇〇	八、〇六五、〇〇〇	—	三、九四〇、一六八	三、七三四、五〇〇
電氣	—	—	三九、二三七、六八八	三九、二三七、六八八	—	三、七五九、五〇〇	三、七五九、五〇〇
建物	—	—	一、一九二、四五七、三七六	一、一一二、一一二、六二三	八〇、三四四、七五三	六一五、〇七一、六七五	二四九、〇〇六、九八五
家財	—	—	六五九、九六一、六六〇	六二七、五八八、五六〇	三二、三七三、一〇〇	一八七、五六六、三一〇	一三八、〇三四、四〇〇
工場	—	—	一六四、三一〇、〇三四	一六四、三一〇、〇三四	—	五九、五七七、五五九	四〇、四七一、五七〇
商品	—	—	一、六〇一、三〇〇、六三四	一、六〇一、三〇〇、六三四	—	四二七、九五三、三七一	四二七、九五三、三七一
在庫品	—	—	八七、三三九、五五七	八七、三三九、五五七	—	一九、二九七、一七六	一九、二九七、一七六
其ノ他	三、三五三、〇〇〇	二九、五六九、九六六	—	—	—	—	—
計	三、三五三、〇〇〇	二九、五六九、九六六	三、七七七、〇六八、七五二	—	—	一、三六四、八四六、九六七	—

損害總額種類別一覽表 (二)

	郡部	靜岡縣	山梨縣	埼玉縣	千葉縣	茨城縣	合計
河港	—圓	一三二、八四五圓	—圓	—圓	四四一、七四一圓	—圓	七、七四八、三七八圓
堤防	二五、〇六九、四六八	四〇四、七二〇	一、八六六、七四七	七〇二、四三九	四六八、八三三	—	三九、四六八、三三三
道路	一〇、一二七、四九七	一、九八四、八九七	八八七、〇六九	一四九、六八五	二七五、九六八	—	三一、六六〇、四三〇
橋梁	六二三、七四八	三三九、九八四	五二一、三二九	九九、三四七	二四六、六二〇	—	一四、一三六、六二五
上水道	五九〇、〇〇〇	—	五九、九五四	—	—	—	一三、八二七、二八四
下水道	—	—	—	—	—	—	二一、三二一、九二〇
船舶	二〇五、七六八	一四八、七五九	—	—	六〇、七〇〇	—	一三、二二四、七四七
電氣	—	—	—	—	六、七〇〇	—	四三、〇〇三、八八八
建物	三六、〇六四、六九〇	一三、一三六、〇八四	二、五九九、一七〇	一四、七六六、〇九六	三七、三五六、一六五	二二八、七六〇	一、八七四、七一五、四六六
家財	五九、五三一、九二〇	四、一三一、〇〇〇	一、三五九、二〇〇	五、四一六、四六〇	一〇、八九〇、六五〇	一四三、〇〇〇	八六九、四六九、二九〇
工場	一九、一〇五、九八九	八、一〇三、八三三	一〇八、〇〇〇	三、五一四、一〇六	二、五七九、七七九	六〇、七六〇	二三八、二六四、〇五〇
商品	—	八四四、九九〇	—	—	—	—	二〇三、〇九七、九九五
在庫品	—	—	—	—	—	—	一〇六、六三六、七三三
其ノ他	—	—	—	—	—	—	一三一、八二三、九六六
計	—	二八、三一七、〇八一	六、九三二、三五九	二四、六四八、一三一	五二、三三六、二六六	四三二、五二〇	五、五〇六、三六六、〇三四
備考							

皇室及各省ノ損害ノ内譯種目別明カナラサルヲ以テ本圖ノ種目別表ニハ省略セリ

第三　震火災ニ因ル被害建物（圖表縱六尺横四尺 統計課出品）

説明

(一) 表示ノ目的

震火災ニ因ル被害建物ノ内容ヲ示シ大正十三年ヨリ昭和三年迄ノ五箇年間ニ於テ復興セル新築家屋ノ狀態ヲ明カニス

(二) 表示事項

一 被害家屋ヲ各區別被害種別（燒失・全潰・半潰・破損）ニ分チ更ニ被害建物總額ヲ同樣ノ被害種別ニ示ス

二 大正十三年ヨリ昭和三年間ノ各區別新築家屋數ヲ種類別（木造・石造・鐵筋コンクリート造）ニ分チ更ニ新築家屋總數ヲ同樣ノ建築種別ニ示ス

(三) 表示ノ方法

棒線式圖表及半圓形ノ圖表ヲ以テシ背景ニ被害狀態ト復興狀態ノ繪畫ヲ用フ

（參考資料）

別表ノ通リ

震火災ニ因ル被害建物棟數

區名＼種別	全潰	半潰	破損	燒失	總計
麴町	一三四	一三六	四九四	四、三〇四	五、〇六八
神田	二、五二六	一、九五二	三、八〇二	二〇、七八三	二九、〇六三

日本橋	二五四	六八七	七、六〇六	一三、四六〇	二二、〇〇七
京橋	四三五	八八七	四、〇八〇	一七、八三一	二三、二三三
芝	四二八	六〇二	五、六八四	一一、一三九	一七、八五三
麻布	三六九	二〇二	一、二八二	五	一、八五八
赤坂	二九〇	一九九	一、三四九	一、三七三	三、二一六
四谷	九七	二四六	一、一三三	二〇七	一、六八三
牛込	二六〇	八九六	七、四四八	五	八、六〇九
小石川	二九三	八一三	五、五七三	三三五	七、〇一四
本郷	一四八	二九〇	九三七	五、一一七	六、四九二
下谷	七四八	四六五	九、八七八	一三、二九三	二四、三八四
淺草	二、六八六	四、四五六	九、〇〇六	二一、〇〇〇	三七、一四八
本所	三、二〇九	三、〇四六	九、二三五	二五、一四六	四〇、六三六
深川	二、五七八	四、九九一	七、二一六	二六、八〇二	四一、五八七
計	一四、四六〇	一九、八六八	七四、七二三	一六〇、八〇〇	二六九、八五一

新築家屋累年棟數　自大正十三年至昭和三年

區名＼種別	木造	石造	鐵筋混凝土造	總計
麹町	一、七五六	一三	二五五	二、〇二四
神田	二、三九七	六	一七三	二、五七六
日本橋	一、八〇六	一三	二三一	二、〇五〇
京橋	二、四一〇	七	一七四	二、五九一
芝	五、八二八	二一	二一四	六、〇六三
麻布	三、二七四	一二	八五	三、三七一
赤坂	二、一八九	六	七〇	二、二六五
四谷	三、四二七	四	五四	三、四八五
牛込	五、二九三	八	七七	五、三七八
小石川	五、九七二	八	八七	六、〇六七
本郷	四、九一〇	八	九八	五、〇一六
下谷	四、〇四九	六	八八	四、一四三
淺草	三、一一九	一四	一四〇	三、二七三
本所	四、四七二	二四	一四九	四、六四五
深川	一、八四八	一六	一二六	一、九九〇
計	五二、七五〇	一六六	二、〇二一	五四、九三七

本圖ハ警視廳調査ノ資料ニ依リ新築家屋ハ増築及改築ニ係ル家屋ヲ含ミ大正十三年ヨリ昭和三年迄ノ五箇年間ノ累計數ナリ

第四　震災後ニ於ケル市内ノ假設建物（圖表縱六尺横四尺　統計課出品）

説明

(一) 表示ノ目的

大正十二年十一月二十三日現在ニ依ル本市ノ實地調査ニ基キ震災後ニ於ケル東京市內ノ假設建物ノ狀態ヲ示ス

(二) 表示事項

一 構造別ノ圖表ニ於テハ板屋・燒トタン屋・新トタン屋・葭簀張・類燒殘リ家屋共ノ他ヲ示ス

二 用途別ノ圖表ニ於テハ建築中ノモノト既設建物トヲ示ス

(三) 表示方法

圖形圖表及棒線圖表

(參考資料)

各區別

區名	既設	建築中	區名	既設	建築中
總數	一一〇、二二五	一四、一七四	赤坂	七五八	一七七
麴町	一、五八〇	六七三	四谷	二一三	三五
神田	九、二四五	一、五二九	牛込	—	—
日本橋	七、一九〇	二、三四四	小石川	三五五	二九
京橋	八、九〇七	一、四五八	本鄕	二、五四四	四五六
芝	六、五六三	五九五	下谷	一二、一七二	一、一九六
麻布	五	二	淺草	二九、四四二	二、六六七

本所	一七、四二四	一、七一〇	深川	一三、八二七	一、二九九

構造別

塗壁家二、一八四　板屋五九、四六六　新トタン屋一一、三〇四　燒トタン屋三一、六一八　葭簀張類三、六八〇　燒殘リ家一、六一七　其ノ他三五六　計一一〇、二二五

用途別

住家五二、九〇八　住居兼用ノ商店四九、七二三　商店事務所類五、〇三九　工場二、五五五　計一一〇、二二五

備考　官公廳舍社寺學校ノ類及一般ニ輕微ナル附屬屋ヲ含マス

第五　詔書（額縦三尺横十四尺）（市政調査會出品）

第六　江戸ノ生立（圖表三枚（一枚二・五尺×三尺））（文書課出品）

説明

(一) 表示ノ目的

江戸地域ヲ現在ノ東京市域ニ比較シテ其ノ發達ノ經路ヲ示ス

(二) 表示事項

一 三百四十年前ノ江戸圖ハ天正十八年八月德川家康關東大守トシテ入府セシ當時ノ江戸境域ヲ示ス

二 百九十年前ノ江戸圖ハ幕府ノ市街經營ニ依リ各方面ニ其ノ境域ヲ擴メ又市制上ニ於テモ漸ク完備セル元文年間八代將軍吉宗時代ヲ示ス　三 七十年前ノ江戸圖ニシテ彼ノ安政大地震後ノ市街地域ヲ示スモノニシテ殆ト今日ノ東京ニ等シカリシ十四代將軍家茂ノ時代ヲ示ス

(三) 表示方法

江戸地域ハ薄赤色ヲ以テ示シ海池河濠ハ藍色ヲ以テ示ス尙其ノ當時ノ社寺地名等ヲ示シテ參考ノ資トス

第七　攝政宮御沙汰書（額縱一尺五寸横三尺　文書課出品）

第八　震火災一箇月後ト復興後ノ東京（寫眞パノラマ縱五尺横十二尺　文書課出品）

說明

(一)　表示ノ目的

東京市內展望ノ震災直後ト復興後トヲ比較シ復興狀況ヲ明カナラシム

(二)　表示事項

第一相互株式會社ビルデング屋上ヨリ見タル東京市ヲ震火災一箇月後ト現今トニ於テ同一方法ニヨリ廻望撮影シ之レヲパノラマ式ニ表示シ別ニ同ビルデングヲ中心ニ略地圖ヲ畫キ寫眞ニ現ハレタル各通路大建設物ノ位置ヲ明瞭ナラシム

(三)　表示方法

寫眞パノラマニヨル

（參考資料）

震災一箇月ノモノハ大正十二年十月一日ノ撮影ニカカリ復興後ノモノハ昭和五年三月十二日ノ撮影ニカカルモノナリ

第九　御下賜金竝國內各地震災救援狀況（圖表縱五尺横四尺　文書課出品）

說明

(一)　表示ノ目的

御下賜金及國內各地方ヨリ寄セラレタル義捐金總額ヲ明カニス

(二)　表示事項

一　御內帑金及御下賜金總額　　二　國內各地ヨリノ義捐金及義捐品換算額

(三)　表示方法

一　御內帑金及御下賜金ヲ圓示シ實數ヲ下記ス　　二　日本分縣地圖上ニ義捐金及義捐品換算額ノ百分比ヲ示ス

（參考資料）

一　御下賜金　　御內帑金一〇、〇五〇、二〇〇圓　　皇族及李王家御下賜金五三六、〇〇〇

合計一〇、五八六、二〇〇

二　國內各地ヨリノ震災義捐金品（圓未滿ハ切捨）

地方別	義捐金品總額（概算）	地方別	義捐金品總額（概算）	地方別	義捐金品總額（概算）	地方別	義捐金品總額（概算）
東京府	一六、八九二、五四五圓	靜岡縣	三四三、七七〇圓	福島縣	三三二、三七八圓	和歌山知縣	七四四、九八五圓
神奈川縣	一、八五二、四二四	愛知縣	一、五四九、八九四	宮城縣	八三五、六七〇	兵庫縣	二、九二九、九六二
埼玉縣	三四一、七八八	三重縣	一、二三三、九五〇	山形縣	四五三、九六八	岡山縣	六七六、四三六
千葉縣	九九六、九七〇	岐阜縣	一、二五七、一七四	秋田縣	二四五、六五七	廣島縣	一、〇一一、七六七
茨城縣	一、二四八、八二七	滋賀縣	四六〇、三三三	岩手縣	四〇八、六二一	山口縣	一、〇九六、六六六
栃木縣	三〇五、六四九	福井縣	四三五、二六〇	青森縣	一、二五五、四九五	鳥取縣	四四四、五七二
群馬縣	三五二、〇二八	石川縣	三一〇、五〇〇	京都府	二、三〇四、一〇一	島根縣	三六八、〇七〇
長野縣	六二五、五五〇	富山縣	四八四、五三五	大阪府	四、五八五、三一四	德島縣	二九八、三七三
山梨縣	三七、八二九	新潟縣	一、三四一、七三二	奈良縣	四七、一九三	香川縣	三六一、三四三

愛媛縣	四八二、一三〇	熊本縣	四七二、八〇三	北海道廳	二、〇〇五、一〇〇	朝鮮總督府	一、九一六、二四九
高知縣	三四、三九八	大分縣	四九〇、七五二	震災臨時救護事務局主管出納官扱	二、七五八、六九〇	關東廳	二、二六六、八七〇
長崎縣	四七二、四三九	宮崎縣	二七二、七九一	小計	五八、三一七、三九二	南洋廳	一六、九四二
佐賀縣	五六八、四七九	鹿兒島縣	三六九、一三〇	臺灣總督府	一、二七七、一四八	小計	五、五六七、八六七
福岡縣	一、四八一、二三六	沖縄縣	九八、四一七	樺太廳	九〇、六五七	合計	六三、八八五、一六〇

第十　海外友邦震災救援狀況（圖表縱四尺橫五尺　文書課出品）

說明

(一)　表示ノ目的

大震火災ニ對シ諸國ヨリ贈ラレタル義捐金品ノ總額ヲ國別ニ明カニス

(二)　表示事項

亞米利加合衆國外二十九箇國ノ義捐金品ヲ示ス

(三)　表示方法

世界地圖ニ各國別義捐金品總額比ヲ圓ノ大小ニ依リテ示シ且ツ本國人在留外國人及在留本邦人ニ別ケ共ノ百分比ヲ明示ス

（參考資料）

諸外國震災義捐金一覽（圓未滿ハ切捨）

國別	義捐金	義捐品概算	合計	國別	義捐金	義捐品概算	合計
亞米利加合衆國	一五、一二八、六四六圓	一五、八〇一、八七〇圓	三〇、九三〇、五一六圓	玖馬	一〇、四〇一圓	—圓	一〇、四〇一圓
墨西哥	一三七、八四九	—	一三七、八四九	諾威	一、一六九	—	一、一六九
巴奈馬	三、九五七	—	三、九五七	佛蘭西	二七六、〇八七	一七五、三四〇	四五一、四二七
秘露	一八八、三六四	一〇、五〇〇	一九八、八六四	瑞典	五七、三四六	二八、六五〇	八五、九九六
ボリビヤ	一〇、六八五	—	一〇、六八五	瑞西	三〇、六二四	三四、二五〇	六四、八七四
智利	一七、八七七	—	一七、八七七	和蘭	四二、五九〇	一、三二〇	四三、九一〇
伯剌西爾	一二、二九三	二九三、九〇〇	三〇六、一九三	暹羅	六一、五六二	—	六一、五六二
亞爾然丁	六三、一五一	—	六三、一五一	中華民國	一、七一〇、三二四	八八九、四五〇	二、五九九、七七四
英吉利	四、三五七、四四五	一、四三二、六六〇	五、七九〇、一〇五	露領亞細亞	一〇、五八四	—	一〇、五八四
獨逸	一五、八三〇	—	一五、八三〇	ラトヴィア	四、三六七	—	四、三六七
羅馬尼亞	七四	—	七四	ポルトガル	一、四七二	—	一、四七二
土耳古	一九三	—	一九三	スペイン	四、九七九	—	四、九七九
波蘭	六、六九三	—	六、六九三	國際聯盟	一〇、七八五	一〇、〇〇〇	二〇、七八五
チエッコスロバキヤ	二九、一〇〇	—	二九、一〇〇	總計（在留邦人）	二三、八二九、八九二	一八、七四二、一六〇	四二、五七二、〇五二
墺太利	一八六	二、五四〇	二、七二六	（在留外人）	四、二六三、二八五	一、〇二一、一〇八	五、二八四、三九三
伊太利	四一、四五九	四六、六八〇	八八、一三九	（本國人及在留外人）	一八、五四六、六〇七	一七、七三〇、〇五二	三六、二七六、六五九
白耳義	二四、七九六	一四、〇〇〇	三八、七九六				

第十一　兩國橋計畫圖（繪畫二尺四寸×一尺三寸　土木局出品）

說明

(一)　表示ノ目的
竣功後ニ於ケル兩國橋
(二)　表示事項
兩國橋ノ外觀
(三)　表示方法
繪畫

(參考資料)

兩國橋　一　型式三經間上路型突桁式鋼鈑鋼橋　一　橋長五百四十二尺八寸餘(九十間四分ノ餘)
一　橋幅(有効)七十九尺二寸(十三間二分)　一　面積千百九十三坪二合八勺　一　工事費九十二萬四千五百圓(豫算額)　一　工事着手昭和五年二月十九日　一　竣功豫定昭和六年二月　一　本橋ハ復興事業トシテ施行スルモノナリ

第十二　東京市ノ復興復舊費(圖書縱五尺橫四尺 統計課出品)

說明
(一)　表示ノ目的
大震災ニ基因スル復興復舊事業カ如何ニ東京市歳出ニ影響セシカ而シテ復興復舊事業種類及其ノ支出割合ヲ明カナラシム
(二)　表示事項
大正九年度ヨリ昭和二年度迄ノ決算及同三年度・四年度ノ豫算ニ依リ本市純歳出總額ト復興復舊費トヲ比較對照シ別ニ大正十二年度ヨリ昭和四年度迄ノ復興經費ヲ事業別ニ分ケテ其ノ割合ヲ示ス

(三)　表示方法
棒線圖表及圓影圖表
備考　純歳出ト復興復舊事業費トノ比較表ニ於テ大正九年同十年同十一年ノ純歳出ヲ附示セルハ純歳出ノ震災後ニ於ケルモノト比較スル爲ナリ

第十三　帝都復興事業進捗一覽圖(額面地圖高十一尺七寸巾十三尺五寸 復興事業局出品)

說明
(一)　表示ノ目的
帝都復興事業ノ進捗狀況
(二)　表示事項
區劃整理(移轉工事完了)道路・橋渠・公園及小公園・河川運河・教育施設・社會事業施設・其ノ他ノ建造物
(三)　表示方法
前項各事業ノ進捗狀況ヲ大正十三年ヨリ完成ニ至ルマテ毎年末現在ニヨリ電燈照明ニテ圖面上ニ表示シタリ

(參考資料)

帝都復興事業進捗一覽圖說明書

(一)　本圖ハ帝都復興事業ノ大正十三年ヨリ事業ノ完成ニ至ル各年度末現在ノ進捗狀況ヲ事業ノ種別ニ從ヒ其ノ位置及區域ヲ電燈照明ニ依リ表示スルモノニテ但復興事業以外ノ區役所・圖書館・築地病院等ノ建築モ便宜表示セリ　(二)　本圖ハ三千分ノ一ノ縮尺ヲ以テ區劃整理施行區域及其ノ附近ノ復興事業施設地域ヲ示ス從ツテ區劃整理區域ト隔絕シタ處ノ施設ハ復興事業ト雖モ表示セス　(三)　事業ノ種別ト

圖上ノ色別ハ次ノ通リ　(イ)區劃整理黄色　(ロ)道路及橋梁赤色　(ハ)公園及小公園綠色　(ニ)河川及運河青色　(ホ)教育施設白地「文」　(ヘ)社會事業施設コバルト色　(ト)其ノ他ノ建物茶色

(四)照明表示セラルル事業ノ概要説明　**イ**　區劃整理ハ施行區域内六十五地區ニ就キテ各年末現在ニ於テ移轉工事ノ全部完了セル地區ノミヲ照明表示ス　**ロ**　道路ハ區劃整理施行區域内ノ幹線全部(延長約一、一七粁)ト補助線ノ内幅員十六米以上(延長約一九粁)ノモノヲ照明表示シ從テ幅員十五米以下ノ補助線(延長一二〇粁)各區劃整理街路等ハ區劃整理ノ照明ト共ニ照表セラル但シ施行區域外ト雖モ宮城外苑ノ鋪裝工事ヲ施シタル道路宮城外苑ヨリ和田倉門ニ通スル第八號路線月島及越中島ノ幹線街路ハ特ニ照明表示スルコトトセリ　**ハ**　橋梁ハ幹線橋梁九十四橋ト其ノ他主要ナルモノ十三橋(兩國・厩・吾妻・御茶ノ水・錦・大富・三吉・小名木川・三ノ橋・四ノ橋・末廣・豐住ノ各橋)合計百七橋ヲ照明表示セリ其ノ他ノ補助線橋梁區劃整理街路橋梁改築復舊ノ橋梁等ハ區劃整理ノ完成ト共ニ照明ス　**ニ**　公園ハ國施行ノ隅田、錦糸、濱町ノ三公園ト市施行ノ小公園五十二箇所ヲ照明表示ス但シ施行區域内ト雖モ清澄庭園深川公園猿江恩賜公園ノ如キ復興事業以外ノモノハ照明セス　**ホ**　河川運河ハ國施行ノ新鑿及改修河川十三及市施行ノ改修河川一合計十四ノ河川運河ヲ照明表示ス　**ヘ**　教育施設トシテ照明表示スルモノハ市ノ復興小學校百十七校ノ内竹芝小學校ハ區域外ニ付キ除ク)府立中等學校五、△市立中等學校三、△市立圖書館三、合計百二十七箇所トス(△印ハ復興事業以外ノモノ以下同斷)　**ト**　社會事業施設トシテ照明表示スルモノハ市設職業紹介所託兒所竝兒童相談所・授產所・食堂、宿泊所・質屋・浴場等四十箇所トス　**チ**　其ノ他建物トシテ照明表示スルモノハ築地中央卸賣市場△神田・江東ノ二分場・下水ポンプ場三箇所△區役所九箇所△病院三箇所及電氣事業ノ內變電所十三箇所トス、　**リ**　區域外ノ建物ヲ照明セルモノ芝區役所(芝公園內)濱園簡易宿泊所(越中島)市立商業學校(麹町區半藏門)

帝都復興事業進捗一覽圖事業完了年別表

事業別	色別	完了數 大正十三年	十四年	昭和元年	二年	三年	四年	完了ノ時	計
區劃整理	黄 完了地區		一	二	四	二五	二六	七	六五地區
道路（幹線 十六米以上補助線）	赤		一部分	同	同	同	同	同	五〇線 一二線
幹線及主ナル橋梁	赤		三	一四	一二	二一	三五	二二	一〇七箇所
公園及小公園	綠			四	二	二	六	四一	五五箇所
河川運河	青		一部分	同	同	同	同	同	一四箇所
教育施設	白地ニ「文」	二	二	一〇	三〇	二六	四二	一五	一二七箇所
社會事業施設	紫		二		九	四	一一	一四	四〇箇所
其ノ他ノ建造物	茶	一			二	六	五	一七	三一箇所

震災應急施設竝復興復舊事業費ノ事業種別

事業種別	大正十二年度	同十三年度	同十四年度	昭和元年度	同二年度	同三年度	同四年度	計
廳費	一,〇五七,七二一圓	五四三,五七四圓	一〇,四四八圓	二六九,〇五〇圓	一,四六五,五三八圓	一,五八四,四九四圓	九七九,七八四圓	五,九三〇,五九九圓
教育費	四,四六九,〇七八	三,三三二,六八二	二,二二九,〇三三	九,二〇九,三三三	一三,三〇〇,〇八〇	三,五七三,〇七五	八,九〇一,八〇九	四三,六九五,八六六

土木費	保健費	産業費	市債費	公園墓地費	社會事業費	水道事業費	電氣事業費	其ノ他	計
八、四六二、八〇七	一、九五七、二三〇	六、三八一、一九四	三三六、六一九	二九九、四五六	五七一、六七八	五、八二三、九一四	二四、〇八三、六三〇	—	四九、〇四三、六九七
五、八六二、七三七	六、四〇〇、八八一	一、二三九、四九四	二、〇八二、三八〇	一、七一四、六七五	九一三、七七七	四、八六二、八五〇	八、七五九、〇八二	—	三五、六四一、一三一
八、一〇七、八二〇	九、六〇五、四四四	一、五七九、七七六	二、三六六、二四一	二、九四五、一〇三	三三六、一五七	二、九六八、九九九	六、七八六、三〇二	—	三六、九一五、二八〇
一九、五九六、七九六	八、一五五、二二三	三、七六二、三〇一	三三、一九七、〇〇五	一、〇四六、八四三	四八二、九三九	二、六八五、四三三	三、九一七、二五二	五、〇七一、六五〇	八六、四八六、五九四
四一、八八二、九三二	七、三〇〇、二六八	三、六八九、六三〇	六、三五二、一九八	一、八八三、七二一	五三二、〇一一	三、二四八、二五八	五、二六四、〇五一	四、八五三、四二九	八八、四七二、二〇六
五五、〇〇三、〇八三	三三、一四七、〇九四	二〇、四八八、一六六	九、六九〇、七三七	二、六七五、二三四	七〇三、二三九	五、五一三、〇〇〇	七、二四〇、〇〇〇	四、七二二、一八一	一〇四、八八九、八二二
一七、四四四、四九六	三、九八二、四四九	三、七六四、一三三	一六、八七〇、九五八	三、一七五、一三三	七三五、九七三	三、九九六、〇〇〇	七、一九五、〇〇〇	一七、〇三五、八六〇	八四、〇八一、五七四
一五六、三七九、六六〇	四九、五四八、四四九	二三、三五五、三三三	六九、八七五、二三八	一三、四八〇、五三五	四、二六四、七五四	二五、〇八一、四五四	六三、二四五、三〇六	三、六七三、一一〇	四八五、五三〇、三〇四

復興復舊事業費

年度	總純歳出	内震災應急施設並復興復舊事業費
大正九年度	八〇、六〇二、〇三六圓	—圓
同十年度	九〇、一六七、二〇六	—
同十一年度	一一五、四二一、八七〇	—
同十二年度	一三七、〇七、〇八二	四九、〇四三、六九七
同十三年度	一四五、七四一、二六七	三五、六四一、一三一
同十四年度	二〇三、五七〇、八四五	三六、九一五、二八〇
昭和元年度	二六九、九七五、四九七	八六、四八六、五九四
同二年度	二八三、五一〇、七六四	八八、四七二、二〇六
同三年度	二六一、九六八、七九八	一〇四、八八九、八二二
同四年度		八四、〇八一、五七四

	廳費	教育費	土木費	保健費	産業費	市債費	公園墓地費	社會事業費	水道事業費	電氣事業費	其ノ他	計
百分比	一、二二%	九、〇〇	三二、二一	一〇、二〇	四、六〇	一四、三九	二、七八	〇、八八	五、一七	一三、〇三	六、五二	一〇〇、〇〇
三六倍	四、三九	三二、四〇	一一五、九六	三六、七二	一六、五六	五一、八〇	一〇、〇一	三、一七	一八、六一	四六、九一	二三、四七	三六〇、〇〇
	三六、七九	一五二、七五		一七〇、五三	一五三、九七	一〇二、一七	九二、一六	八八、九九	七〇、三八	七〇、三八		

第十四　土地區劃整理前後ノ土地面積比較圖（圖表縱六尺六寸橫五尺二寸　復興事業局出品）

說明

(一) 表示ノ目的

土地區劃整理ニ依リ面積ノ增減關係ヲ示セルモノナリ

(二) 表示事項

整理前ノ宅地面積ノ民有地公有地國有地ノ面積ヲ各數字（呼數）ヲ以テ示セルモノナリ

(三) 表示方法

二箇ノ同一半徑ノ圖ヲ畫キ左圖ヲ整理前トシ右圖ヲ整理後トシ之ニ民有地公有地國有地ノ種目面積ヲ色別ニ表示シ其ノ內ニ數字ヲ揭記セリ

第十五　東京市鋪裝道路一覽圖（圖表縱三尺五寸橫五尺　土木局出品）

說明

(一) 表示ノ目的

復興事業完成後ニ於ケル東京市ノ道路狀態ヲ明カナラシム

(二) 表示事項

一　步車道別ニ依ル鋪裝道路　二　工種別ニ依ル鋪裝道路面積表

(三) 表示方法

步車道ハ色別トナシ工種別面積ハ附表ニ於テ黑線ヲ以テ之ヲ表ス、

（參考資料）

一　震災前東京市鋪裝道路面積大正十二年八月末現在約九萬一千坪　一　復興事業完成後ノ鋪裝道路總面積ニ對スル震災直前鋪裝道路總面積ノ割合五分八厘

第十六　萬世橋縱橫斷圖（繪畫縱二尺五寸橫五尺　土木局出品）

說明

(一) 表示ノ目的

萬世橋ノ構造ト同橋河底ヲ橫斷セル地下鐵道トノ關係ヲ示ス

(二) 表示事項

一　萬世橋附近復興狀況　二　萬世橋ノ外觀ト其ノ構造ノ概要　三　萬世橋ニ添架セル工作物ノ[illegible]理狀況　四　萬世橋河底ヲ橫斷セル地下鐵道ノ位置及構造

(三) 表示方法

萬世橋附近ヲ寫生シ萬世橋ト地下鐵道トノ關係ハ縱橫斷ヲ以テ表ス

（參考資料）

萬世橋　型式　一徑間鐵筋混凝土橫橋　橋長　八十五尺八寸（十四間三分）　橋幅　百十八尺八寸（十九間八分）　面積　二百八十三坪一合四勺　工事費　三十五萬九千圓（豫算額）　工事着手昭和三年二月十日　竣功豫定昭和五年六月下旬　本橋ハ復興事業トシテ施行スルモノナリ

第十七　上野公園廣小路地下埋設物ノ狀況（繪畫四尺五×五尺　土木局出品）

說明

(一) 表示ノ目的

東京市街路下ノ利用狀況ヲ示ス

(二) 表示事項

上野廣小路街路下ニ於ケル各種ノ埋設物

(三) 表示方法

上野松坂屋前ノ街路平面横斷ニテ示ス

(參考資料)

一 震災前ト復興後トニ於ケル東京市街ノ地下埋設物延長ノ比較震災前大正十二年八月末日現在　復興後昭和五年二月末日現在

種別	震災前ニ於ケル延長	復興後ニ於ケル延長	差引復興後增延長
水道管	二,四二二,一五八尺	三,四六三,六三六尺	一,〇四一,四七八尺
瓦斯管	三,二二八,二六二	三,六〇八,六〇二	三八〇,三四〇
下水管	六一六,八〇六	一,二二二,八八二	六〇六,〇七六
電纜	三,九五八,七四一	五,九九九,三九六	二,〇四〇,六五五
合計	一〇,二二五,九六七	一四,二九四,五一六	四,〇六八,五四九

一 地下埋設物多數街路四谷區新宿通リ十七條小石川區春日町通リ十六條

第十八　復興計畫橋梁一覽圖（圖表五尺×四尺　土木局出品）

說明

(一) 表示ノ目的

橋梁ノ復興計畫ノ內容ヲ明カナラシム

(二) 表示事項

一 國施行橋種別　二 東京市施行橋種別　三 在來種別

(三) 表示方法

地圖ノ上ニ國施行市施行在來橋ノ別及橋種別ニ色分ヲナシ表示ス

(參考資料)

復興計畫橋梁一覽表

區別 / 橋種別	復興局施行橋梁 橋數	復興局施行橋梁 橋面積(平方米)	東京市施行橋梁 橋數	東京市施行橋梁 橋面積(平方米)	在來橋梁 橋數	在來橋梁 橋面積(平方米)	復興完成後橋梁 橋數	復興完成後橋梁 橋面積(平方米)
木橋	二	二六二.一一	九五	一〇,一〇七.三一	一〇三	三,五七九.五四	二〇〇	一三,〇四八.九六
鐵橋	七四	七三,四六三.一五	一七五	七三,一三四.七〇	三六	一〇,八二三.六六	二八三	一六六,五一〇.六二
鐵筋混凝土橋	六六	二六,四四〇.〇〇	四五	一二,三二五.六〇	一三	六,六九五.五四	一八四	四五,四五二.一四
計	一四二	一〇〇,一六五.二六	三一五	九五,七六七.六二	一五二	二一,〇九八.七四	六六七	二二五,一〇〇.七二
總工費		三三,九九六,〇〇〇圓		二四,二七〇,〇〇〇圓				

第十九　東京市下水道現況圖（圖表縱五尺橫四尺　土木局出品）

說明

(一) 表示ノ目的

東京市下水道復興事業區域ト其ノ他ノ區域ニ於ケル下水道分布狀態ヲ示ス

(二) 表示事項

一 復興事業區域內其ノ他ノ下水道既成部分　二 下水道排水系統　三 下水道既成未成一覽表

(三)　表示方法

一　復興事業區域ハ周圍ニ白色ノ斜線ヲ施シ區別ス　二　既成下水道ハ「コバルト」色ノ線ニテ示シ喞筒場ハ同色丸印ニテ示ス　三　下方楕圓形內ニ東京市下水道排水系統ヲ表示ス　四　下方矩形內ニ下水道既成末成事業一覽表ヲ附ス

（參考資料）

一　復興事業關係工事ノ施行區域面積及施設ヲ了シタル下水道工作物竝其ノ所要事業費ハ次ノ通リテアル區域內面積八百六十八萬四千坪　下水道延長二十七萬九千六百二十三間（國施行ノ五萬二千九百二十三間ヲ含ム）　喞筒場五箇所　汚水處分場一箇所　所要事業費四千三百九十八萬七千七百六十八圓　二　右施設ノ完成ニ伴ヒ其ノ區域內ノ雨水ハ勿論下水管埋設濟ノ箇所ハ各戶ヨリノ汚水ヲ排除シ得ルニ至レルヲ以テ區域內ノ市民ハ逐次私設下水道ヲ施設シテ宅地內ノ汚水ヲ排除シ衞生ノ恩惠ヲ蒙リツツアリ（昨年十二月末現在ニ於ケル私設下水道施設戶數約五萬戶ヲ算ス）殊ニ本所深川方面ハ從來降雨毎ニ雨水氾濫シ被害大ナリシモ前記ノ如ク下水道完成ニ依リ昨秋ヨリ雨水氾濫ヲ殆ント防止シ得ルニ至レリ

第二十　東京市ノ公園ト其ノ內容一覽表（圖表縱三尺五寸横五尺　保健局出品）

說明

(一)　表示ノ目的

東京市ノ公園ヲ其ノ內容ヨリ各種別ニ明カナラシム

(二)　表示事項

一　總面積ヲ植樹地芝地道路廣場兒童遊園地泉建物及貸付地ニ分チ圖示ス　二　總面積ヲ更ニ既設市公園ト復興小公園ト復興大公園ニ分チ其ノ各部ヲ前項ニ準シテ細別ス　三　公園別各施設面積ヲ百分比ニテ表示ス　四　總面積ヲ既設ト復興小公園ト復興大公園トニ分チテ圖示ス

(三)　表示方法

圖表ニ依ル

（參考資料）

總面積　七七九、四八一坪九六　既設市公園六四八、〇一六坪六一　復興小公園四四二一三坪七九

復興大公園八七、二五一坪五六

第二十一　復興小公園ノ一日（繪畫縱五尺横六尺　保健局出品）

說明

(一)　表示ノ目的

復興小公園ノ利用狀態ヲ明カナラシム

(二)　表示事項

一　中央ニハ復興小公園ノ一例トシテ若宮公園ノ機能ヲ列記シ　二　左右ニ復興小公園ノ利用狀態ヲ午前六時、八時、十時、正午、午後二時、四時、六時、八時ニ分カチテ示ス

(三)　表示方法

繪畫ニ依ル

第二十二　第一塵芥處理工場模型（横型四尺×四尺高五尺　保健局出品）

說明

(一)　表示ノ目的

塵芥處理復興事業トシテ竣功セル塵芥處理工場ノ實體ヲ表示セントス

(二)　表示事項

第一塵芥處理工場ノ外形ノ全部

(三)　表示方法

模型ニヨル

（參考資料）

位置深川區拔川町二丁目七八一三番地　敷地八〇〇坪　建物鐵骨亞鉛鍍鐵板張三階建　建坪三三〇坪外ニ附屬屋二七〇坪　工費五十四萬二千餘圓　竣功昭和四年七月十一日　從業員六十八人

處分量一日二十時間七萬貫

第二十三　塵芥處分設備一覽圖（圖表縦五尺横四尺文書課出品）

說明

(一)　表示ノ目的

塵芥及屎尿取扱所竝處分工場ノ分布ヲ示シ塵芥運搬系統ヲ表示ス

(二)　表示事項

一　野天燒却場　二　復興塵芥取扱所及處理工場　三　既設塵芥竝屎尿處分場及取扱所　四　塵芥運搬系統　五　設備費負擔關係　六　燒失區域

(三)　表示方法

一　復興塵芥取扱所及處理工場竝既設塵芥及屎尿取扱所同處分場ヲ示シ塵芥運搬系統ヲ矢印ヲ以テ表ハス　二　設備費國市負擔比ヲ圖示ス

（參考資料）

一　復興塵芥取扱所二七箇所内完成一一箇所復興塵芥處理工場四箇所内完成一箇所野天燒却場一箇所既設塵芥取扱所八箇所既設屎尿處分場三箇所　二　復興塵芥處分設備費一、八五〇、〇〇〇圓　三　塵芥一日燒却量八八一、二五〇瓩　野天燒却七一八、二五〇　第一塵芥處理工場二六二、五〇〇　四　塵芥處理設備現況　陸上運搬　手車數八五〇輛　自動車數一五臺　蒐集人夫數八七一人

水上運搬　傳馬船數一六〇隻　發動機船數九隻　船夫數一九五人　船長機關手三四人　處分人夫數　野天一二七人　工場六六人　五　東京市一日ノ塵芥量九〇四、一二五瓩（昭和四年）

第二十四　中央卸賣市場竝小賣市場分布圖（圖表五尺×四尺文書課出品）

說明

(一)　表示ノ目的

中央卸賣市場本場及分場竝市設小賣市場東京府市場協會市場ノ分布ヲ示ス

(二)　表示事項

一　中央卸賣市場本場及分場　二　市設小賣市場　三　市内私立小賣市場　四　燒失區域

(三)　表示方法

各種市場ノ分布ヲ色別ニシ號ヲ以テ表示ス

（參考資料）

一　中央卸賣市場本場及分場築地本場―（復興事業）神田分場（都市計畫事業）江東分場（同）　二　東京市中央卸賣市場區域―（市内十五區二、二一九、四六〇〇人　市外二十九箇町一、六九〇、九二五人）右區域内卸賣市場―（市設三箇所　私設三二箇所）計三十五箇所　三　東京市及隣接三十箇町小賣市場―市設十三箇所府設三十三箇所私設二六四箇所計三百十